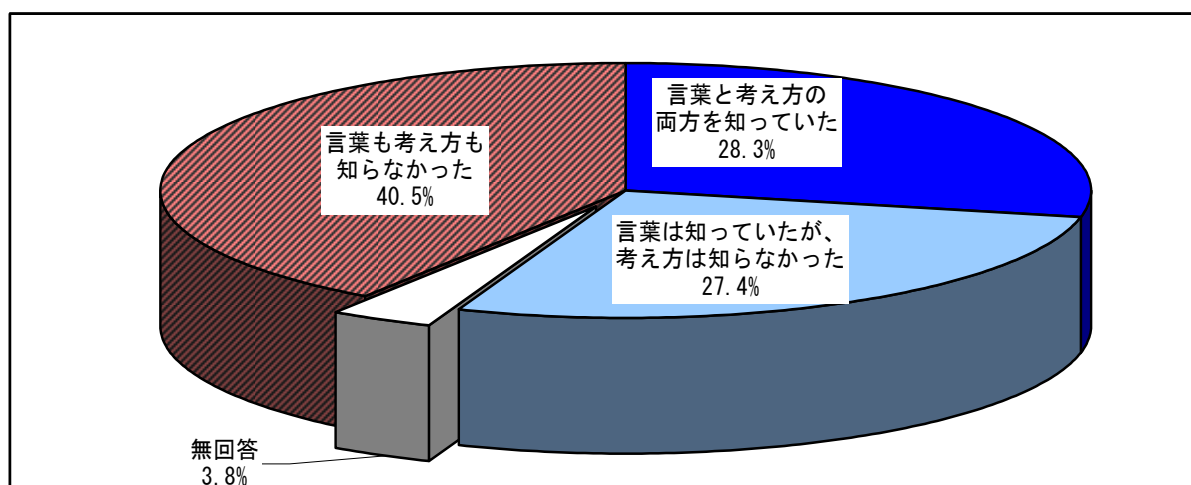


Ⅲ 調査の結果

1 「ユニバーサルデザイン」に対する理解

- 「ユニバーサルデザイン」という言葉の認知については、「言葉も考え方も知らなかった」が4割と最も多い。「言葉と考え方の両方を知っていた」は3割弱
- ユニバーサルデザインの考え方を「普及させるべきだ」は8割台半ばを超える

(1) ユニバーサルデザインの認知度



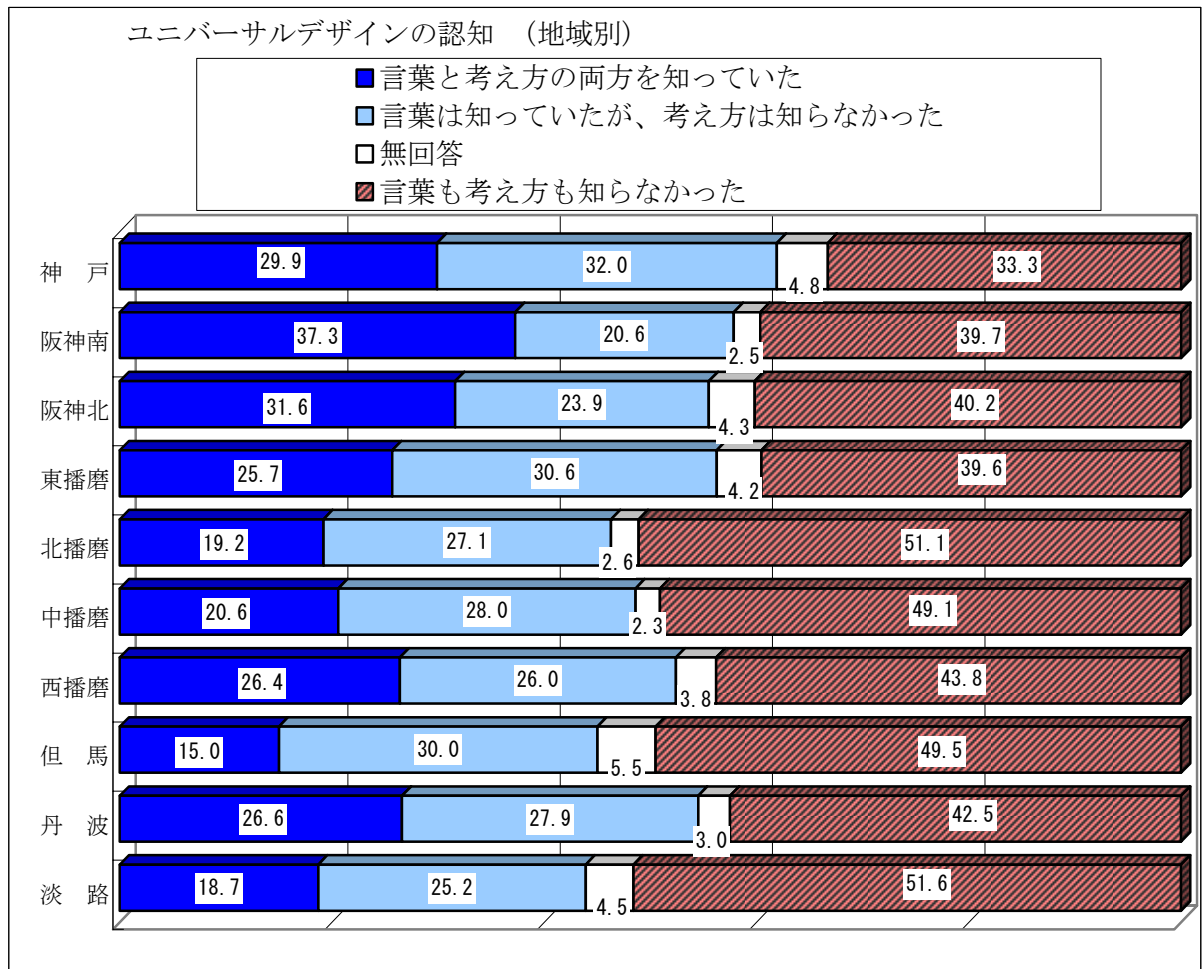
- 「言葉と考え方の両方を知っていた」は3割弱、「言葉も考え方も知らなかった」が4割

「ユニバーサルデザイン」という言葉や考え方の認知状況を聞くと、「言葉も考え方も知らなかった」(40.5%)が4割と最も多く、「言葉と考え方の両方を知っていた」(28.3%)、「言葉は知っていたが、考え方は知らなかった」(27.4%)は、ともに3割弱となっている。

■ **地域別** 「言葉と考え方の両方を知っていた」は、阪神南、阪神北、神戸で多い

地域別にみると、「言葉と考え方の両方を知っていた」は阪神南(37.3%)が約4割と最も多い。次いで、阪神北(31.6%)と神戸(29.9%)で3割前後と多く、丹波(26.6%)、西播磨(26.4%)、東播磨(25.7%)の順で続く。

一方、「言葉も考え方も知らなかった」は、淡路(51.6%)と北播磨(51.1%)で5割を超えている。



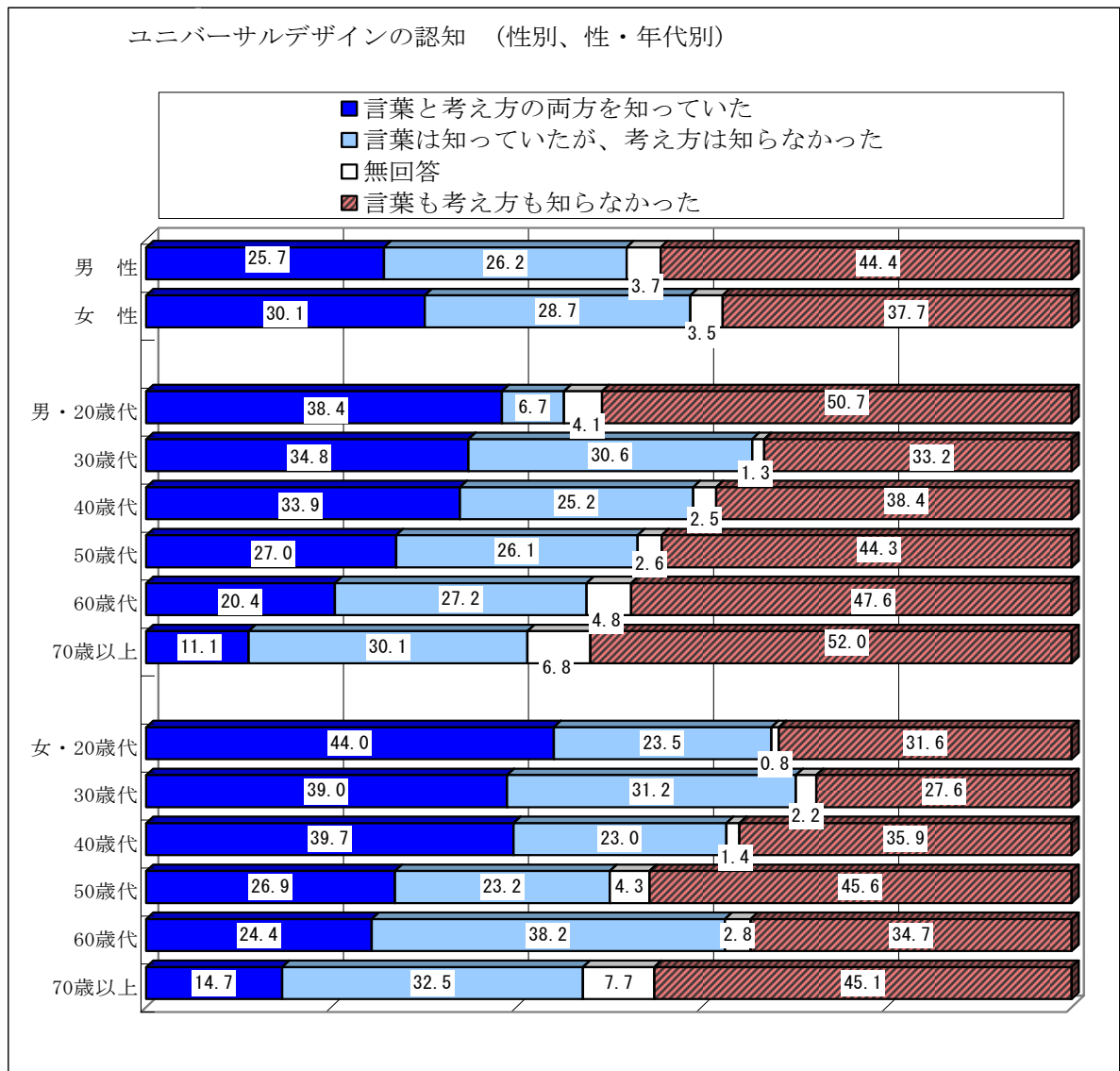
■ **性別、性・年代別** 「言葉と考え方の両方を知っていた」は、男性より女性に多く、男女とも年代の若い層で多い

性別で見ると、「言葉と考え方の両方を知っていた」は男性(25.7%)より女性(30.1%)で多く、反対に「言葉も考え方も知らなかった」は女性(37.3%)より男性(44.4%)が多い。

性・年代別で見ると、「言葉と考え方の両方を知っていた」は、男女とも年代の若い層で多く、男性では、20歳代(38.4%)で最も多く、年代が上がるるとともに少なくなっている。女性も20歳代(44.0%)で最も多いが、30歳代(39.0%)と40歳代(39.7%)では約4割、50歳代(26.9%)と60歳代(24.4%)では2割台半ば、70歳以上(14.7%)で1割台となっている。

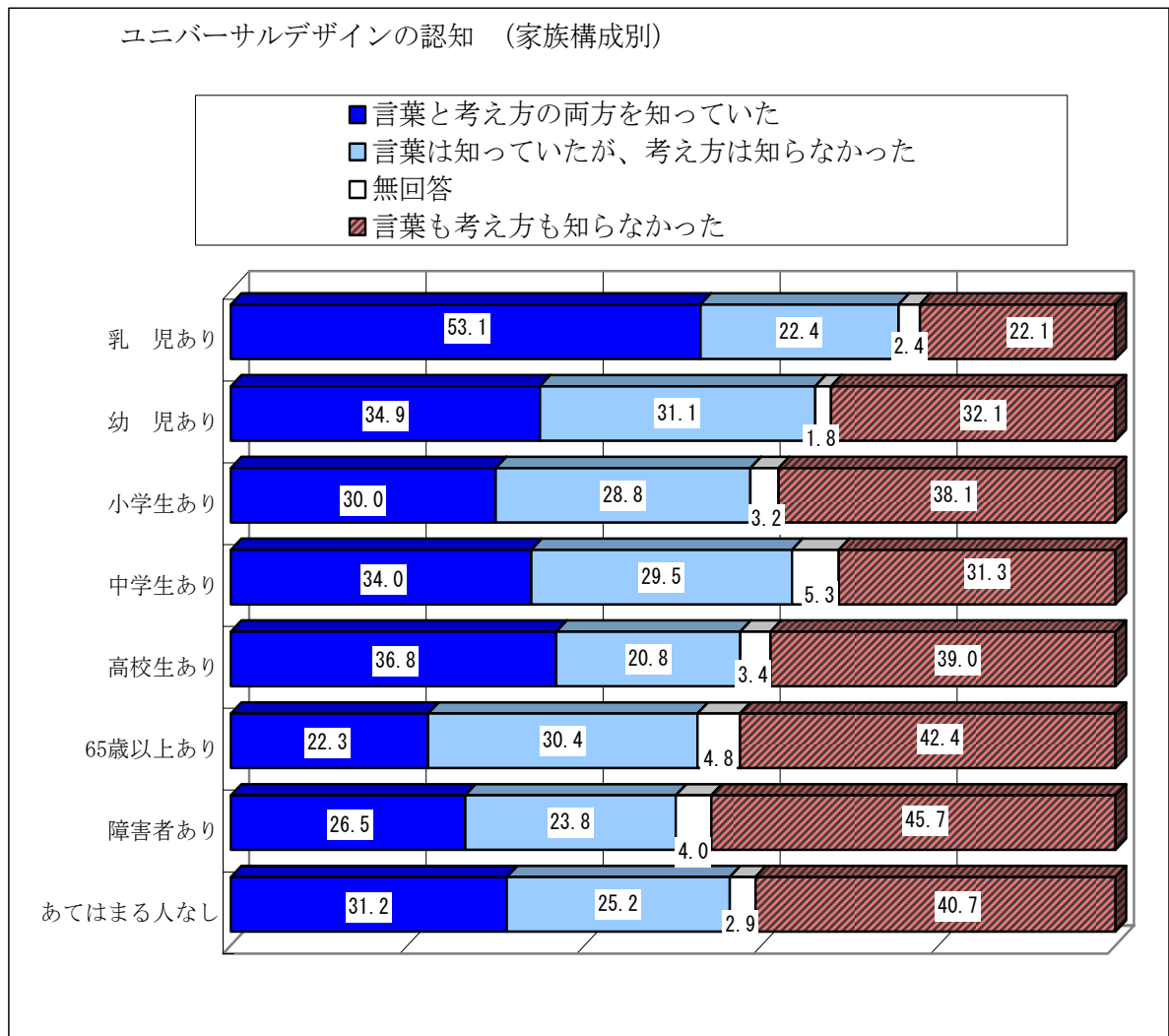
一方、「言葉も考え方も知らなかった」が最も多いのは男性の70歳以上(52.0%)で、20歳代(50.7%)とともに5割を超えている。女性も年代の高い層で比較的多く、50歳代(45.6%)や70歳以上(45.1%)では4割台半ばとなっている。

男性の20歳代では、「言葉は知っていたが、考え方は知らなかった」(6.7%)が、他の性・年代(23.0~38.2%)と比べて極端に少ない。

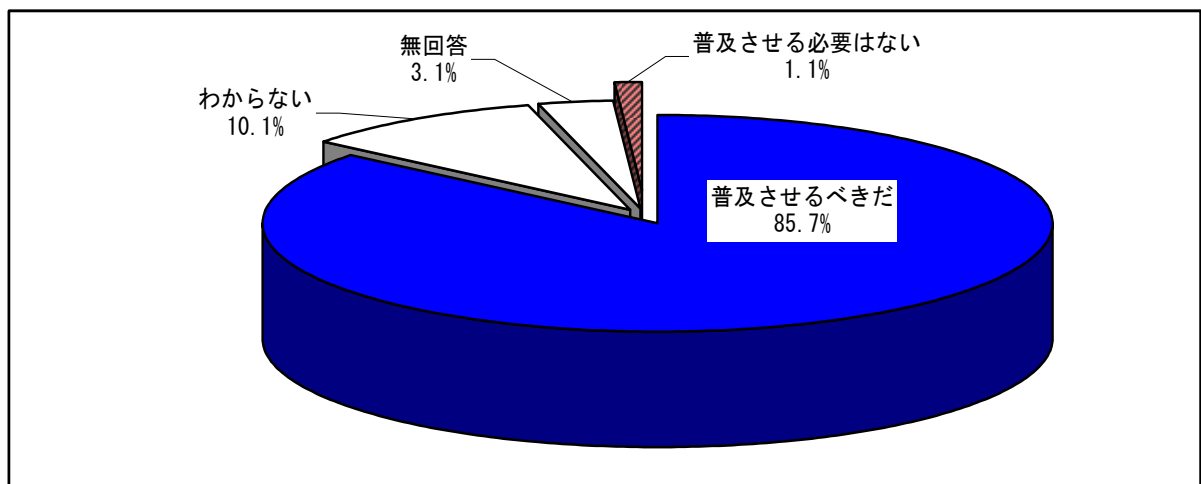


■ **家族構成別** 乳児のいる世帯では「言葉と考え方の両方を知っていた」が多い

乳児や障害者など特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯では「言葉と考え方の両方を知っていた」(53.1%)が5割を超えて多い。また、障害者のいる世帯では「言葉も考え方も知らなかった」(45.7%)が多くなっている。



(2) ユニバーサルデザインの考え方の普及

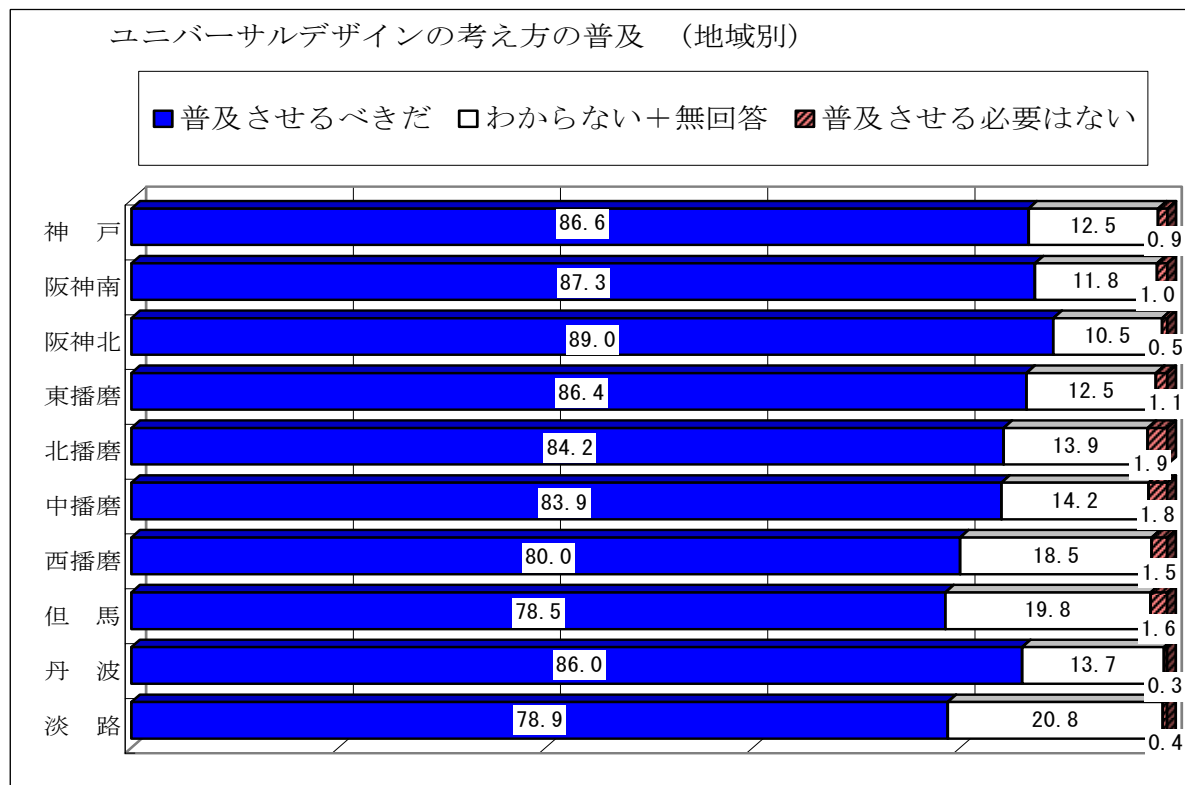


■ 「普及させるべきだ」が8割台半ばを占める

ユニバーサルデザインの考え方を普及させるべきかを聞くと、「普及させるべきだ」(85.7%)が8割台半ばと圧倒的に多く、「普及させる必要はない」(1.1%)はほとんどいない。

■ **地域別** 「普及させるべきだ」は、阪神北、阪神南、神戸、東播磨、丹波で多い

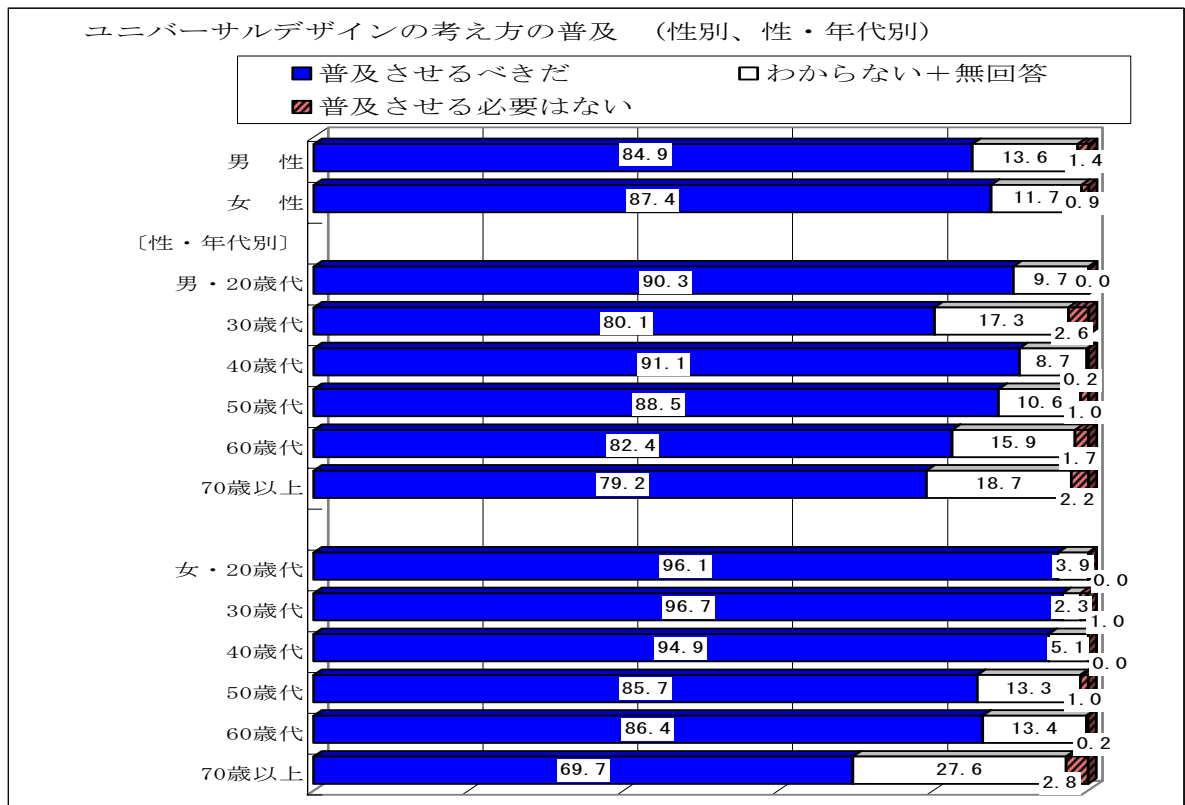
地域別にみると、「普及させるべきだ」は阪神北(89.0%)、阪神南(87.3%)、神戸(86.6%)、東播磨(86.4%)、丹波(86.0%)で8割台半ばから9割近くに及んでいる。



■ **性別、性・年代別** 「普及させるべきだ」は、女性の20～40歳代で9割台半ばに及ぶ

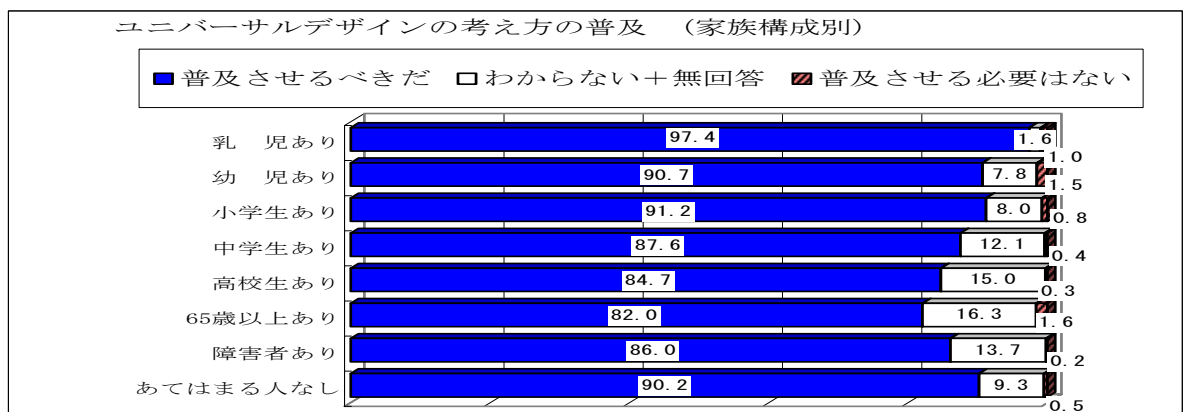
性別で見ると、「普及させるべきだ」は男性(84.9%)より女性(87.4%)が多い。

性・年代別で見ると、「普及させるべきだ」は、男性では40歳代(91.1%)、20歳代(90.3%)で多く、女性では30歳代(96.7%)、20歳代(96.1%)、40歳代(94.9%)の年代の若い層で9割台半ばに達している。



■ **家族構成別** 乳児のいる世帯では「普及させるべきだ」が9割台半ばを超える

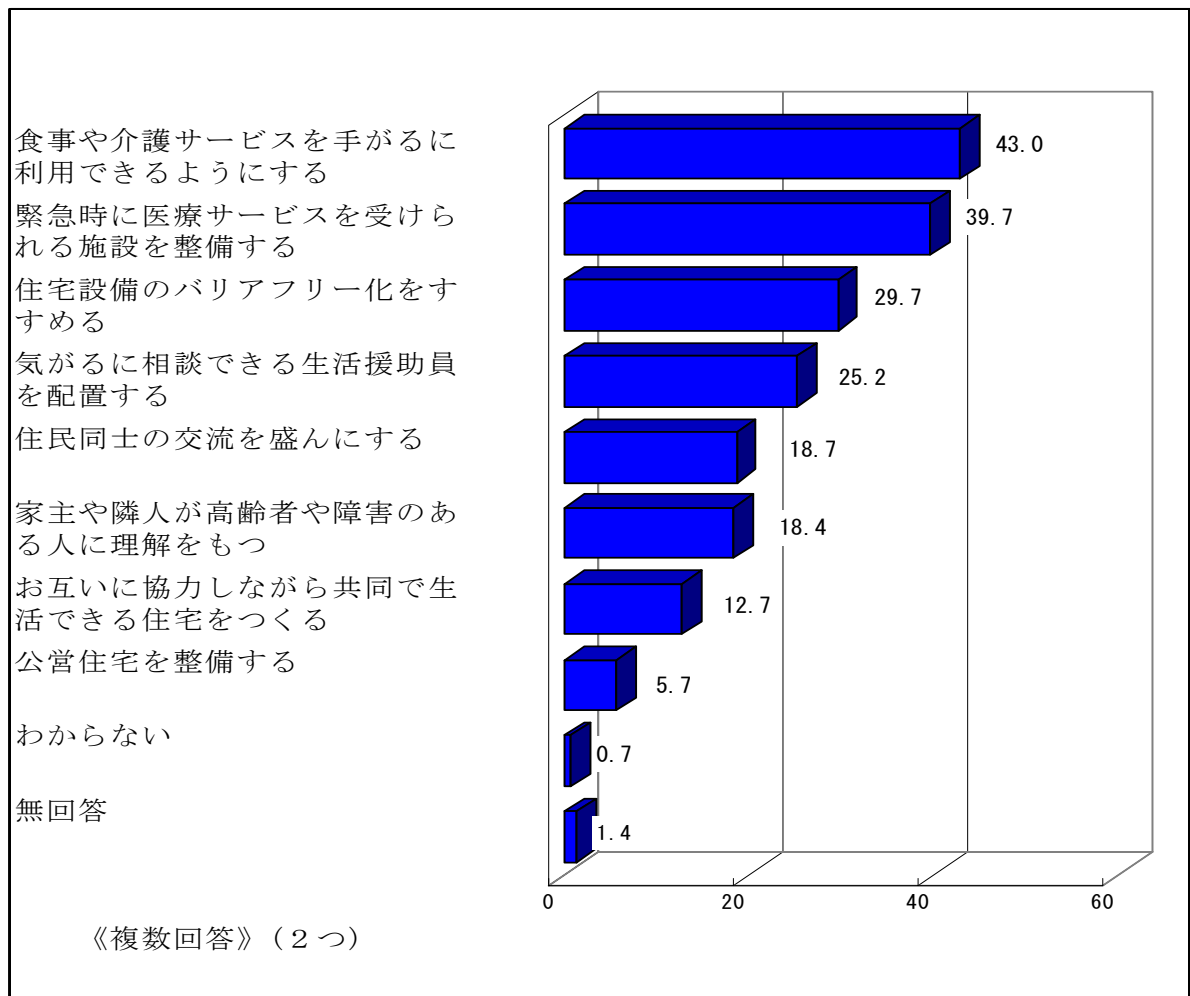
特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯や小学生のいる世帯、幼児のいる世帯では「普及させるべきだ」が9割を超えている。



2 だれもが安心して住まい、安全・快適に移動できる「まちづくり」

- 安心して住むために重要なことは、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」、次いで「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」
- ユニバーサルデザインについてのまちの整備状況では、「車いすでも利用できるカウンターやテーブル」「ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場」「お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機」で『整備されていない』が多い
- だれもが活動しやすいまちづくりに必要なことの上位は、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」、「気がるに休める休憩場所を設置する」
- まちで見かける特に問題がある「ひと」の態度は、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」、「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が上位

(1) 安心して住むために重要なこと



- 「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」が上位

年齢をとったり障害をもつことになっても、安心して住むためにどのようなことが重要かを聞いたところ、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」(43.0%)が4割を超えて最も多く、次いで「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」(39.7%)が約4割となっている。以下、「住宅設備のバリアフリー化をすすめる」(29.7%)、「気がるに相談できる生活援助員を配置する」(25.2%)までが2割を超える。

■ **地域別** 「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」は、東播磨や阪神北、「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」は、東播磨や中播磨で多い

地域別でみると、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」が最も多いのは東播磨(46.8%)で、阪神北(44.5%)、阪神南(43.6%)、中播磨(43.6%)と続いている。「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」は東播磨(42.3%)と中播磨(41.7%)で多く、「住宅設備のバリアフリー化をすすめる」は神戸(34.6%)と中播磨(32.1%)、「気がるに相談できる生活援助員を配置する」は神戸(29.4%)と淡路(27.6%)、「住民同士の交流を盛んにする」は丹波(23.9%)と但馬(23.1%)で多くなっている。

安心して住むために重要なこと [地域別]

	食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする	緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する	住宅設備のバリアフリー化をすすめる	気がるに相談できる生活援助員を配置する	住民同士の交流を盛んにする	家主や隣人が高齢者や障害のある人に理解をもつ	お互いに協力しながら共同で生活できる住宅をつくる	公営住宅を整備する	わからない+無回答
全 県	43.0	39.7	29.7	25.2	18.7	18.4	12.7	5.7	2.1
[地域別]									
神 戸	42.4	39.0	34.6	29.4	18.6	14.3	11.7	4.3	2.2
阪神南	43.6	38.7	27.0	24.5	18.6	16.2	15.2	8.8	1.5
阪神北	44.5	38.8	28.7	23.9	16.7	23.0	10.0	8.1	1.9
東播磨	46.8	42.3	26.0	21.1	20.0	21.5	11.7	4.2	2.2
北播磨	38.7	40.2	24.8	24.8	22.6	24.4	16.5	4.5	1.2
中播磨	43.6	41.7	32.1	23.4	15.6	17.4	12.4	5.5	2.7
西播磨	40.8	40.8	30.6	21.9	18.1	18.9	15.1	3.4	4.2
但 馬	37.1	39.7	21.5	25.4	23.1	23.1	14.7	4.6	2.7
丹 波	36.2	39.2	26.9	22.6	23.9	28.2	13.0	3.7	1.7
淡 路	42.7	35.4	30.5	27.6	19.1	18.3	11.0	4.5	4.1

■ **性別、性・年代別** 「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」は、男女とも30歳代と40歳代に多く、「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」は、70歳以上で多い

性別でみると、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」「気がるに相談できる生活援助員を配置する」は女性に多く、「住宅設備のバリアフリー化をすすめる」「住民同士の交流を盛んにする」は男性で多くなっている。

性・年代別でみると、「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」が最も多いのは男性では30歳代(48.1%)、女性では40歳代(60.9%)である。「緊急時に医療サービスを受け

られる施設を整備する」は男女とも年代の高い層で多く、70歳以上(男性51.9%、女性55.4%)では5割を超える。また、「家主や隣人が高齢者や障害のある人に理解をもつ」は男女とも20歳代(男性30.0%、女性32.3%)で多くなっている。

安心して住むために重要なこと 【性別】【性・年代別】

	食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする	緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する	住宅設備のバリアフリー化をすすめる	気がるに相談できる生活援助員を配置する	住民同士の交流を盛んにする	家主や隣人が高齢者や障害のある人に理解をもつ	お互いに協力しながら共同で生活できる住宅をつくる	公営住宅を整備する	わからない+無回答
全 県	43.0	39.7	29.7	25.2	18.7	18.4	12.7	5.7	2.1
〔性別〕									
男 性	39.8	39.4	31.8	22.8	22.6	18.5	12.2	5.8	2.1
女 性	45.4	40.1	28.3	27.0	15.9	18.6	12.7	5.8	2.1
〔性・年代別〕									
男・20歳代	28.7	40.1	30.7	26.5	20.1	30.0	9.6	11.4	0.0
30歳代	48.1	36.7	35.7	18.4	25.2	17.5	10.1	3.6	1.2
40歳代	44.1	34.1	33.5	29.0	22.0	15.1	13.9	7.2	0.5
50歳代	42.4	35.9	36.3	23.1	20.3	13.8	12.4	10.9	1.0
60歳代	40.7	38.7	28.5	22.1	24.4	20.5	15.3	1.5	3.2
70歳以上	29.1	51.9	25.7	19.6	23.2	21.3	9.4	2.0	5.1
女・20歳代	49.1	30.9	33.7	22.6	5.9	32.3	13.5	8.9	0.8
30歳代	55.8	30.3	29.0	24.5	18.4	23.9	10.6	7.2	0.1
40歳代	60.9	30.9	26.2	29.3	15.3	15.7	10.5	8.6	1.3
50歳代	49.3	42.6	25.6	25.8	19.5	15.3	13.5	3.1	1.4
60歳代	36.5	44.9	34.4	27.1	15.2	14.6	18.4	2.4	2.1
70歳以上	22.5	55.4	23.7	31.1	15.7	17.2	9.0	7.4	6.2

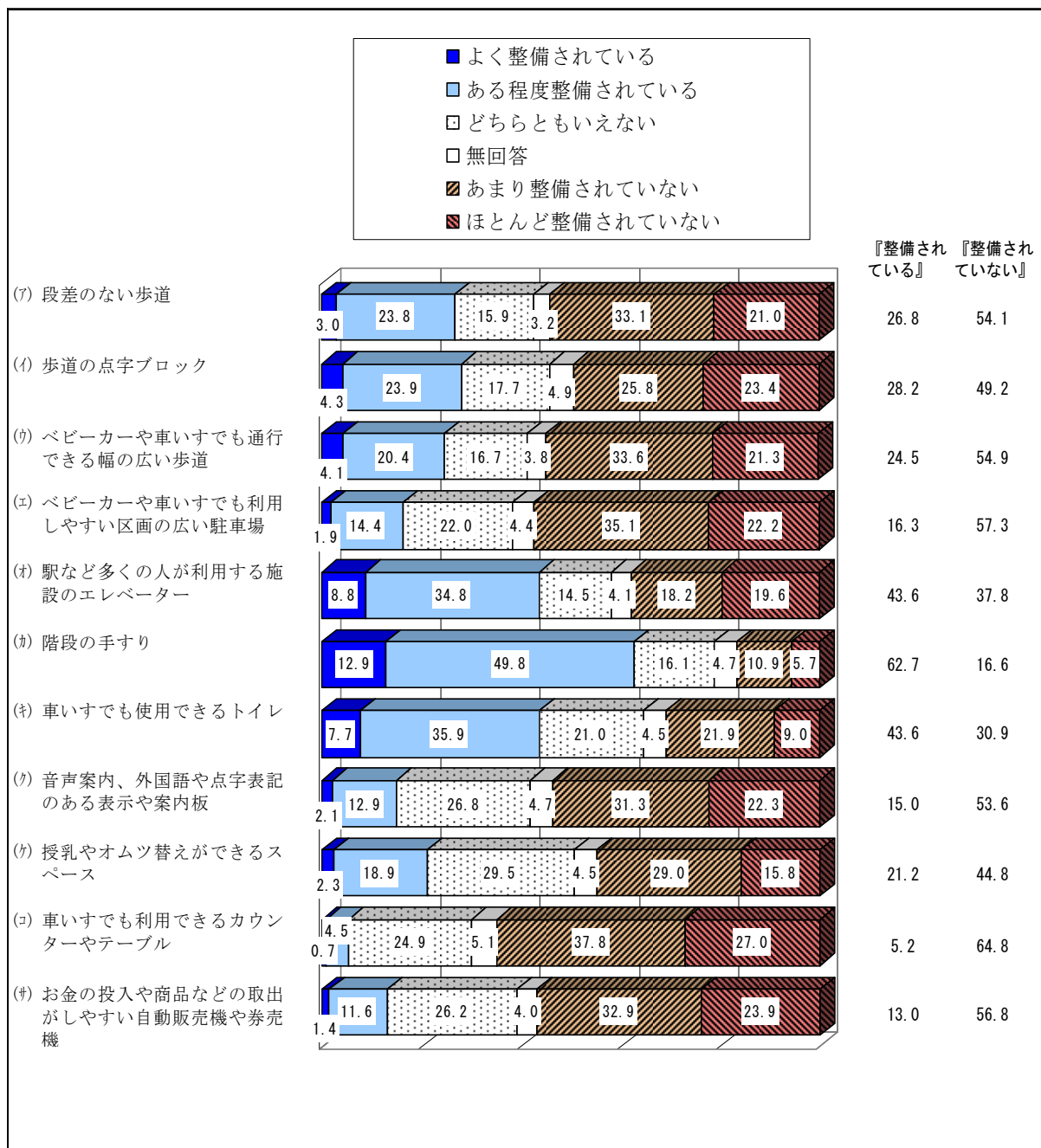
■ 家族構成別 乳児や障害者の人のいる世帯などでは「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、幼児がいる世帯や小学生がいる世帯で「食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする」が多い。また、乳児のいる世帯や中学生のいる世帯、65歳以上のいる世帯、障害者のいる世帯では、「緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する」が多くなっている。

安心して住むために重要なこと 【家族構成別】

	食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする	緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する	住宅設備のバリアフリー化をすすめる	気がるに相談できる生活援助員を配置する	住民同士の交流を盛んにする	家主や隣人が高齢者や障害のある人に理解をもつ	お互いに協力しながら共同で生活できる住宅をつくる	公営住宅を整備する	わからない+無回答
全 県	43.0	39.7	29.7	25.2	18.7	18.4	12.7	5.7	2.1
〔家族構成別〕									
乳 児あり	45.4	45.6	20.4	27.4	21.4	19.4	3.5	14.7	0.4
幼 児あり	50.6	36.9	31.8	21.9	21.1	22.4	7.5	6.6	0.3
小学生あり	49.6	37.5	30.7	28.4	17.8	17.0	9.8	5.3	0.8
中学生あり	38.0	41.0	35.6	28.6	21.4	15.6	11.9	4.0	0.5
高校生あり	48.3	33.4	27.7	30.1	23.4	20.4	10.0	4.5	0.8
65歳以上あり	37.3	43.9	28.5	26.1	18.4	18.5	12.8	4.3	3.5
障害者あり	43.1	44.9	32.2	20.5	11.5	21.6	14.8	5.7	0.9
あてはまる人なし	46.6	35.9	28.9	26.2	18.2	17.5	15.1	7.3	1.6

(2) 居住地域の整備状況



- 『整備されている』は、「階段の手すり」「駅など多くの人が利用する施設のエレベーター」「車いすでも使用できるトイレ」が多い。一方、『整備されていない』は、「車いすでも利用できるカウンターやテーブル」「ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道」「お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機」で多くなっている

自宅周辺のまちのユニバーサル化について、11項目にわたり整備状況を聞いたところ、「(カ) 階段の手すり」では、「よく整備されている」(12.9%)と「ある程度整備されている」(49.8%)を合わせた『整備されている』(62.7%)が6割を超える。次いで、「(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター」(43.6%)と「(キ) 車いすでも使用できるトイレ」(43.6%)が続き、以

下、「(イ)歩道の点字ブロック」(28.2%)、「(ア)段差のない歩道」(26.8%)、「(ウ)ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道」(24.5%)の順で続く。

一方、「あまり整備されていない」と「ほとんど整備されていない」を合わせた『整備されていない』は、「(コ)車いすでも利用できるカウンターやテーブル」(64.8%)で6割台半ば近く、「(エ)ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場」(57.3%)が6割弱で続く。以下、「(サ)お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機」(56.8%)、「(ウ)ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道」(54.9%)、「(ア)段差のない歩道」(54.1%)の順となっている。

なお、『整備されている』が『整備されていない』を上回っているのは、「(カ)階段の手すり」、「(オ)駅など多くの人を利用する施設のエレベーター」、「(キ)車いすでも使用できるトイレ」の3項目だけである。

■ **地域別** 「駅など多くの人を利用する施設のエレベーター」「階段の手すり」は、地域により評価の違いが目立つ

「よく整備されている」と「ある程度整備されている」を合わせた『整備されている』、また、「あまり整備されていない」と「ほとんど整備されていない」を合わせた『整備されていない』を地域別でみると、次のとおりである。

(ア)段差のない歩道

『整備されている』は、阪神南(31.9%)、神戸(30.3%)、阪神北(29.7%)で3割程度となっている。一方、『整備されていない』は、東播磨(61.9%)、淡路(61.8%)、中播磨(61.5%)で6割を超え、いずれの地域も『整備されている』を上回っている。

(イ)歩道の点字ブロック

『整備されている』は、阪神北(33.1%)と神戸(31.6%)で3割を超えている。一方、『整備されていない』は、淡路(65.0%)、丹波(63.8%)、但馬(60.3%)で6割台、北播磨(58.3%)、東播磨(55.9%)で5割台半ばを超え、いずれの地域も『整備されている』を上回っている。

(ウ)ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道

『整備されている』は、神戸(35.1%)で3割台半ばと、他の地域よりも多くなっている。一方、『整備されていない』は、東播磨(64.5%)、淡路(63.9%)、北播磨(62.0%)で6割を超え、いずれの地域も『整備されている』を上回っている。

(エ)ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場

『整備されている』が最も多いのは北播磨(23.3%)で2割超。一方、『整備されていない』は、阪神南(60.8%)、神戸(60.2%)、東播磨(59.3%)で6割程度、淡路(64.2%)では6割台半ばに及び、いずれの地域も『整備されている』を上回っている。

(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター

『整備されている』は、神戸(60.6%)、阪神北(60.3%)で6割と多く、阪神南(45.1%)が4割台半ばで続いており、これら3地域では『整備されていない』を上回っている。一方、『整備されていない』は、但馬(65.8%)で6割台半ばに及び、丹波(56.8%)が5割台半ば、中播磨(50.9%)、北播磨(50.4%)が5割と続き、地域によって差がみられる。

(カ) 階段の手すり

『整備されている』は、神戸(74.4%)で約7割台半ば、阪神南(69.1%)、阪神北(68.4%)で7割弱となっている。一方、『整備されていない』は、淡路(38.7%)で約4割となり、『整備されている』を上回っている。「(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター」と同様、地域によって差がみられる。

(キ) 車いすでも使用できるトイレ

『整備されている』は、阪神北(48.3%)、神戸(47.2%)で約5割、阪神南(44.2%)、丹波(44.2%)では約4割台半ばとなっている。一方、『整備されていない』は、中播磨(39.5%)、東播磨(39.2%)で約4割となり、東播磨では『整備されていない』が『整備されている』を上回っている。

(ク) 音声案内、外国語や点字のある表示や案内板

『整備されている』が最も多いのは神戸(23.0%)で2割超、中播磨(16.9%)が1割台半ばで続いている。一方、『整備されていない』は、北播磨(66.9%)、但馬(66.5%)、丹波(66.4%)、淡路(65.9%)で6割台半ばを超え、いずれの地域でも『整備されている』を上回っている。

(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース

『整備されている』は、中播磨(27.1%)と阪神北(25.8%)で2割台半ばを超えている。一方、『整備されていない』は、但馬(56.7%)、淡路(52.4%)、丹波(50.2%)で5割を超え、いずれの地域も『整備されている』を上回っている。

(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル

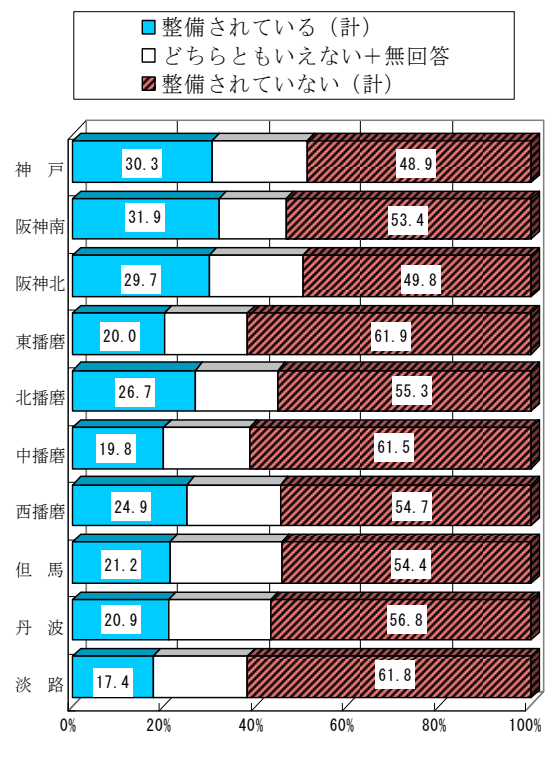
『整備されている』は、いずれの地域も1割に満たない。『整備されていない』は、淡路(71.6%)、但馬(68.7%)、阪神南(68.1%)、丹波(67.1%)で7割前後と多くなっている。

(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機

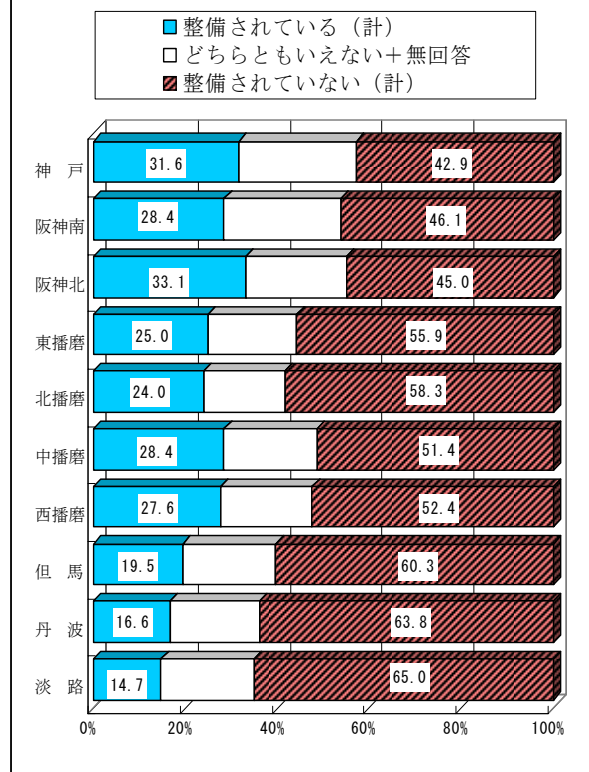
『整備されている』が最も多いのは中播磨(17.5%)だが、他の地域と大きな差はない。一方、『整備されていない』は、但馬(62.9%)、丹波(61.1%)、淡路(60.9%)、東播磨(60.0%)で6割を超えと多く、いずれの地域でも『整備されている』を上回っている。

居住地域の整備状況（地域別）

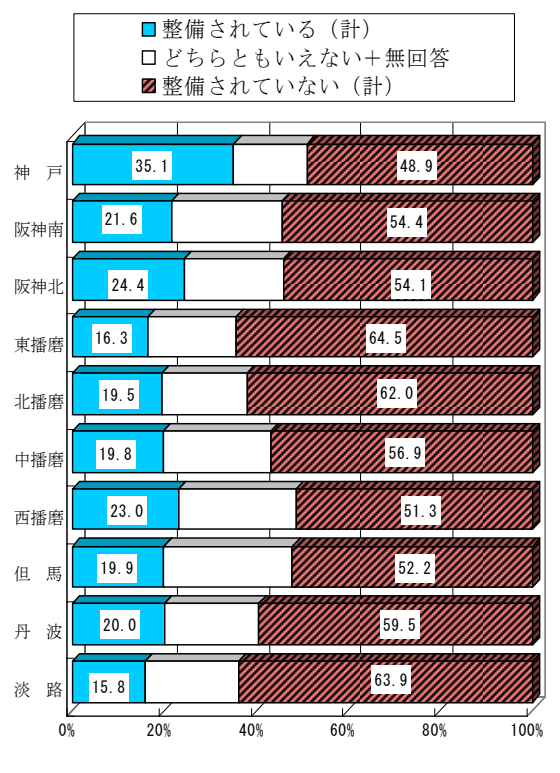
(ア) 段差のない歩道



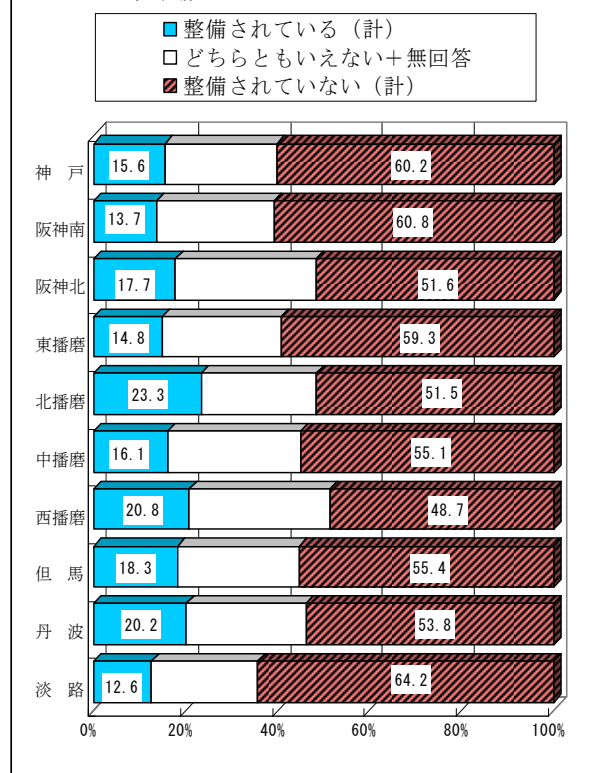
(イ) 歩道の点字ブロック



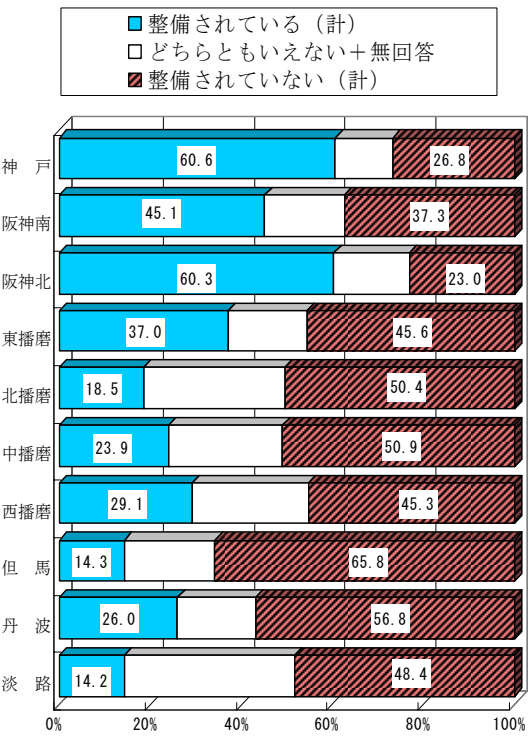
(ウ) ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道



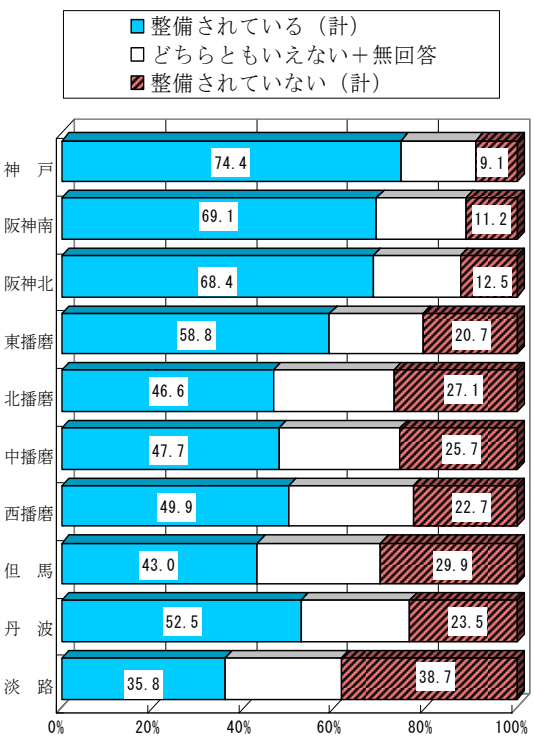
(エ) ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場



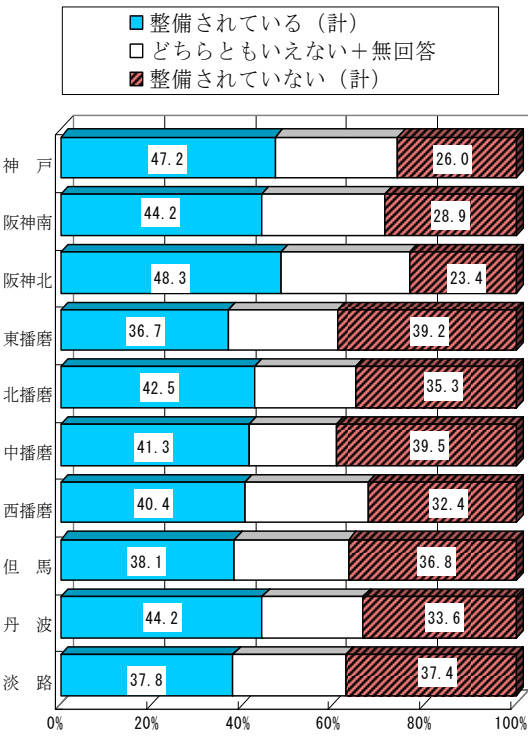
(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター



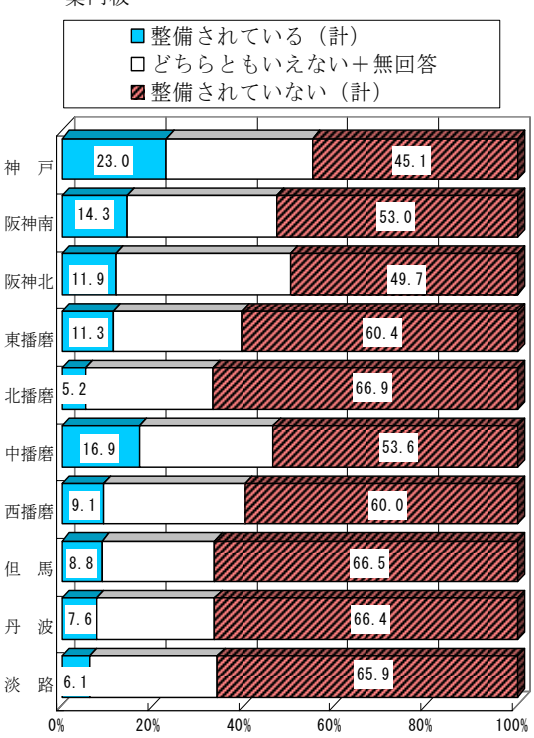
(カ) 階段の手すり



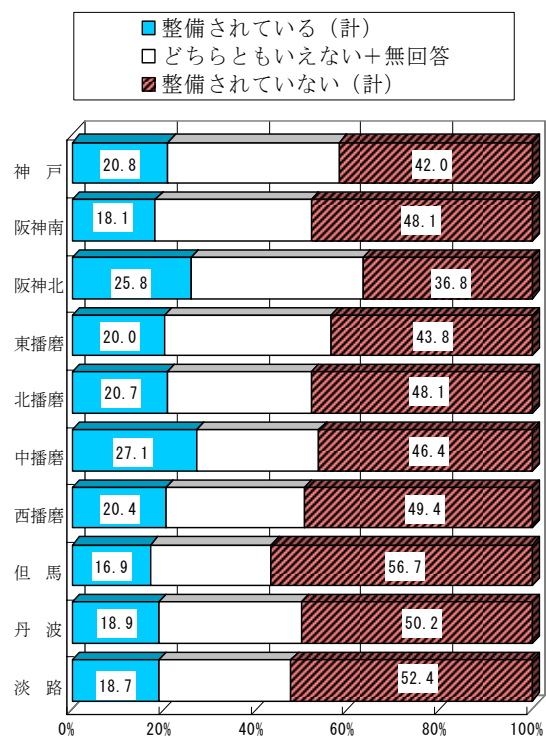
(キ) 車いすでも使用できるトイレ



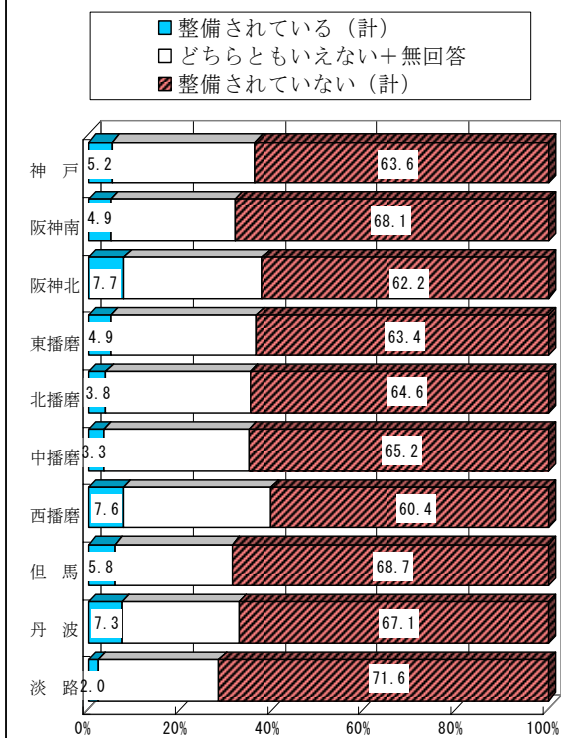
(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板



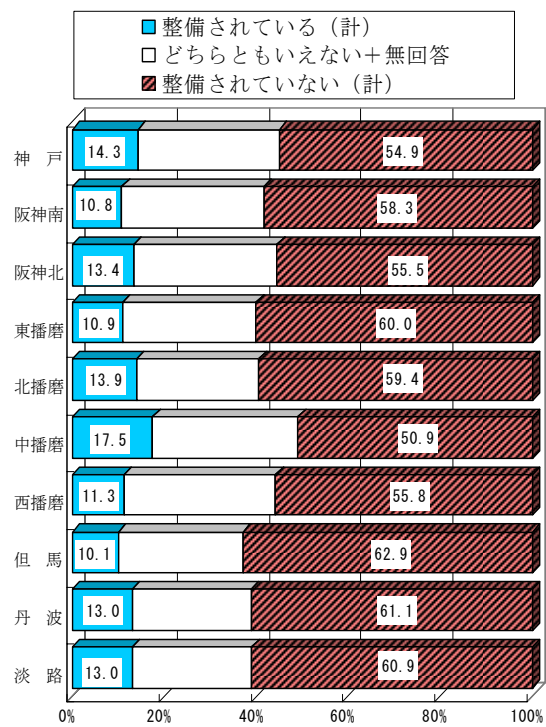
(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース



(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル



(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機



- **性別、性・年代別** 全体的に男女差はほとんどなく、最も差が大きいのは「授乳やオムツ替えができるスペース」で約8ポイント。「お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機」や「車いすでも利用できるカウンターやテーブル」で、比較的、年代間の差が大きい

「よく整備されている」と「ある程度整備されている」を合わせた『整備されている』、また、「あまり整備されていない」と「ほとんど整備されていない」を合わせた『整備されていない』を性別、性・年代別で見ると、次のとおりである。

(ア) 段差のない歩道

性別で見ると、『整備されている』、『整備されていない』ともに男女差はほとんどない。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の60歳代(37.9%)で約4割となり、男性の40歳代(30.6%)や女性の60歳代(30.3%)、70歳以上(35.4%)では3割を超えている。一方、『整備されていない』は、男性の20歳代(59.3%)や30歳代(60.4%)、50歳代(59.9%)、また、女性の30歳代(63.5%)及び50歳代(61.3%)で6割前後と多くなっている。

(イ) 歩道の点字ブロック

性別で見ると、『整備されている』は、女性(26.3%)より男性(31.7%)で多く、『整備されていない』は、男性(46.9%)よりも女性(50.1%)の方が多い。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の20歳代(42.0%)で4割を超え、女性の20歳代(36.7%)は3割台半ばを超えている。一方、『整備されていない』は、男性の30歳代(48.4%)、50歳代(50.0%)、60歳代(48.7%)で約5割、女性の30歳代(55.1%)、50歳代(54.7%)では5割台半ばとなっている。

(ウ) ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道

性別で見ると、『整備されている』は、女性(23.7%)より男性(26.2%)でやや多く、『整備されていない』は男性(51.6%)より女性(57.0%)の方が多い。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(35.9%)で3割台半ばを超え、女性の20歳代(29.0%)が約3割で続いている。一方、『整備されていない』は、男性の20歳代(59.6%)や30歳代(61.4%)、女性の40歳代(63.3%)で6割前後、女性の30歳代(67.3%)では6割台半ばを超えている。

(エ) ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場

性別で見ると、『整備されている』は、男性(14.3%)より女性(17.3%)でやや多く、『整備されていない』は、女性(54.9%)より男性(62.0%)が多い。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(21.3%)や女性の30歳代(22.1%)及び40歳代(21.0%)で2割を超える。一方、『整備されていない』は、男性の30歳代(66.1%)と50歳代(66.0%)で6割台半ばを超え、女性の50歳代(62.8%)と60歳代(59.6%)で6割前後と多くなっている。

(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター

性別で見ると、『整備されている』、『整備されていない』ともに男女差はほとんどない。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(47.5%)や女性の30歳代(48.3%)、40歳代(52.9%)で5割前後となっている。一方、『整備されていない』は、男性の20歳代(47.4%)や女性の20歳代(45.8%)で4割台半ばを超えている。

(カ) 階段の手すり

性別で見ると、『整備されている』は、女性(61.3%)より男性(64.9%)でやや多い。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の60歳代(70.2%)及び70歳以上(67.5%)や女性の20歳代(72.1%)で7割前後となっている。一方、『整備されていない』は、男性の40歳代(22.5%)や女性の50歳代(19.7%)及び60歳代(23.2%)で2割前後となっている。

(キ) 車いすでも使用できるトイレ

性別で見ると、『整備されている』は、女性(42.1%)より男性(45.9%)でやや多い。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(52.8%)、50歳代(49.1%)、60歳代(48.8%)で5割前後、女性の20歳代(47.8%)及び40歳代(46.4%)では4割台半ばを超えている。一方、『整備されていない』は、男性の70歳以上(40.2%)で4割、女性の50歳代(35.5%)、60歳代(36.2%)で3割台半ばを超えている。

(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板

性別で見ると、『整備されている』、『整備されていない』ともに男女差はほとんどない。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(22.5%)や女性の20歳代(19.9%)、及び30歳代(21.1%)で2割前後となっている。一方、『整備されていない』は、男性の50歳代(60.2%)、60歳代(59.2%)、70歳以上(56.1%)、女性の50歳代(58.6%)及び60歳代(61.5%)など、年代の高い層で多くなっている。

(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース

性別で見ると、『整備されている』は、男性(16.5%)より女性(24.5%)で多く、『整備されていない』は、女性(41.4%)より男性(49.1%)の方が多く、男女差は約8ポイントと最も大きい。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の40歳代(24.6%)や女性の20歳代(28.6%)及び50歳代(25.6%)で多くなっている。一方、『整備されていない』は、男性の20歳代(52.7%)、50歳代(50.7%)、60歳代(51.0%)で5割を超え、女性の20歳代(46.7%)、50歳代(46.4%)、60歳代(46.2%)で4割台半ばを超えている。

(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル

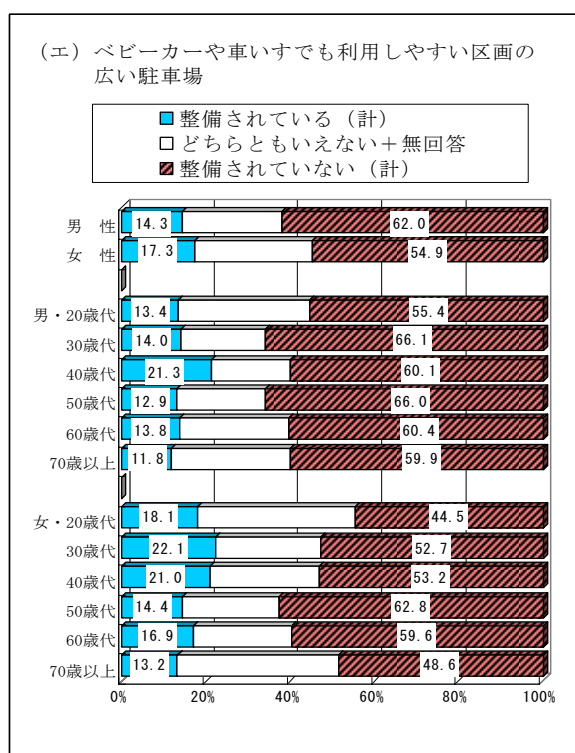
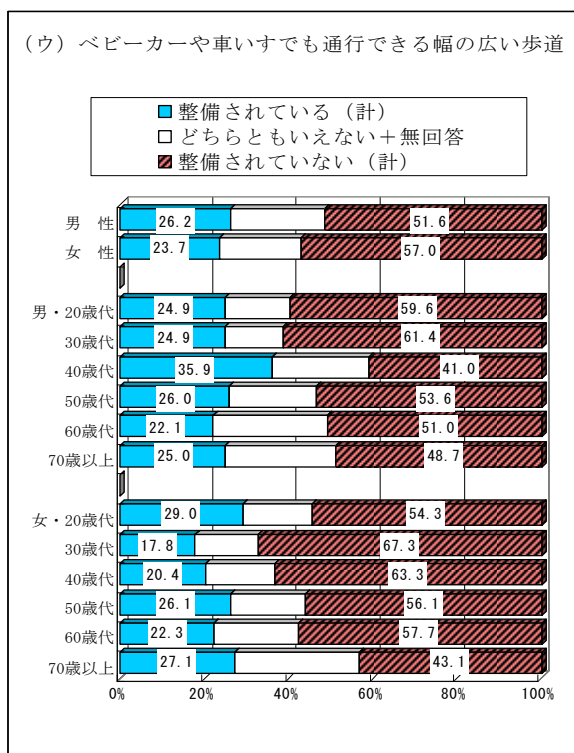
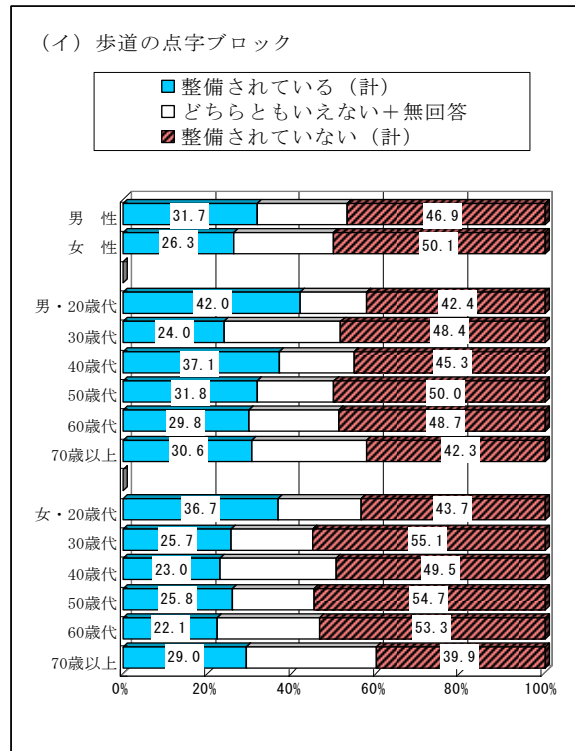
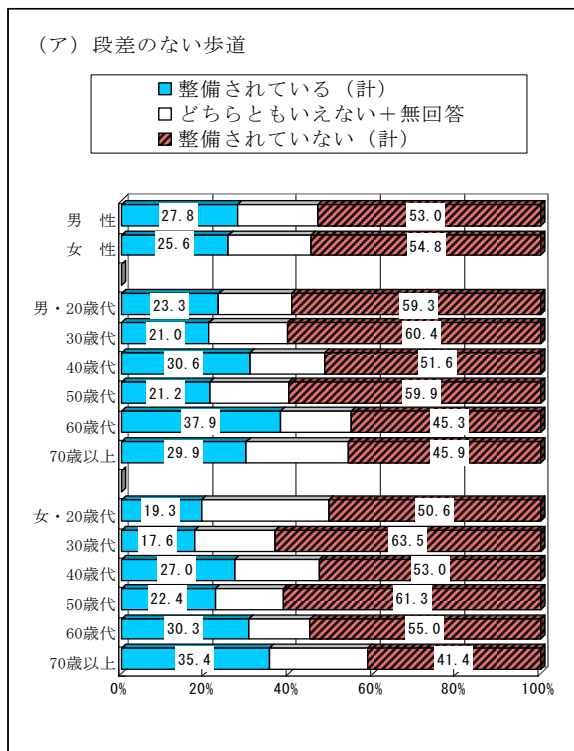
性別で見ると、『整備されている』、『整備されていない』ともに男女差はほとんどない。

性・年代別で見ると、『整備されている』は、男女ともいずれの年代も1割に満たない。一方、『整備されていない』は、男性の40歳代(74.0%)や女性の20歳代(76.2%)及び30歳代(75.4%)、50歳代(71.8%)で7割を超えて多くなっている。

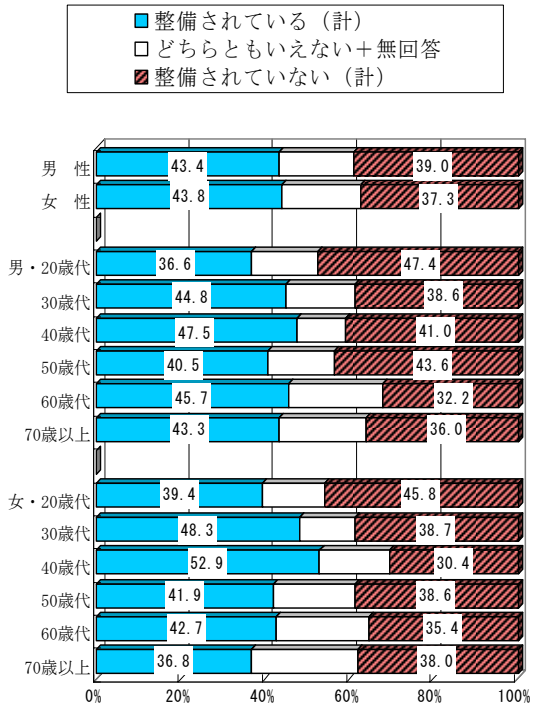
(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機

性別で見ると、『整備されている』、『整備されていない』ともに男女差はほとんどない。
 性・年代別で見ると、『整備されている』は、男性の70歳以上(17.2%)や女性の60歳代(15.2%)
 及び70歳以上(19.5%)など年代の高い層で多くなっている。一方、『整備されていない』は、
 男性の20歳代(74.8%)や女性の20歳代(69.4%)で多くなっており、年代間の差が最も大きい。

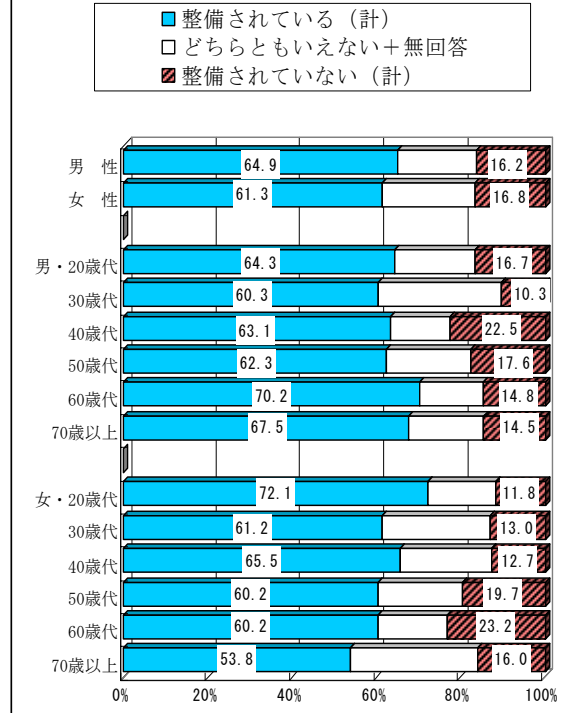
居住地域の整備状況 (性別、性・年代別)



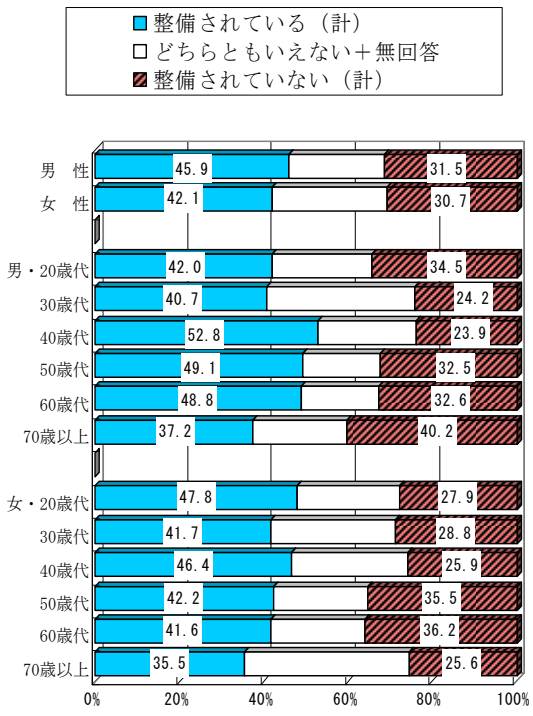
(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター



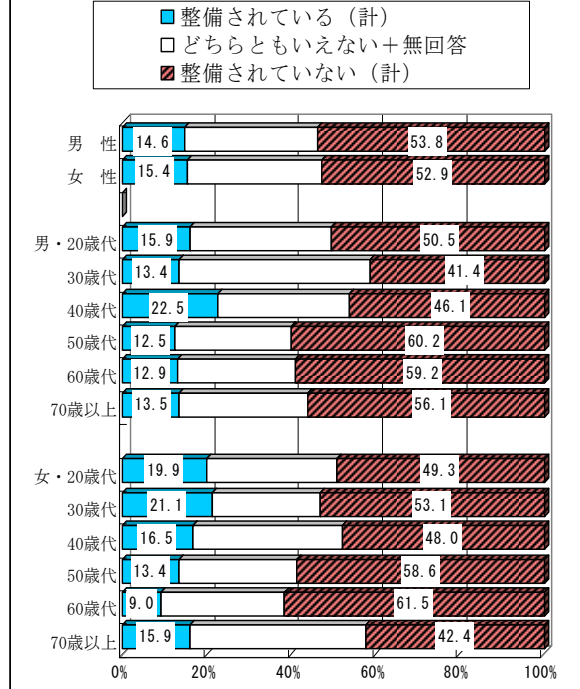
(カ) 階段の手すり



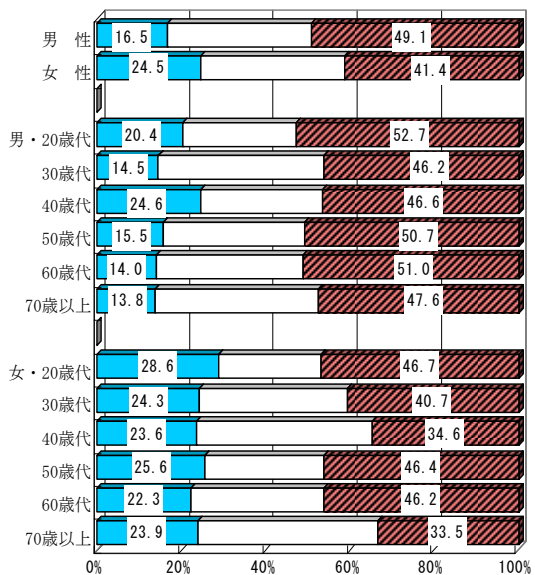
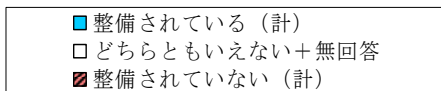
(キ) 車いすでも使用できるトイレ



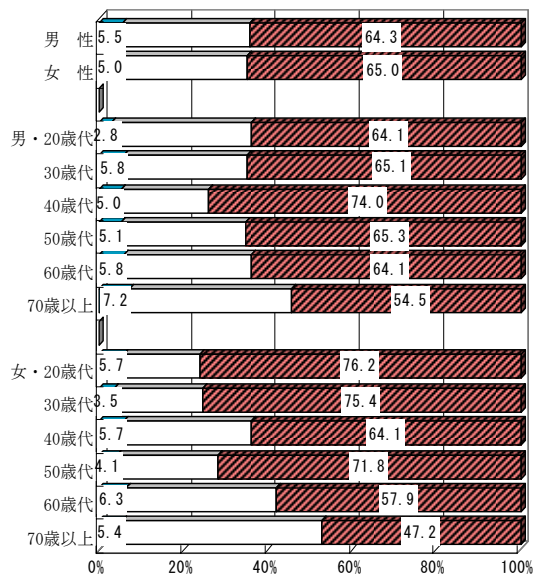
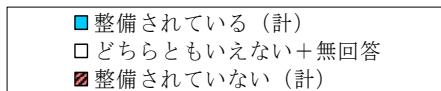
(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板



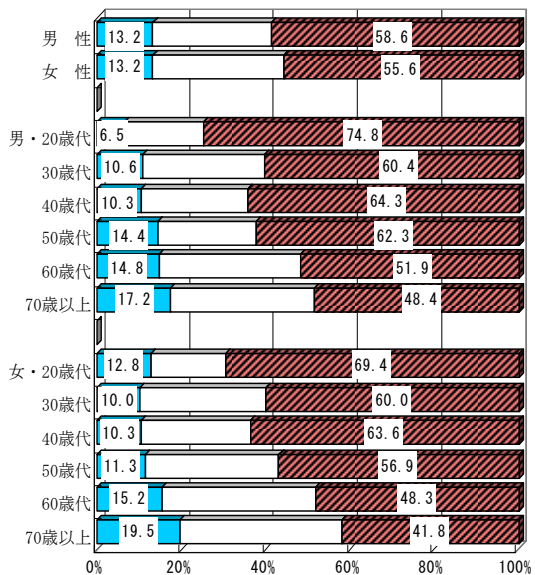
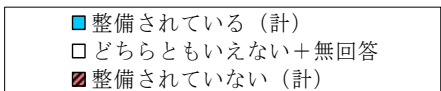
(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース



(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル



(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機



■ **家族構成別** 乳児のいる世帯では『整備されていない』が多い

特定の構成員を含む家族ごとに、「あまり整備されていない」と「ほとんど整備されていない」を合わせた『整備されていない』をみると、次のとおりである。

(ア) 段差のない歩道

乳児のいる世帯や幼児のいる世帯で6割を超えて多くなっている。

(イ) 歩道の点字ブロック

乳児のいる世帯や幼児のいる世帯、障害者のいる世帯で5割台半ばと多くなっている。

(ウ) ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道

乳児のいる世帯や幼児のいる世帯で多くなっている。

(エ) ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場

乳児のいる世帯で約7割と多くなっている。

(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター

幼児のいる世帯や乳児のいる世帯、障害者のいる世帯で多くなっている。

(カ) 階段の手すり

いずれの世帯も1割台半ばから2割程度である。

(キ) 車いすでも使用できるトイレ

障害者のいる世帯で多くなっている。

(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板

乳児のいる世帯で多くなっている。

(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース

乳児のいる世帯で多くなっている。

(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル

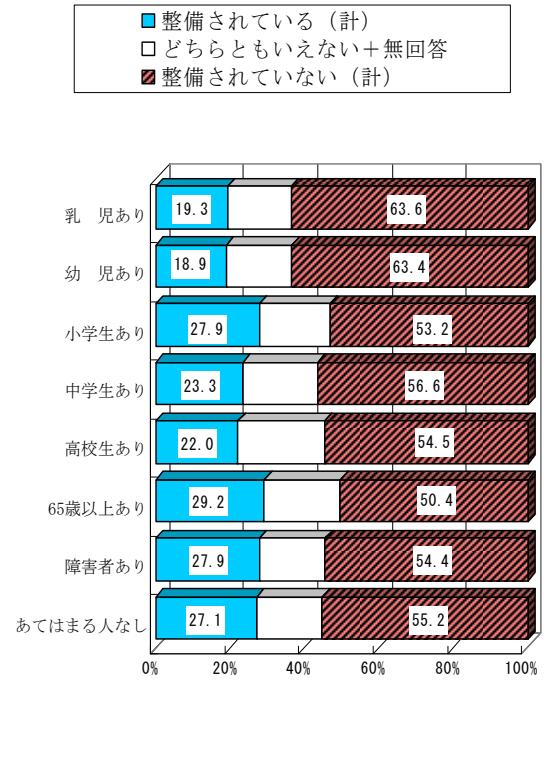
乳児のいる世帯で多くなっている。

(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機

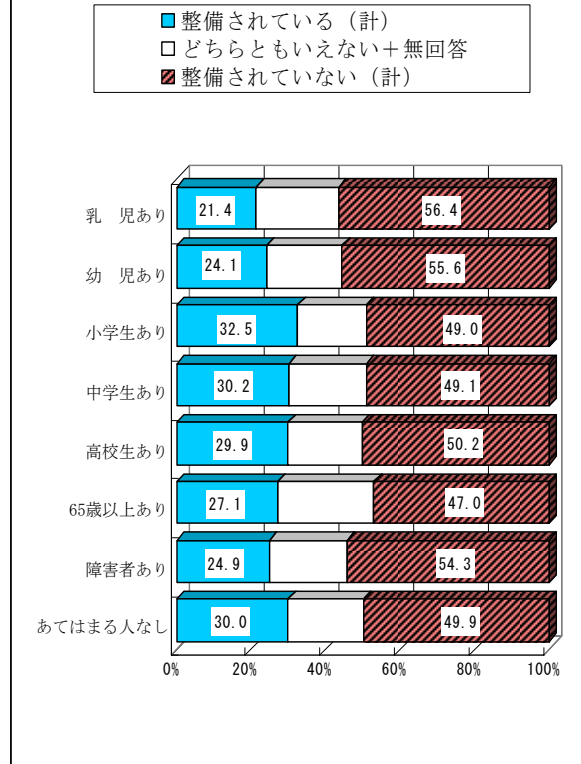
乳児のいる世帯で多くなっている。

居住地域の整備状況（家族構成別）

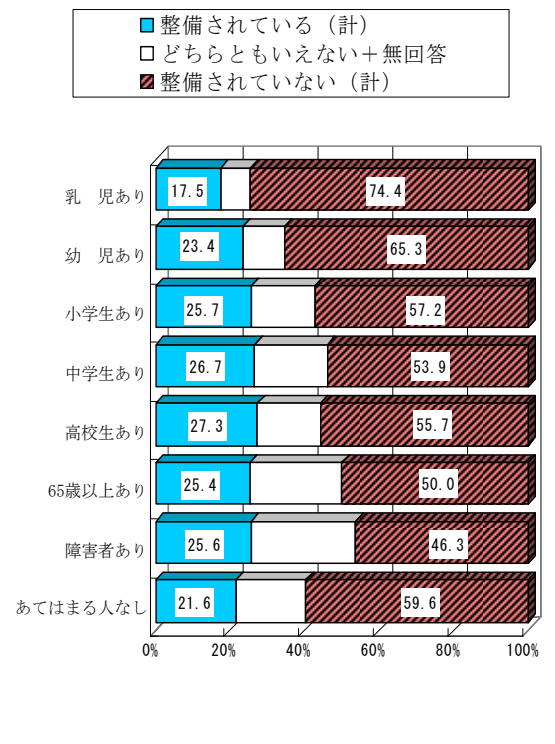
(ア) 段差のない歩道



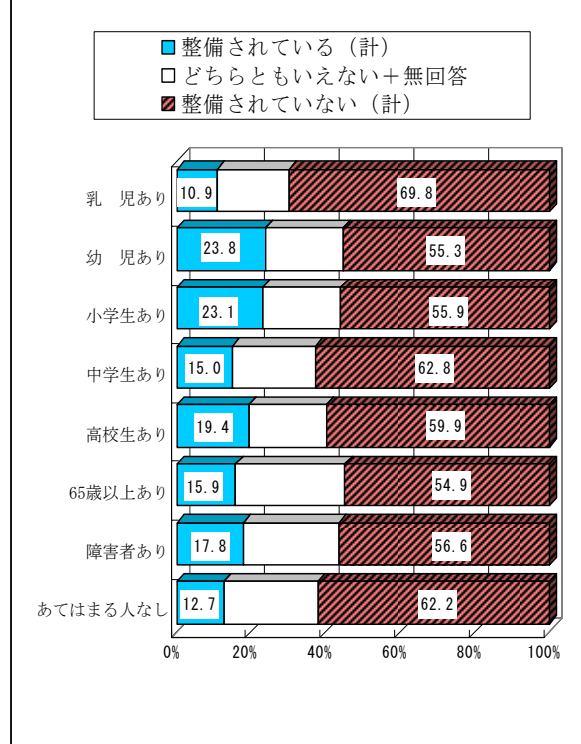
(イ) 歩道の点字ブロック



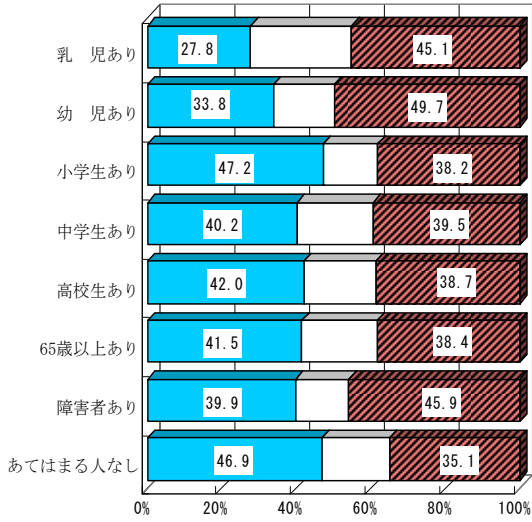
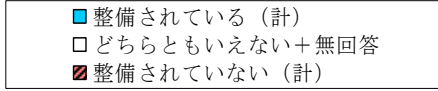
(ウ) ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道



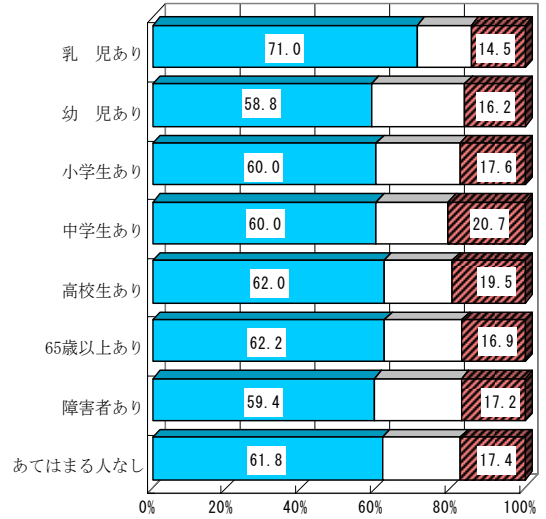
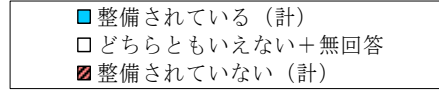
(エ) ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場



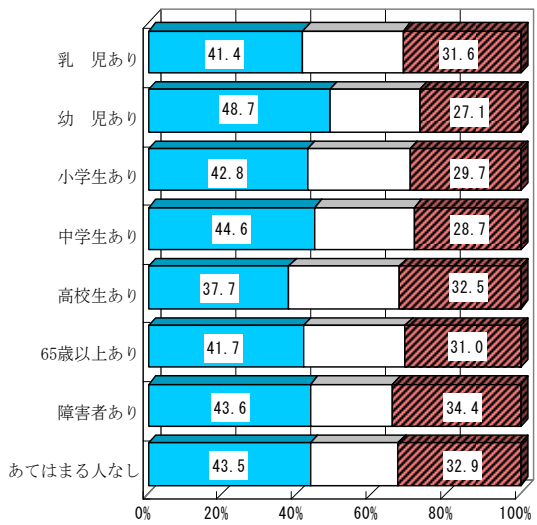
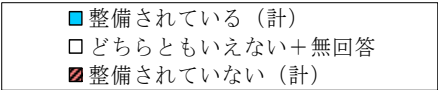
(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター



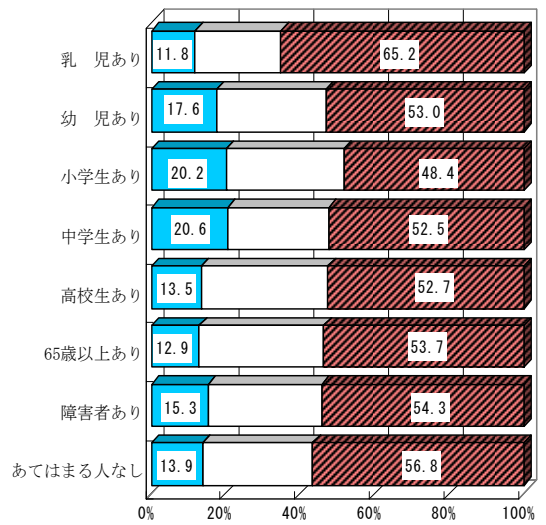
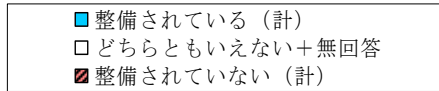
(カ) 階段の手すり



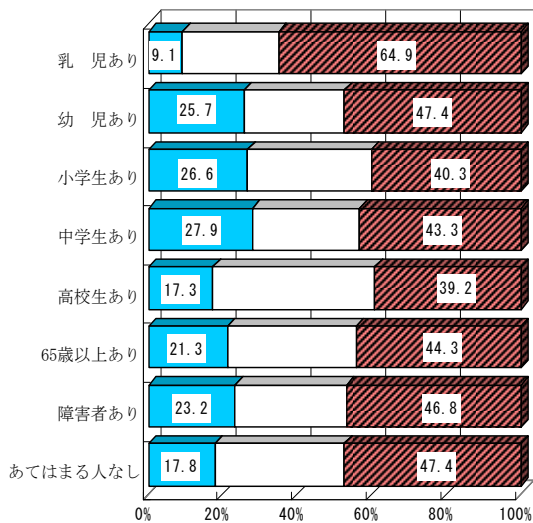
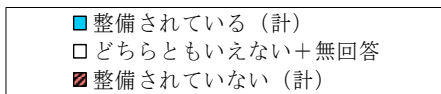
(キ) 車いすでも使用できるトイレ



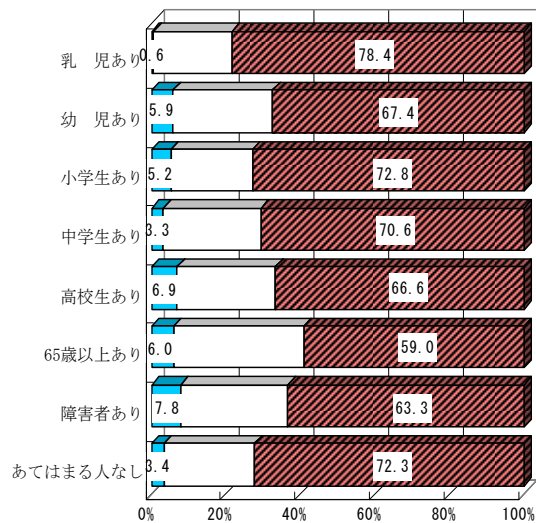
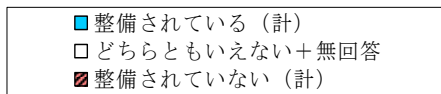
(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板



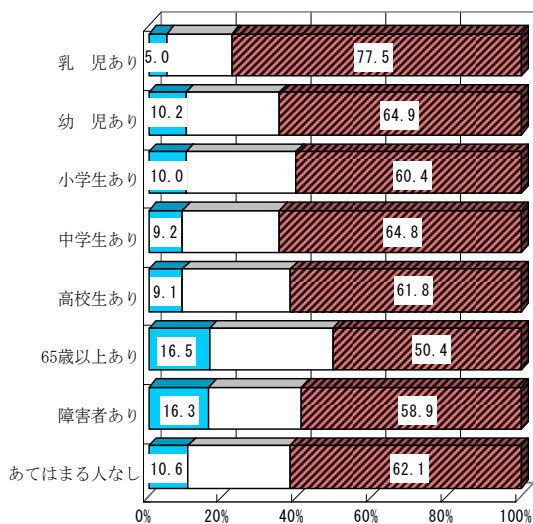
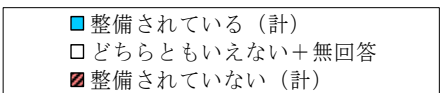
(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース



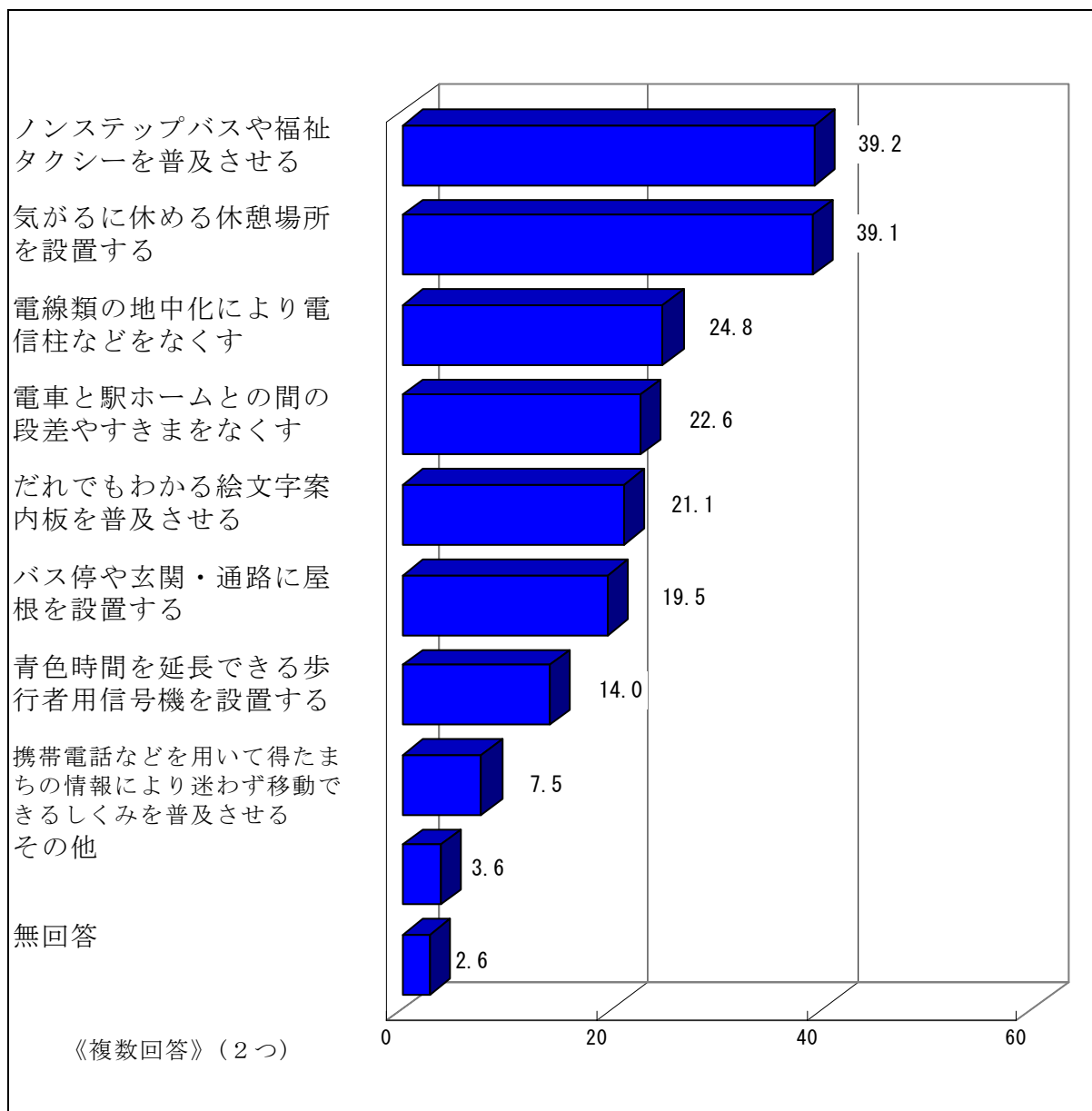
(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル



(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機



(3) 活動しやすいまちづくりに必要なこと



■ 「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」「気がるに休める休憩場所を設置する」が多い

だれもが活動しやすいまちづくりを進めるために必要と思われる項目を聞いたところ、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」(39.2%)と「気がるに休める休憩場所を設置する」(39.1%)が約4割と多く、「電線類の地中化により電信柱などをなくす」(24.8%)が約2割半で続いている。以下、「電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす」(22.6%)、「だれでもわかる絵文字案内板を普及させる」(21.1%)までが2割を超える。

■ **地域別** 「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」は、神戸、東播磨、丹波で多い

地域別でみると、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」は丹波(44.2%)、東播磨(42.6%)、神戸(42.4%)、「気がるに休める休憩場所を設置する」は淡路(47.6%)、丹波(46.2%)、北播磨(42.9%)が多い。「電線類の地中化により電信柱などをなくす」は中播磨(29.8%)、阪神北(28.7%)、但馬(28.7%)で多く、「電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす」は阪神北(30.1%)で多くなっている。

活動しやすいまちづくりに必要なこと 【地域別】

	ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる	気がるに休める休憩場所を設置する	電線類の地中化により電信柱などをなくす	電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす	だれでもわかる絵文字案内板を普及させる	バス停や玄関・通路に屋根を設置する	青色時間を延長できる歩行者用信号機を設置する	携帯電話などを用いて得たまちの情報により迷わず移動できるしくみを普及させる	その他	無回答
全 県	39.2	39.1	24.8	22.6	21.1	19.5	14.0	7.5	3.6	2.6
〔地域別〕										
神 戸	42.4	40.7	22.9	22.9	18.6	21.2	13.4	6.5	4.3	2.2
阪神南	37.7	36.3	27.0	23.0	18.1	14.7	16.2	9.8	5.4	2.5
阪神北	32.5	41.6	28.7	30.1	20.1	19.1	15.3	5.7	3.3	1.0
東播磨	42.6	38.1	23.0	23.0	24.5	18.1	14.7	7.2	3.4	1.9
北播磨	40.2	42.9	21.4	16.2	21.1	25.2	10.5	8.3	3.4	4.1
中播磨	36.7	32.1	29.8	23.4	26.6	22.0	12.8	7.3	0.5	3.2
西播磨	40.8	37.7	21.5	19.6	24.9	18.9	13.6	6.4	2.6	4.5
但 馬	36.5	42.7	28.7	16.6	23.1	21.2	9.1	7.8	2.3	3.6
丹 波	44.2	46.2	23.6	16.3	20.9	15.6	11.6	7.0	3.3	3.7
淡 路	36.6	47.6	11.0	7.7	25.6	24.8	15.0	13.0	1.2	6.5

■ **性別、性・年代別** 「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」は男女とも50歳代、「気がるに休める休憩場所を設置する」は男女とも70歳以上で多い

性別でみると、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」や「電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす」は男性よりも女性の方が多い。一方、「気がるに休める休憩場所を設置する」は女性(37.2%)よりも男性(42.1%)で多く、「電線類の地中化により電信柱などをなくす」「携帯電話などを用いて得たまちの情報により迷わず移動できるしくみを普及させる」でも男性の方が多い。

性・年代別でみると、「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」は男女とも50歳代(男性45.6%、女性48.6%)で4割台半ばを超えて多く、「気がるに休める休憩場所を設置する」は70歳以上(男性53.4%、女性51.2%)など年代の高い層で多い。その他、「だれでもわかる絵文字案内板を普及させる」、「電線類の地中化により電信柱などをなくす」が50歳代や60歳代で多くなっている一方、「電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす」や「バス停や玄関・通路に屋根を設置する」は20歳代や30歳代の年代の低い層で多くなっている。

活動しやすいまちづくりに必要なこと〔性別〕〔性・年代別〕

	ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる	気がるに休める休憩場所を設置する	電線類の地中化により電信柱などをなくす	電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす	だれでもわかる絵文字案内板を普及させる	バス停や玄関・通路に屋根を設置する	青色時間を延長できる歩行者用信号機を設置する	携帯電話などを用いて得たまちの情報により迷わず移動できるしくみを普及させる	その他	無回答
全 県	39.2	39.1	24.8	22.6	21.1	19.5	14.0	7.5	3.6	2.6
〔性別〕										
男 性	37.6	42.1	28.8	15.1	20.6	19.4	13.0	11.0	4.0	2.4
女 性	40.4	37.2	22.1	27.3	21.6	19.7	14.9	5.0	3.2	2.7
〔性・年代別〕										
男・20歳代	39.7	36.9	32.6	22.5	14.8	30.2	8.9	7.1	7.3	0.0
30歳代	43.3	30.3	29.2	19.2	17.5	18.0	20.0	12.9	5.7	1.2
40歳代	42.9	34.6	30.5	16.2	21.9	22.5	8.0	14.0	8.6	0.2
50歳代	45.6	42.5	24.9	13.3	22.2	17.5	16.3	9.6	2.3	0.7
60歳代	28.8	47.3	34.7	14.3	23.5	16.0	10.0	13.9	3.8	1.4
70歳以上	27.6	53.4	24.0	11.4	18.6	19.7	12.8	6.8	0.0	10.0
女・20歳代	44.4	29.5	17.9	40.4	21.5	20.4	16.2	4.0	3.0	0.2
30歳代	37.6	28.8	20.8	36.6	21.3	26.5	10.0	3.2	11.8	0.1
40歳代	45.3	29.5	24.3	33.3	16.9	18.4	18.7	8.2	2.6	0.0
50歳代	48.6	38.2	22.0	17.3	25.4	15.0	18.3	6.0	1.5	2.8
60歳代	33.2	41.5	26.2	23.7	26.3	20.3	15.4	2.3	0.3	4.7
70歳以上	32.2	51.2	19.7	23.1	16.1	19.6	9.7	5.8	1.5	6.8

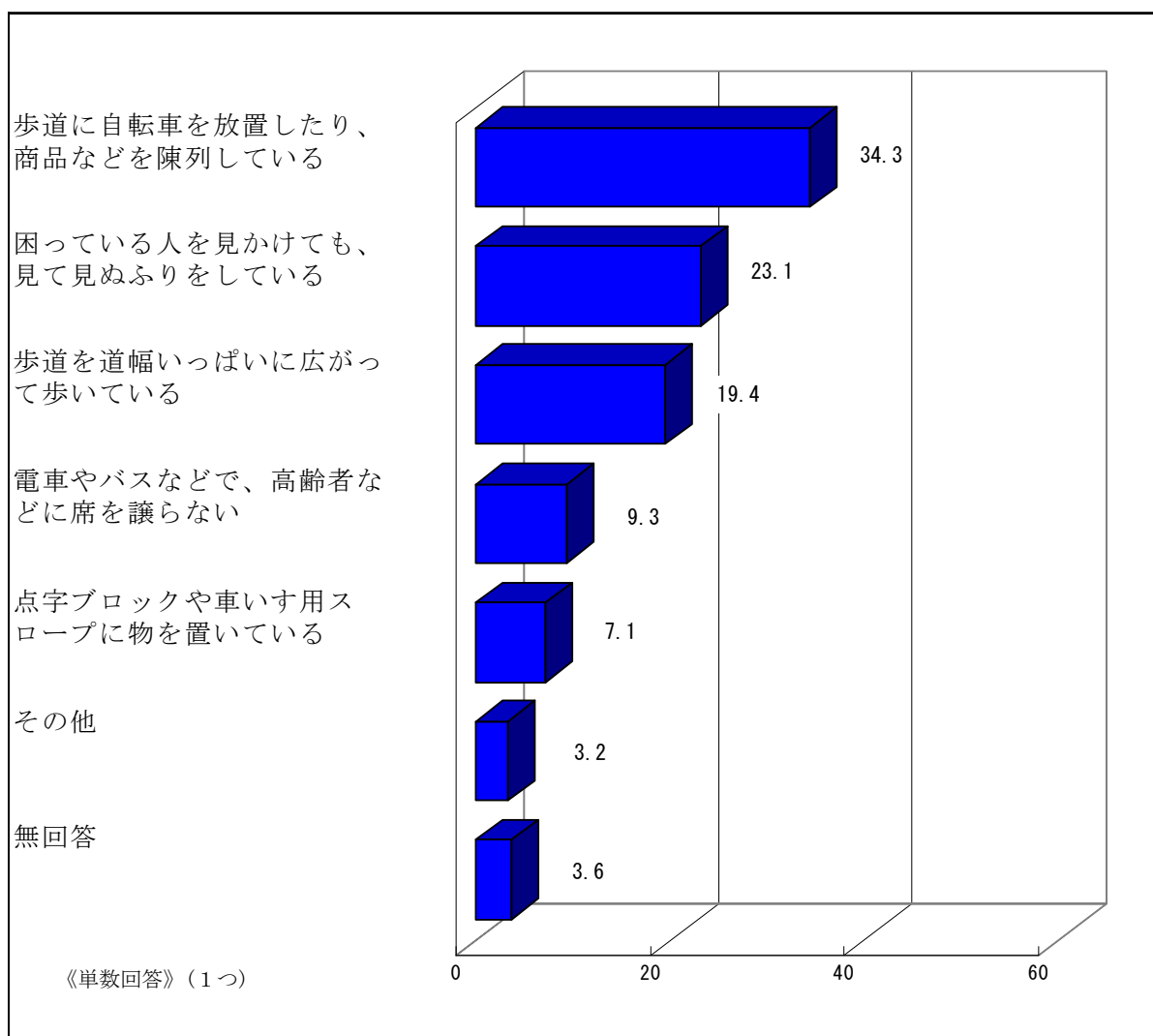
■ 家族構成別 障害者のいる世帯では「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、障害者のいる世帯では「ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる」が約5割と多い。また、乳児のいる世帯では「気がるに休める休憩場所を設置する」が5割を超えて多くなっている。

活動しやすいまちづくりに必要なこと〔家族構成別〕

	ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる	気がるに休める休憩場所を設置する	電線類の地中化により電信柱などをなくす	電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす	だれでもわかる絵文字案内板を普及させる	バス停や玄関・通路に屋根を設置する	青色時間を延長できる歩行者用信号機を設置する	携帯電話などを用いて得たまちの情報により迷わず移動できるしくみを普及させる	その他	無回答
全 県	39.2	39.1	24.8	22.6	21.1	19.5	14.0	7.5	3.6	2.6
〔家族構成別〕										
乳 児あり	45.4	53.1	19.1	31.4	15.3	10.4	14.3	4.5	3.0	1.7
幼 児あり	36.9	38.1	26.1	26.2	17.6	26.7	12.7	5.8	6.0	1.2
小学生あり	30.8	37.1	32.2	25.4	21.9	23.5	10.5	10.1	5.4	0.7
中学生あり	36.3	37.4	31.1	13.6	24.3	24.8	12.5	11.4	6.0	0.6
高校生あり	36.8	33.6	31.6	24.7	24.0	19.2	11.9	9.3	5.0	0.5
65歳以上あり	37.4	43.2	24.4	19.3	21.2	17.7	13.9	8.7	2.2	4.0
障害者あり	48.4	40.4	23.5	15.3	20.5	18.1	14.9	6.6	3.6	1.4
あてはまる人なし	42.6	32.4	24.4	25.2	22.9	19.8	15.2	6.2	3.9	2.5

(4) 問題があると思われる「ひと」の態度



■ 最も多いのは「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」

「まち」で見かける「ひと」の態度で特に問題があると思われる項目を聞いたところ、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」(34.3%)が約3割台半ばとなり、「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」(23.1%)が続く。以下、「歩道を道幅いっぱい広がって歩いている」(19.4%)、「電車やバスなどで、高齢者などに席を譲らない」(9.3%)、「点字ブロックや車いす用スロープに物を置いている」(7.1%)の順となっている。

■ **地域別** 「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」は阪神南で多い

地域別でみると、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」が最も多いのは阪神南(49.5%)で、中播磨(34.9%)、神戸(33.3%)と続く。「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」は但馬(31.9%)、北播磨(31.2%)、丹波(31.2%)で多く、「歩道を道幅いっぱいになって歩いている」は但馬(24.8%)で多くなっている。「電車やバスなどで、高齢者などに席を譲らない」は北播磨(13.2%)で、「点字ブロックや車いす用スロープに物を置いている」は神戸(10.0%)で多くなっている。

問題があると思われる態度 【地域別】

	歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	歩道を道幅いっぱいになって歩いている	電車やバスなどで、高齢者などに席を譲らない	点字ブロックや車いす用スロープに物を置いている	その他	無回答
全 県	34.3	23.1	19.4	9.3	7.1	3.2	3.6
【地域別】							
神 戸	33.3	20.8	20.8	9.5	10.0	2.2	3.5
阪神南	49.5	19.1	14.7	7.4	4.4	2.9	2.0
阪神北	31.6	25.8	20.6	9.6	8.1	1.9	2.4
東播磨	31.7	21.5	21.9	11.7	5.7	4.2	3.4
北播磨	21.4	31.2	16.9	13.2	5.6	5.3	6.4
中播磨	34.9	22.0	18.8	8.7	9.2	3.7	2.8
西播磨	25.3	27.9	20.4	7.9	6.4	4.2	7.9
但 馬	28.3	31.9	24.8	6.5	0.0	3.9	4.6
丹 波	16.9	31.2	21.3	12.3	6.3	6.3	5.6
淡 路	27.2	29.3	17.1	8.1	4.9	5.7	7.7

■ **性別、性・年代別** 「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」は男性の40歳代や60歳代、女性の40歳代で多い

性別でみると、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」は、男性(36.5%)の方が女性(33.4%)よりやや多くなっているが、総じて男女差は小さい。

性・年代別でみると、「歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列している」は男性の60歳代(46.7%)や女性の40歳代(39.5%)で多く、「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」は男性の30歳代(29.0%)や女性の20歳代(27.6%)及び50歳代(27.4%)で多い。「歩道を道幅いっぱいになって歩いている」は男性の30歳代(21.6%)や女性の20歳代(23.4%)及び60歳代(22.5%)で多くなっている。

問題があると思われる態度〔性別〕〔性・年代別〕

	歩道に自転車を 放置したり、商 品などを陳列し ている	困っている人を見 かけても、見て見 ぬふりをしてい る	歩道を道幅いっ ぱいに広がって 歩いている	電車やバスなど で、高齢者など に席を譲らない	点字ブロックや 車いす用スロー プに物を置いて いる	その他	無回答
全 県	34.3	23.1	19.4	9.3	7.1	3.2	3.6
〔性別〕							
男 性	36.5	23.8	18.5	10.2	5.6	3.0	2.4
女 性	33.4	22.6	20.0	8.5	8.2	3.0	4.3
〔性・年代別〕							
男・20歳代	30.4	20.9	20.3	11.1	3.7	13.7	0.0
30歳代	30.0	29.0	21.6	9.6	5.8	2.3	1.8
40歳代	39.2	23.7	17.5	8.8	8.7	1.1	1.0
50歳代	36.9	24.8	16.2	10.5	8.5	2.5	0.6
60歳代	46.7	19.5	18.5	8.5	3.2	2.3	1.3
70歳以上	28.4	25.0	19.4	13.5	2.2	2.5	9.0
女・20歳代	23.9	27.6	23.4	9.5	9.9	5.7	0.0
30歳代	33.3	26.3	19.3	6.8	11.1	3.0	0.3
40歳代	39.5	17.7	19.4	7.7	12.8	2.9	0.0
50歳代	35.0	27.4	18.5	6.0	5.4	3.1	4.6
60歳代	33.9	16.6	22.5	11.8	7.7	1.4	6.1
70歳以上	30.6	20.5	18.8	9.8	4.4	3.0	12.8

■ 家族構成別 乳児のいる世帯では「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯では「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が多い。

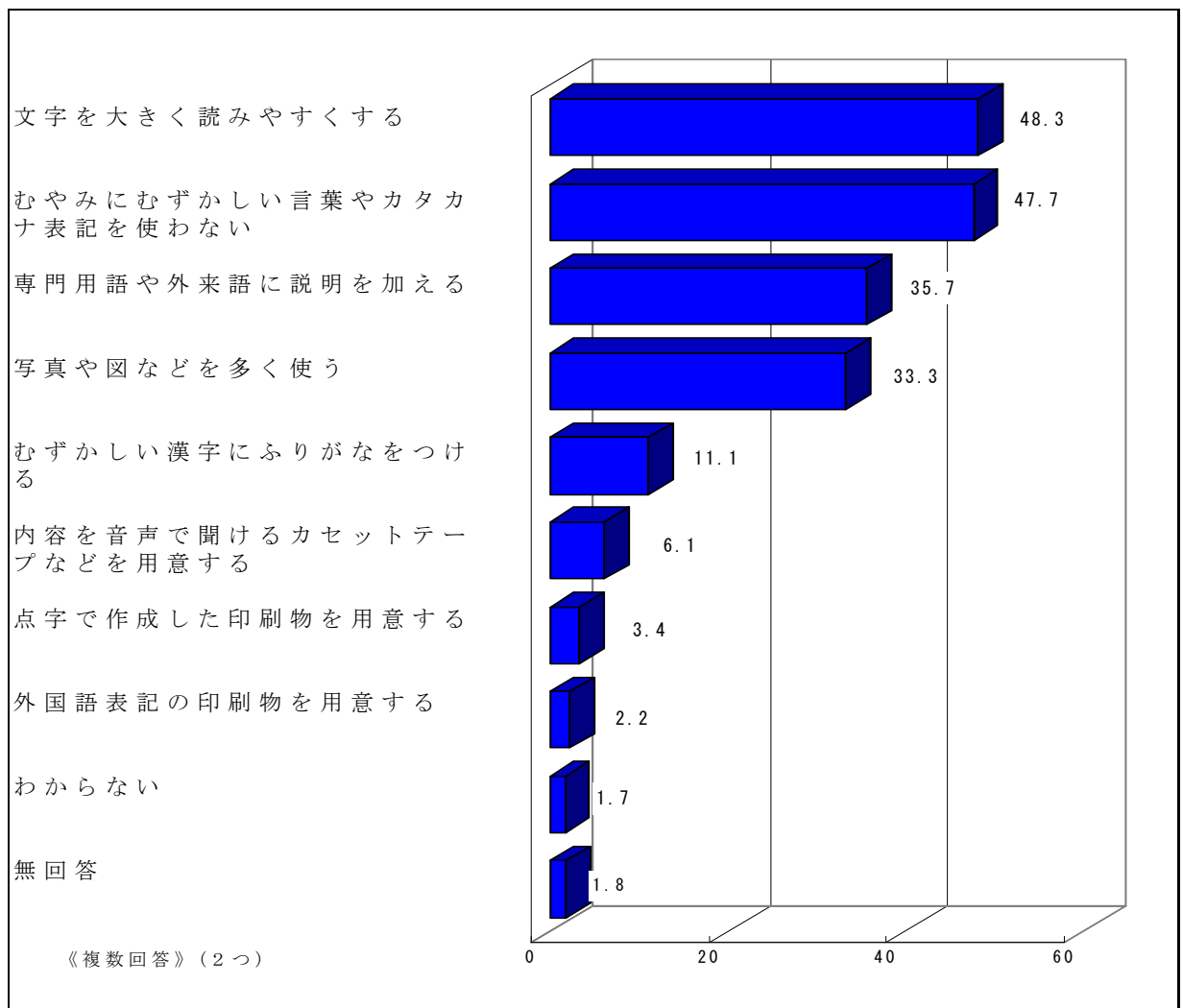
問題があると思われる態度〔家族構成別〕

	歩道に自転車を 放置したり、商 品などを陳列し ている	困っている人を見 かけても、見て見 ぬふりをしてい る	歩道を道幅いっ ぱいに広がって 歩いている	電車やバスな どで、高齢者 などに席を譲 らない	点字ブロック や車いす用ス ロープに物を 置いている	その他	無回答
全 県	34.3	23.1	19.4	9.3	7.1	3.2	3.6
〔家族構成別〕							
乳 児あり	32.1	36.9	15.7	6.8	2.4	3.3	2.7
幼 児あり	31.6	31.3	18.1	7.7	6.5	3.3	1.4
小学生あり	37.3	22.4	21.9	7.2	8.0	1.7	1.4
中学生あり	38.6	22.1	17.7	9.3	8.1	1.9	2.4
高校生あり	37.5	20.7	14.7	9.3	12.7	3.2	1.9
65歳以上あり	31.8	23.4	19.5	10.1	6.0	3.4	5.9
障害者あり	34.1	25.0	18.5	8.3	8.8	2.9	2.4
あてはまる人なし	36.5	21.4	19.9	8.2	8.1	3.4	2.5

3 だれもがわかりやすい「情報」の提供

- 県が提供している印刷物に求めることは「文字を大きく読みやすくする」、「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」
- 県のテレビ番組やビデオに求めることは、「字幕スーパーにより話の内容を表示する」が6割を超える
- 県のホームページを利用しやすくするために必要なことは、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」が最も多い
- 携帯電話による緊急情報を『利用したい』は、約7割

(1) 県が提供している印刷物をわかりやすくするために必要なこと



- 「文字を大きく読みやすくする」、「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」が約5割を占める

県が提供している印刷物を、だれもがもっとわかりやすくするために必要だと思われる項目を聞いたところ、「文字を大きく読みやすくする」(48.3%)、「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」(47.7%)がともに約5割と多く、次いで「専門用語や外来語に説明を加える」(35.7%)と「写真や図などを多く使う」(33.3%)が3割台半ばで続く。

■ **地域別** 「文字を大きく読みやすくする」「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」「専門用語や外来語に説明を加える」は地域差みられず

地域別でみると、「文字を大きく読みやすくする」「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」「専門用語や外来語に説明を加える」の上位3項目は、特に地域による大きな差はない。一方、「写真や図などを多く使う」は神戸(37.7%)や阪神南(35.8%)、阪神北(34.4%)で多く、「むずかしい漢字にふりがなをつける」は西播磨(18.1%)や但馬(17.9%)、北播磨(17.7%)で多くなっている。

県が提供している印刷物をわかりやすくするために必要なこと 【地域別】

	文字を大きく読みやすくする	むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない	専門用語や外来語に説明を加える	写真や図などを多く使う	むずかしい漢字にふりがなをつける	内容を音声で聞けるカセットテープなどを用意する	点字で作成した印刷物を用意する	外国語表記の印刷物を用意する	わからない+無回答
全 県	48.3	47.7	35.7	33.3	11.1	6.1	3.4	2.2	3.5
〔地域別〕									
神 戸	52.4	46.3	34.2	37.7	6.9	3.9	3.0	3.9	3.1
阪神南	48.5	43.1	33.8	35.8	10.8	10.3	3.4	1.0	3.5
阪神北	39.7	53.6	38.8	34.4	8.1	5.7	6.2	1.0	4.3
東播磨	43.4	49.8	37.7	31.3	13.2	7.5	1.9	2.6	4.1
北播磨	49.2	48.9	37.6	27.1	17.7	1.5	3.4	1.1	3.7
中播磨	50.9	46.8	37.6	31.7	12.8	6.9	2.8	3.2	1.4
西播磨	50.6	46.8	34.3	26.0	18.1	4.9	3.8	0.8	4.1
但 馬	51.5	51.5	33.6	23.8	17.9	5.2	2.3	0.7	5.2
丹 波	50.8	52.5	33.6	25.2	12.3	9.0	4.0	1.0	3.3
淡 路	46.7	49.2	35.8	27.6	15.9	4.1	3.3	2.0	5.7

■ **性別、性・年代別** 「文字を大きく読みやすくする」は、男女とも年代の高い層が多い

性別でみると、「文字を大きく読みやすくする」や「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」は男性より女性の方が多い。一方、「写真や図などを多く使う」や「むずかしい漢字にふりがなをつける」などは男性の方が多い。

性・年代別でみると、「文字を大きく読みやすくする」は男女とも年代の高い層で多く、女性の70歳以上(61.3%)で6割を超えている。一方、「専門用語や外来語に説明を加える」は男女ともに20歳代(男性51.2%、女性40.2%)で多く、「写真や図などを多く使う」は男女とも30歳代や40歳代で多くなっている。

県が提供している印刷物をわかりやすくするために必要なこと 【性別】【性・年代別】

	文字を大きく読みやすくする	むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない	専門用語や外来語に説明を加える	写真や図などを多く使う	むずかしい漢字にふりがなをつける	内容を音声で聞けるカセットテープなどを用意する	点字で作成した印刷物を用意する	外国語表記の印刷物を用意する	わからない＋無回答
全 県	48.3	47.7	35.7	33.3	11.1	6.1	3.4	2.2	3.5
〔性別〕									
男 性	46.3	46.3	36.4	37.4	12.1	5.8	1.9	1.8	3.0
女 性	49.4	49.5	35.3	30.6	9.9	6.4	4.4	2.6	3.6
〔性・年代別〕									
男・20歳代	30.1	52.4	51.2	33.2	15.6	5.5	2.8	4.4	0.7
30歳代	34.8	38.4	33.5	54.2	12.3	5.2	5.3	2.8	4.1
40歳代	45.1	38.9	32.3	53.6	10.4	6.0	3.1	2.4	0.3
50歳代	54.0	48.4	31.8	34.2	8.1	8.5	1.3	2.2	4.0
60歳代	51.7	49.9	35.1	33.2	15.3	4.2	0.8	0.5	2.2
70歳以上	45.1	48.7	44.4	22.0	13.5	4.1	0.1	0.2	5.2
女・20歳代	24.9	48.3	40.2	34.4	18.5	7.3	12.0	3.2	2.0
30歳代	44.2	44.5	33.0	43.5	5.9	6.8	8.0	6.5	3.0
40歳代	50.9	46.2	37.6	42.4	4.4	6.8	1.4	5.3	1.6
50歳代	49.7	57.8	36.1	27.9	7.6	5.9	3.9	1.2	3.6
60歳代	54.7	48.2	37.3	22.8	9.8	8.7	2.9	0.1	5.6
70歳以上	61.3	47.8	29.3	16.8	17.4	3.3	1.6	0.7	5.1

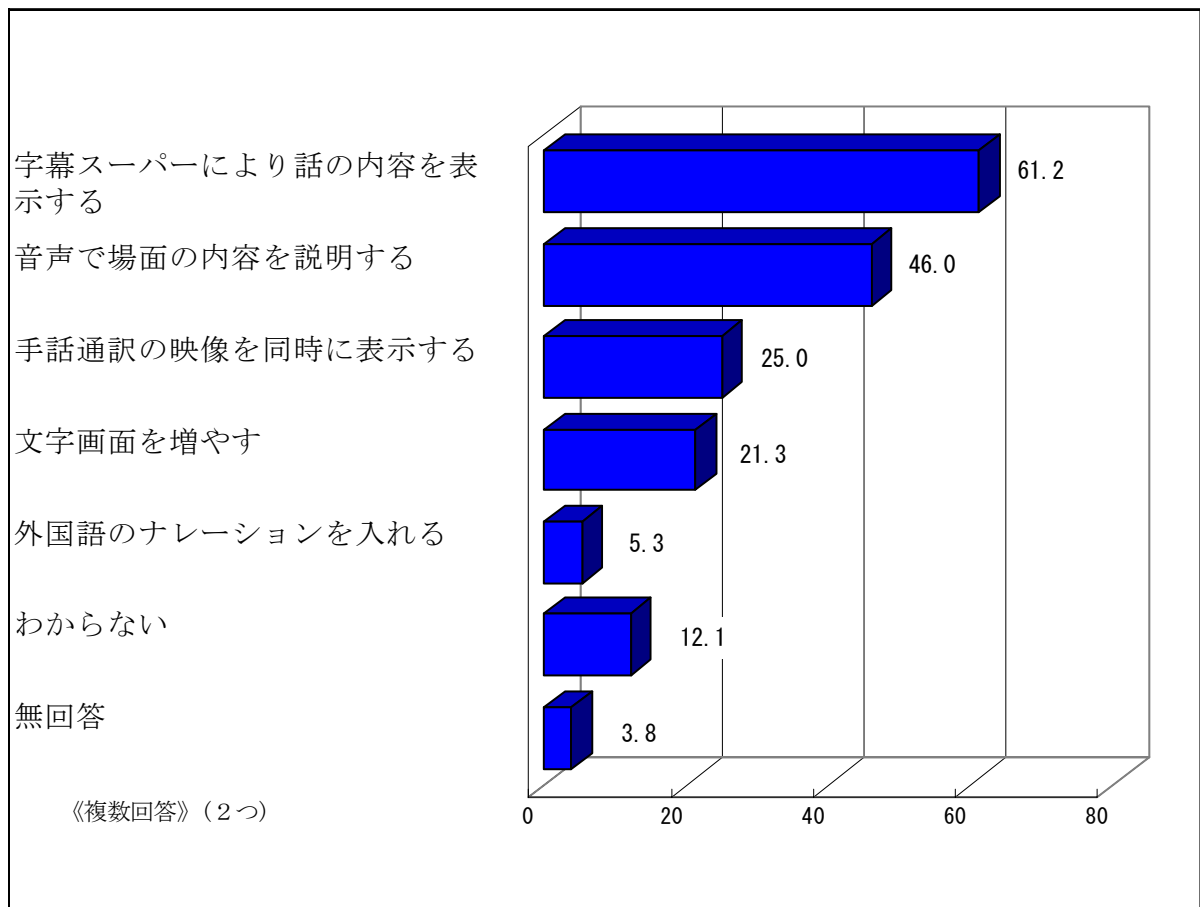
■ 家族構成別 乳児や幼児のいる世帯では「写真や図などを多く使う」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、65歳以上のいる世帯や障害者のいる世帯では「文字を大きく読みやすくする」が多く、5割を超えている。小学生のいる世帯や中学生のいる世帯では「むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない」が多く、乳児のいる世帯や幼児のいる世帯では「写真や図などを多く使う」が多くなっている。

県が提供している印刷物をわかりやすくするために必要なこと 【家族構成別】

	文字を大きく読みやすくする	むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない	専門用語や外来語に説明を加える	写真や図などを多く使う	むずかしい漢字にふりがなをつける	内容を音声で聞けるカセットテープなどを用意する	点字で作成した印刷物を用意する	外国語表記の印刷物を用意する	わからない＋無回答
全 県	48.3	47.7	35.7	33.3	11.1	6.1	3.4	2.2	3.5
〔家族構成別〕									
乳 児あり	37.1	33.9	30.7	62.9	14.7	5.4	6.5	5.5	0.4
幼 児あり	36.2	48.3	34.5	51.5	8.9	4.6	3.8	2.1	2.4
小学生あり	37.8	50.3	36.3	47.9	7.5	7.3	4.4	2.6	1.5
中学生あり	48.0	52.0	39.4	35.6	9.7	7.2	2.8	2.1	0.1
高校生あり	47.9	47.8	29.4	33.8	10.8	10.0	3.1	5.6	4.3
65歳以上あり	52.3	47.4	36.7	26.5	12.7	6.4	2.3	1.7	3.5
障害者あり	53.4	44.6	31.1	30.7	14.4	9.2	2.0	1.5	1.8
あてはまる人なし	48.0	48.8	36.5	34.2	9.2	5.6	5.0	3.2	3.4

(2) 県が提供しているテレビ番組やビデオをわかりやすくするために必要なこと



■ 「字幕スーパーにより話の内容を表示する」が6割を超える

県が提供しているテレビ番組やビデオを、だれもがもっとわかりやすくするために必要だと思われる項目を聞いたところ、最も多いのは「字幕スーパーにより話の内容を表示する」(61.2%)で6割を超えている。次は「音声で場面の内容を説明する」(46.0%)で、以下「手話通訳の映像を同時に表示する」(25.0%)、「文字画面を増やす」(21.3%)と続いている。「外国語のナレーションを入れる」(5.3%)は1割未満となっている。

■ **地域別** いずれの地域でも最も多いのは「字幕スーパーにより話の内容を表示する」で、「音声で場面の内容を説明する」が続く

地域別でみると、いずれの地域でも最も多いのは「字幕スーパーにより話の内容を表示する」で、次いで、「音声で場面の内容を説明する」となっており、地域間で大きな差はない。また、「文字画面を増やす」は西播磨(26.0%)や但馬(25.4%)、丹波(24.6%)で多くなっている。

県が提供しているテレビ番組やビデオをわかりやすくするため必要なこと 【地域別】

	字幕スーパーにより話の内容を表示する	音声で場面の内容を説明する	手話通訳の映像を同時に表示する	文字画面を増やす	外国語のナレーションを入れる	わからない+無回答
全 県	61.2	46.0	25.0	21.3	5.3	15.9
〔地域別〕						
神 戸	62.3	43.3	25.1	20.8	8.2	15.6
阪神南	61.3	45.1	27.5	19.1	3.4	16.2
阪神北	63.2	47.4	26.3	21.1	4.8	14.8
東播磨	61.1	47.9	23.0	21.5	3.8	17.4
北播磨	58.6	45.9	25.6	21.1	4.5	16.6
中播磨	59.6	47.2	25.7	22.9	5.5	13.3
西播磨	61.1	49.8	24.2	26.0	3.0	14.0
但 馬	53.7	45.6	18.6	25.4	3.6	21.5
丹 波	63.1	47.5	20.3	24.6	5.0	15.3
淡 路	57.7	50.8	19.1	20.7	4.1	18.3

■ 性別、性・年代別 「字幕スーパーにより話の内容を表示する」は、男性の20～40歳台、女性の30～50歳代が多い

性別でみると、「字幕スーパーにより話の内容を表示する」はほとんど差はないが、「音声で場面の内容を説明する」と「文字画面を増やす」は男性で多く、「手話通訳の映像を同時に表示する」は女性で多くなっている。

性・年代別でみると、「字幕スーパーにより話の内容を表示する」は男性の20～40歳代で7割前後、女性の30～50歳代で6割台半ばと多い。「音声で場面の内容を説明する」は男性の60歳代(54.1%)や女性の60歳代(53.5%)及び70歳以上(53.5%)の年代の高い層で多い。「手話通訳の映像を同時に表示する」は男性の40歳代(30.3%)、女性の20歳代(44.5%)で多く、女性は若い層ほど多い。

県が提供しているテレビ番組やビデオをわかりやすくするため必要なこと 【性別】 【性・年代別】

	字幕スーパーにより話の内容を表示する	音声で場面の内容を説明する	手話通訳の映像を同時に表示する	文字画面を増やす	外国語のナレーションを入れる	わからない+無回答
全 県	61.2	46.0	25.0	21.3	5.3	15.9
〔性別〕						
男 性	60.6	48.4	23.5	24.7	4.2	14.4
女 性	61.3	44.4	26.2	19.6	6.1	16.6
〔性・年代別〕						
男・20歳代	67.9	48.9	22.1	19.4	12.6	7.1
30歳代	66.7	48.6	21.6	24.8	6.5	11.1
40歳代	70.8	42.2	30.3	30.2	5.4	6.5
50歳代	61.0	49.1	28.5	27.2	3.2	11.6
60歳代	57.8	54.1	23.1	15.4	2.9	18.5
70歳以上	47.3	45.0	13.0	29.6	1.3	26.0
女・20歳代	58.3	31.7	44.5	20.2	9.2	13.1
30歳代	66.9	40.8	34.5	18.5	15.7	8.0
40歳代	64.6	39.5	33.3	23.0	6.9	13.3
50歳代	64.6	42.1	25.0	18.2	4.2	18.5
60歳代	51.5	53.5	21.7	17.4	1.3	22.1
70歳以上	60.5	53.5	6.9	21.3	1.9	21.5

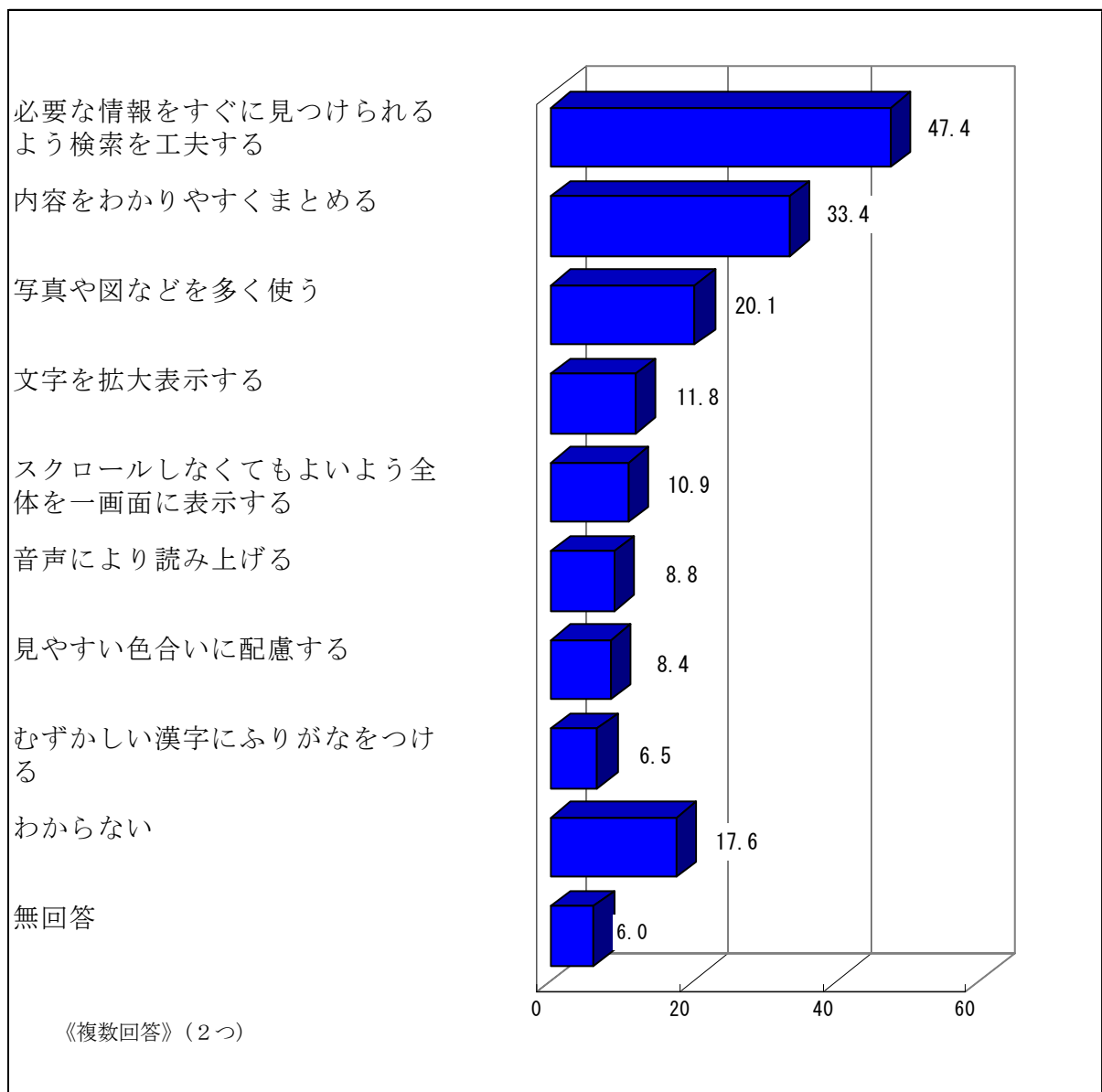
■ **家族構成別** 乳児のいる世帯では「字幕スーパーにより話の内容を表示する」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯では「字幕スーパーにより話の内容を表示する」が多く、約8割となっている。

県が提供しているテレビ番組やビデオをわかりやすくするため必要なこと 【家族構成別】

	字幕スーパーにより話の内容を表示する	音声で場面の内容を説明する	手話通訳の映像を同時に表示する	文字画面を増やす	外国語のナレーションを入れる	わからない+無回答
全 県	61.2	46.0	25.0	21.3	5.3	15.9
〔家族構成別〕						
乳 児あり	78.6	40.0	23.0	30.5	9.1	6.7
幼 児あり	63.8	41.3	25.7	26.2	7.0	14.3
小学生あり	66.5	44.6	28.9	22.9	8.1	10.3
中学生あり	68.0	44.5	28.8	20.5	7.3	12.0
高校生あり	59.2	47.4	25.3	24.1	5.2	14.0
65歳以上あり	57.7	50.7	19.7	22.6	4.1	17.6
障害者あり	62.7	45.2	26.7	22.6	3.0	12.8
あてはまる人なし	62.2	45.5	29.0	18.7	6.7	14.8

(3) 県のホームページを利用しやすくするために必要なこと



■ 「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」が最も多い

県が開設しているホームページを、だれもがもっと利用しやすくするために必要だと思われる項目を聞いたところ、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」(47.4%)が約5割と最も多く、「内容をわかりやすくまとめる」(33.4%)、「写真や図などを多く使う」(20.1%)と続く。以下「文字を拡大表示する」(11.8%)、「スクロールしなくてもよいよう全体を一画面に表示する」(10.9%)と続いている。

なお、他の設問と比べて、「わからない」(17.6%)が約2割と多い。

■ **地域別** 「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」は、阪神北で多い

地域別でみると、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」は阪神北(55.0%)を筆頭に、全ての地域で最も多い。「むずかしい漢字にふりがなをつける」は但馬(12.7%)、淡路(12.6%)で1割を超えているが、地域間で目立った差はない。

県のホームページを利用しやすくするために必要なこと 【地域別】

	必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する	内容をわかりやすくまとめる	写真や図などを多く使う	文字を拡大表示する	スクロールしなくてもよいよう全体を一画面に表示する	音声により読み上げる	見やすい色合いに配慮する	むずかしい漢字にふりがなをつける	わからない+無回答
全 県	47.4	33.4	20.1	11.8	10.9	8.8	8.4	6.5	23.6
〔地域別〕									
神 戸	46.3	30.7	20.3	12.6	12.1	7.4	9.1	3.0	26.4
阪神南	46.6	35.3	23.0	8.8	11.8	9.8	7.8	6.4	21.6
阪神北	55.0	34.4	23.9	8.6	11.5	6.7	8.6	7.7	19.2
東播磨	47.5	34.3	18.1	11.7	10.9	10.6	7.5	6.4	24.5
北播磨	43.2	36.8	17.3	13.5	6.4	10.5	8.3	7.9	25.9
中播磨	51.4	29.8	15.6	17.0	10.1	9.6	7.3	9.2	22.5
西播磨	44.9	37.7	19.2	14.0	9.1	9.8	10.2	8.7	20.7
但 馬	39.1	36.8	19.9	11.4	6.8	8.1	9.4	12.7	26.3
丹 波	39.2	31.9	15.9	13.6	11.6	11.6	8.3	8.0	28.3
淡 路	42.7	35.0	17.1	12.6	8.5	10.2	8.5	12.6	23.2

■ **性別、性・年代別** 「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」「内容をわかりやすくまとめる」は、年代の若い層で多い

性別でみると、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」は男女でほとんど差はないが、「内容をわかりやすくまとめる」は女性の方が、「写真や図などを多く使う」では男性の方が多くなっている。

性・年代別でみると、「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」や「内容をわかりやすくまとめる」は年代の低い層で多くなっている一方、「文字を拡大表示する」や「むずかしい漢字にふりがなをつける」は男女の70歳以上など年代の高い層で多くなっている。なお、男女とも60歳代以上で、「わからない+無回答」が3割を超えている。

県のホームページを利用しやすくするための必要なこと 【性別】 【性・年代別】

	必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する	内容をわかりやすくまとめる	写真や図などを多く使う	文字を拡大表示する	スクロールしなくてもよいよう全体を一画面に表示する	音声により読み上げる	見やすい色合いに配慮する	むずかしい漢字にふりがなをつける	わからない+無回答
全 県	47.4	33.4	20.1	11.8	10.9	8.8	8.4	6.5	23.6
〔性別〕									
男 性	47.7	30.3	24.0	10.6	9.7	9.4	7.2	7.0	24.3
女 性	48.0	35.1	17.8	12.3	11.5	8.6	9.1	6.1	23.1
〔性・年代別〕									
男・20歳代	61.1	39.6	28.9	13.1	4.3	5.4	12.7	4.5	12.0
30歳代	61.7	34.8	26.7	10.8	9.1	4.0	10.2	4.6	16.1
40歳代	63.7	32.2	21.0	7.8	18.7	13.5	8.9	4.5	13.4
50歳代	56.6	32.9	24.7	9.3	11.0	11.9	6.5	4.5	17.9
60歳代	33.1	22.5	26.6	8.7	9.1	13.7	6.5	9.3	32.0
70歳以上	22.8	27.1	18.1	16.1	3.5	2.6	3.2	12.6	44.9
女・20歳代	61.9	41.6	24.2	9.0	18.8	7.7	14.3	4.1	6.6
30歳代	69.8	45.1	31.6	4.4	12.1	6.8	9.6	6.5	5.8
40歳代	59.8	36.3	28.1	11.9	6.7	6.2	14.7	3.5	15.8
50歳代	48.9	29.0	9.8	14.4	12.6	12.0	9.3	6.4	26.7
60歳代	27.0	30.0	11.7	14.9	11.6	7.8	2.8	6.0	41.2
70歳以上	28.7	34.6	8.9	16.8	9.4	9.2	6.7	9.2	31.6

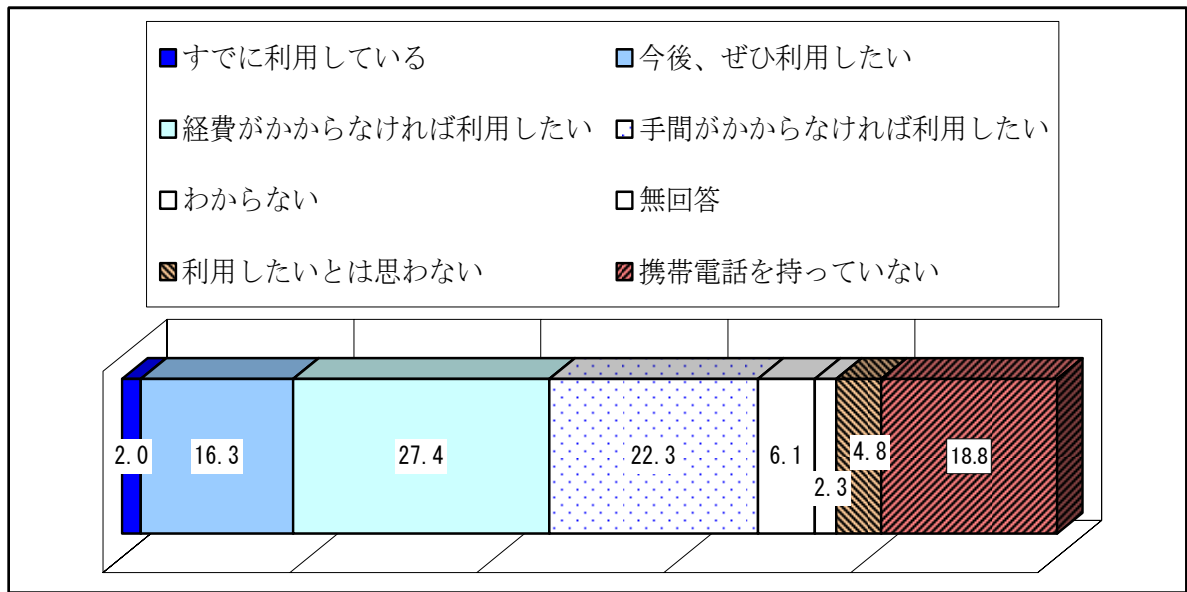
■ **家族構成別** いずれの世帯も「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、いずれの世帯も「必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する」が多くなっている。小学生のいる世帯では「内容をわかりやすくまとめる」も多くなっている。

県のホームページを利用しやすくするための必要なこと 【家族構成別】

	必要な情報をすぐに見つけられるよう検索を工夫する	内容をわかりやすくまとめる	写真や図などを多く使う	文字を拡大表示する	スクロールしなくてもよいよう全体を一画面に表示する	音声により読み上げる	見やすい色合いに配慮する	むずかしい漢字にふりがなをつける	わからない+無回答
全 県	47.4	33.4	20.1	11.8	10.9	8.8	8.4	6.5	23.6
〔家族構成別〕									
乳 児あり	63.5	39.7	36.6	10.0	14.5	5.4	8.7	5.4	6.5
幼 児あり	57.5	34.9	28.1	8.4	13.2	6.1	13.1	5.5	15.6
小学生あり	57.8	43.0	26.0	7.7	15.8	6.8	10.6	3.8	12.4
中学生あり	51.4	32.9	20.0	9.7	14.3	12.8	11.2	4.6	19.7
高校生あり	58.4	38.1	24.2	10.3	5.8	12.7	14.6	4.3	14.8
65歳以上あり	38.6	31.2	17.5	13.5	9.5	9.8	6.9	8.2	28.6
障害者あり	48.4	29.3	19.4	9.9	7.8	9.2	6.4	10.8	24.8
あてはまる人なし	51.5	32.8	20.6	12.1	11.8	8.7	9.1	5.0	22.2

(4) 携帯電話に提供される緊急情報の利用

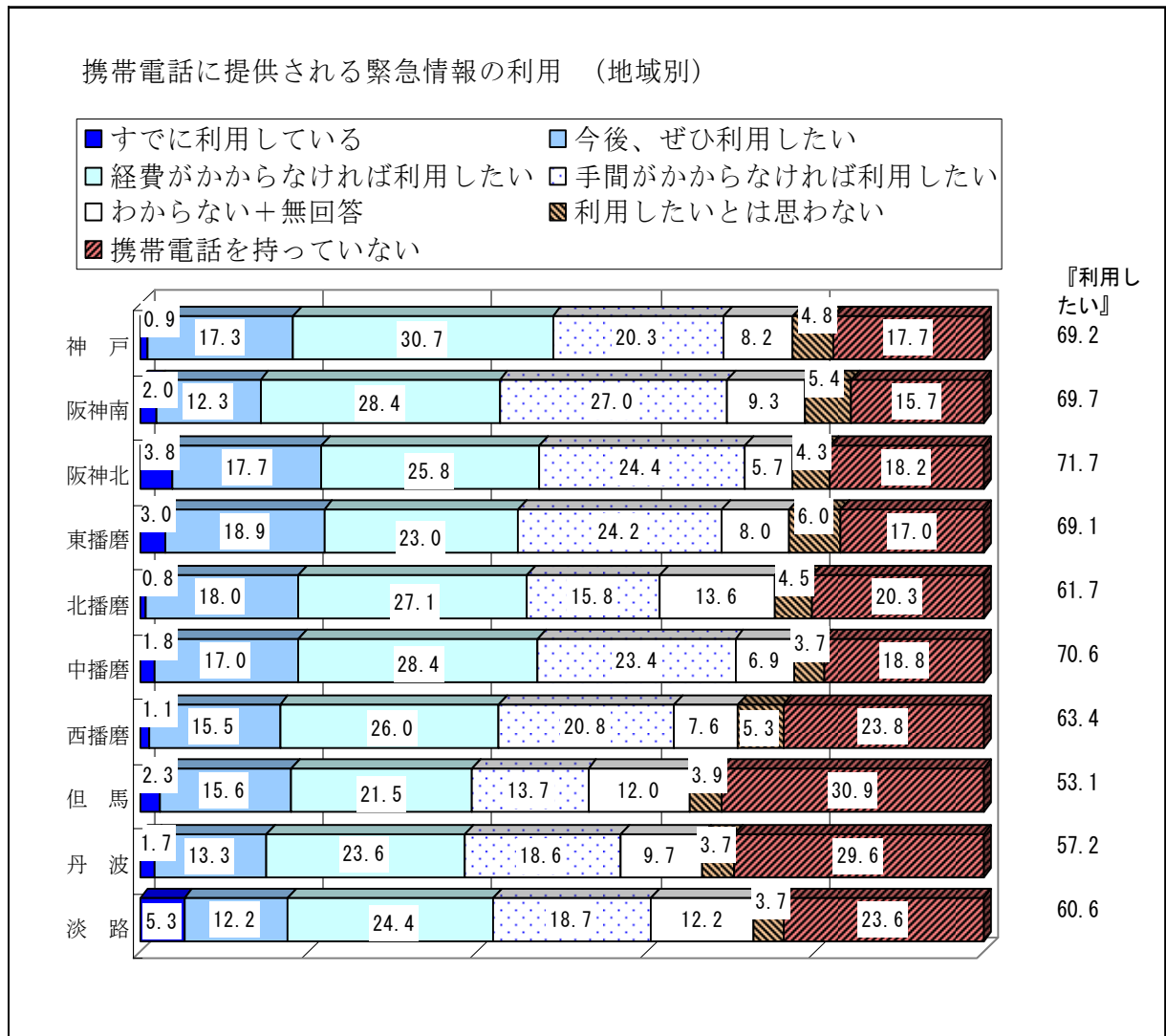


■ 『利用したい』は約7割

携帯電話のメール機能を利用した災害などの緊急情報の利用意向を聞いたところ、「すでに利用している」(2.0%)は少ないが、これに「今後、ぜひ利用したい」(16.3%)と「経費がかからなければ利用したい」(27.4%)、「手間がかからなければ利用したい」(22.3%)を合わせた『利用したい』(68.0%)は約7割にのぼる。一方、「利用したいとは思わない」(4.8%)は1割以下となっている。

■ **地域別** 『利用したい』は、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨が多い

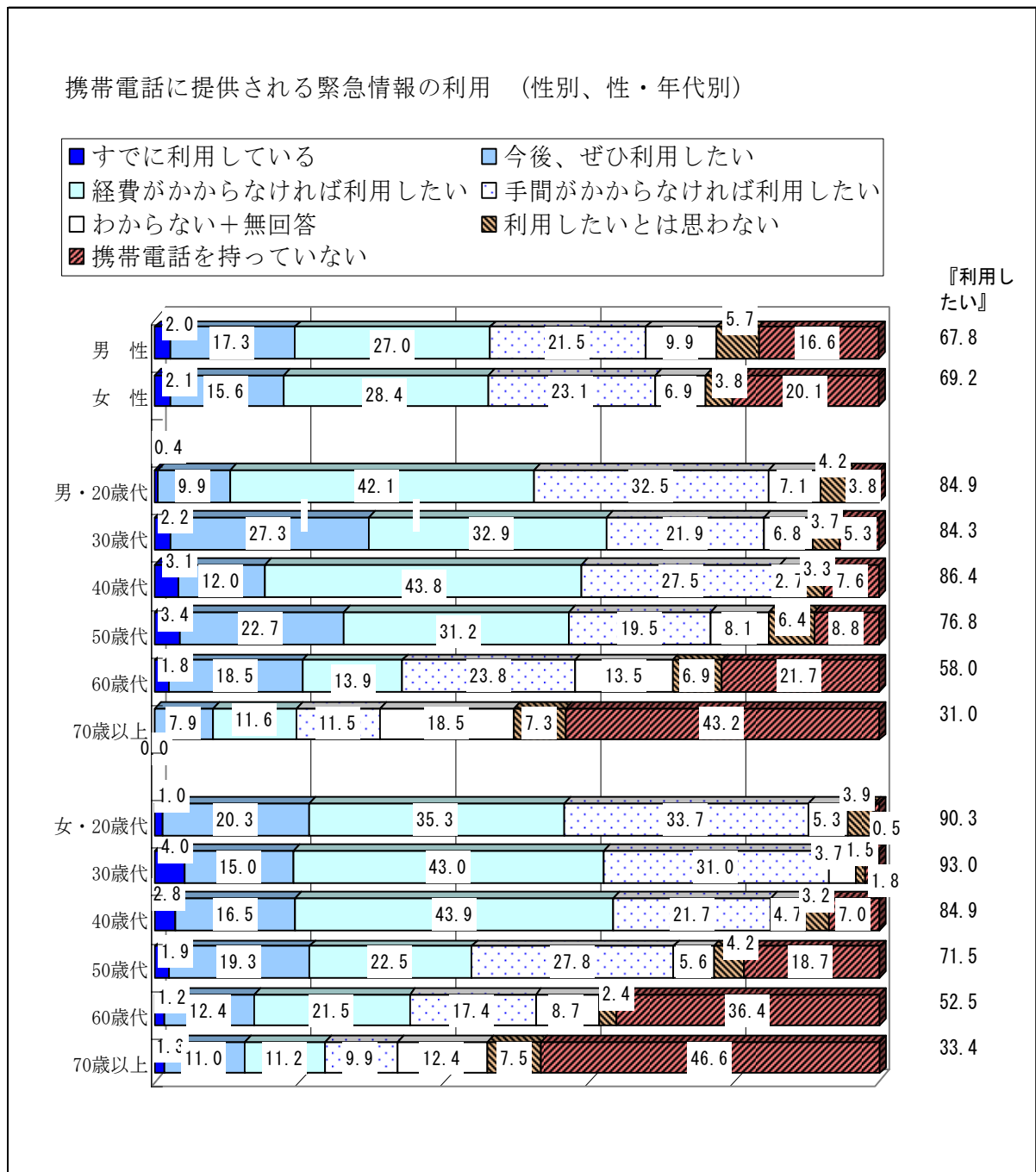
地域別にみると、「すでに利用している」はいずれの地域でも1割以下となっているが、「すでに利用している」から「手間がかからなければ利用したい」までを合わせた『利用したい』は、神戸、阪神南、阪神北、東播磨、中播磨で約7割にのぼる。



■ 性別、性・年代別 『利用したい』は、男女とも年代の若い層で多い

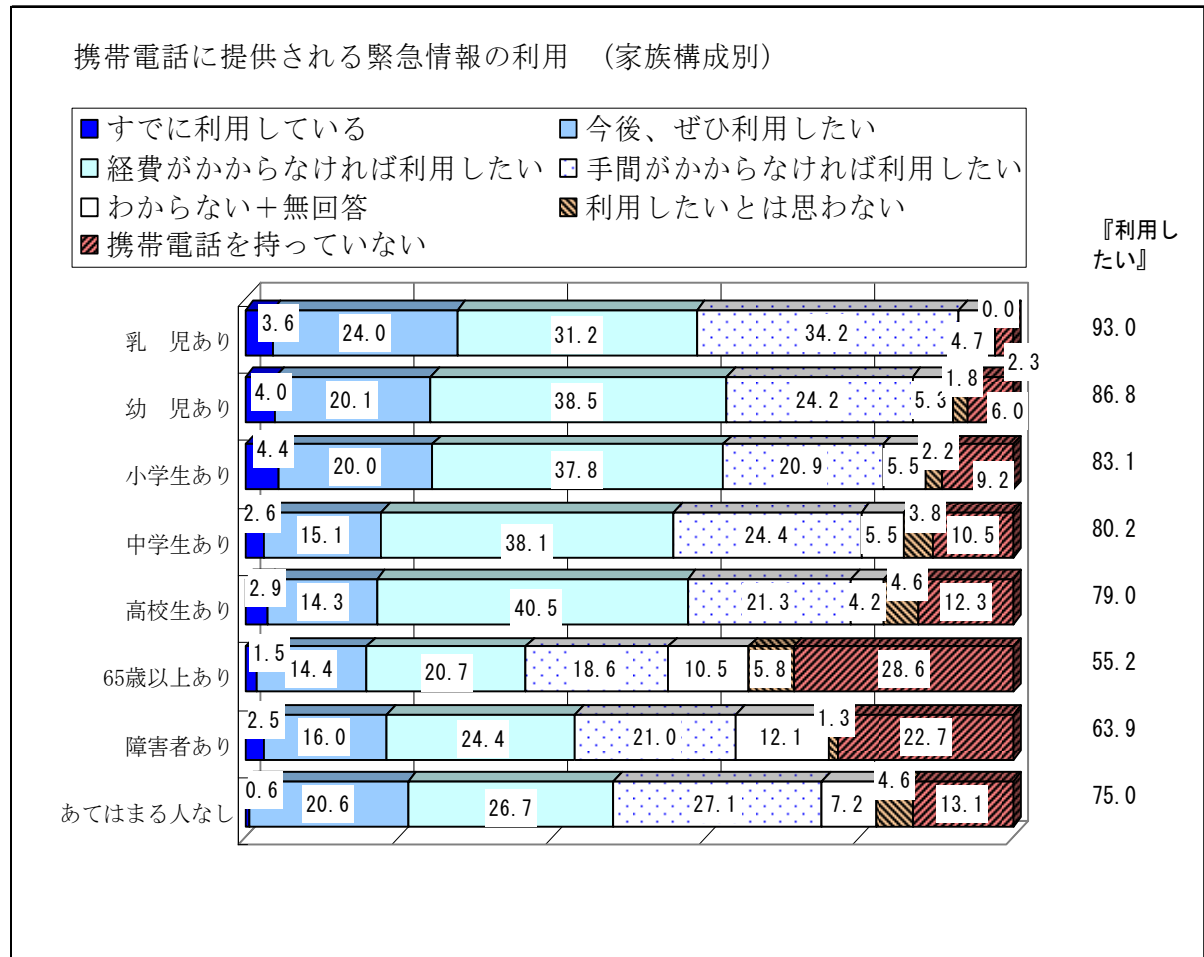
性別で見ると、「すでに利用している」から「手間がかからなければ利用したい」までを合わせた『利用したい』は、男女差はほとんどない。

性・年代別で見ると、『利用したい』は男女とも20歳代から40歳代の年代の低い層で多く、特に、女性の20歳代や30歳代では9割を超えている。一方、男性の60歳代以上及び女性の50歳代以上では「携帯電話を持っていない」が増加し、男女ともに70歳以上では3割を超える。



■ **家族構成別** 乳児のいる世帯では『利用したい』が9割を超える

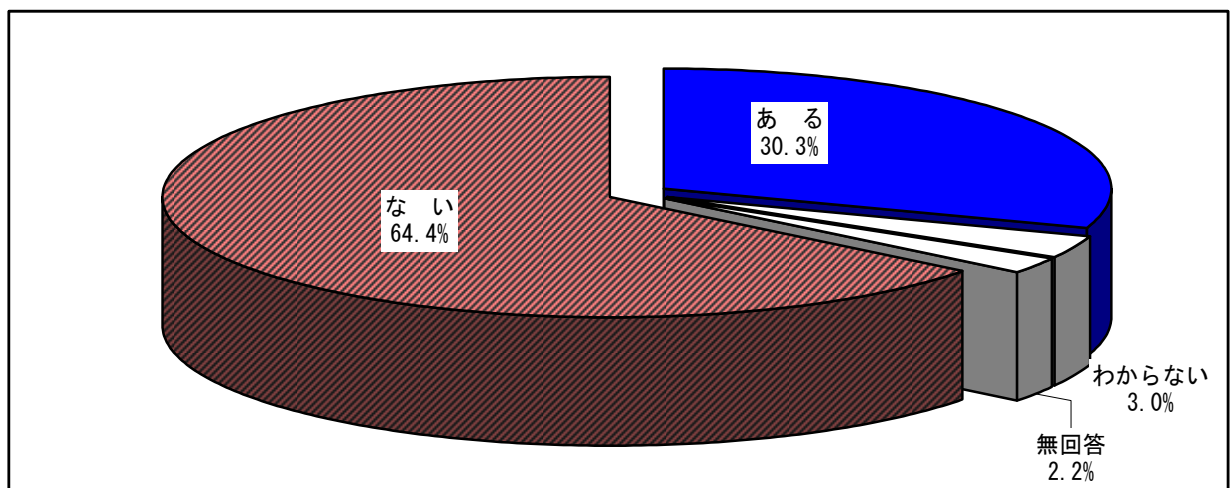
特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯では、「すでに利用している」から「手間がかからなければ利用したい」までを合わせた『利用したい』が9割を超える。また、幼児がいる世帯や小学生がいる世帯でも『利用したい』が多くなっている。



4 だれもが「働く」ことができる環境づくり

- 障害のある人とない人が同じ職場で働くという経験が「ある」は3割
- 障害などにかかわりなくだれもが働けるようにするため企業などが取り組むべきことの上位は、「働く人の状況に応じて仕事をつくる」、「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」、「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」
- だれもが働ける環境にするため、県がバックアップすべきことの上位は、「就職希望者への職業紹介を充実する」、「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」

(1) 障害のある人とない人が同じ職場で働くという経験の有無

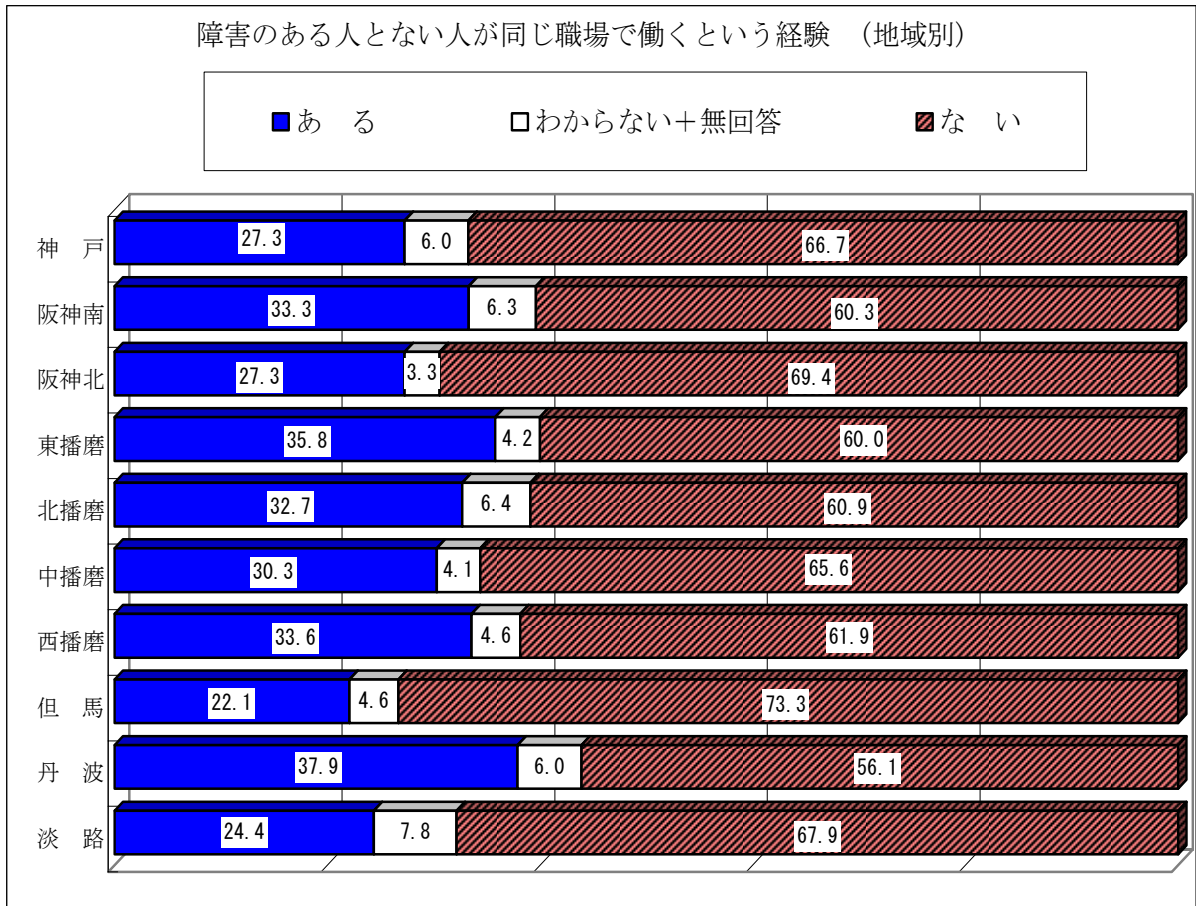


■ 同じ職場で働いた経験が「ある」は3割

障害のある人とない人が同じ職場で働くという経験の有無を聞いたところ、「ある」(30.3%)は3割、「ない」(64.4%)は6割台半ばとなっている。

■ **地域別** 同じ職場で働いた経験が「ある」は、丹波や東播磨などで多い

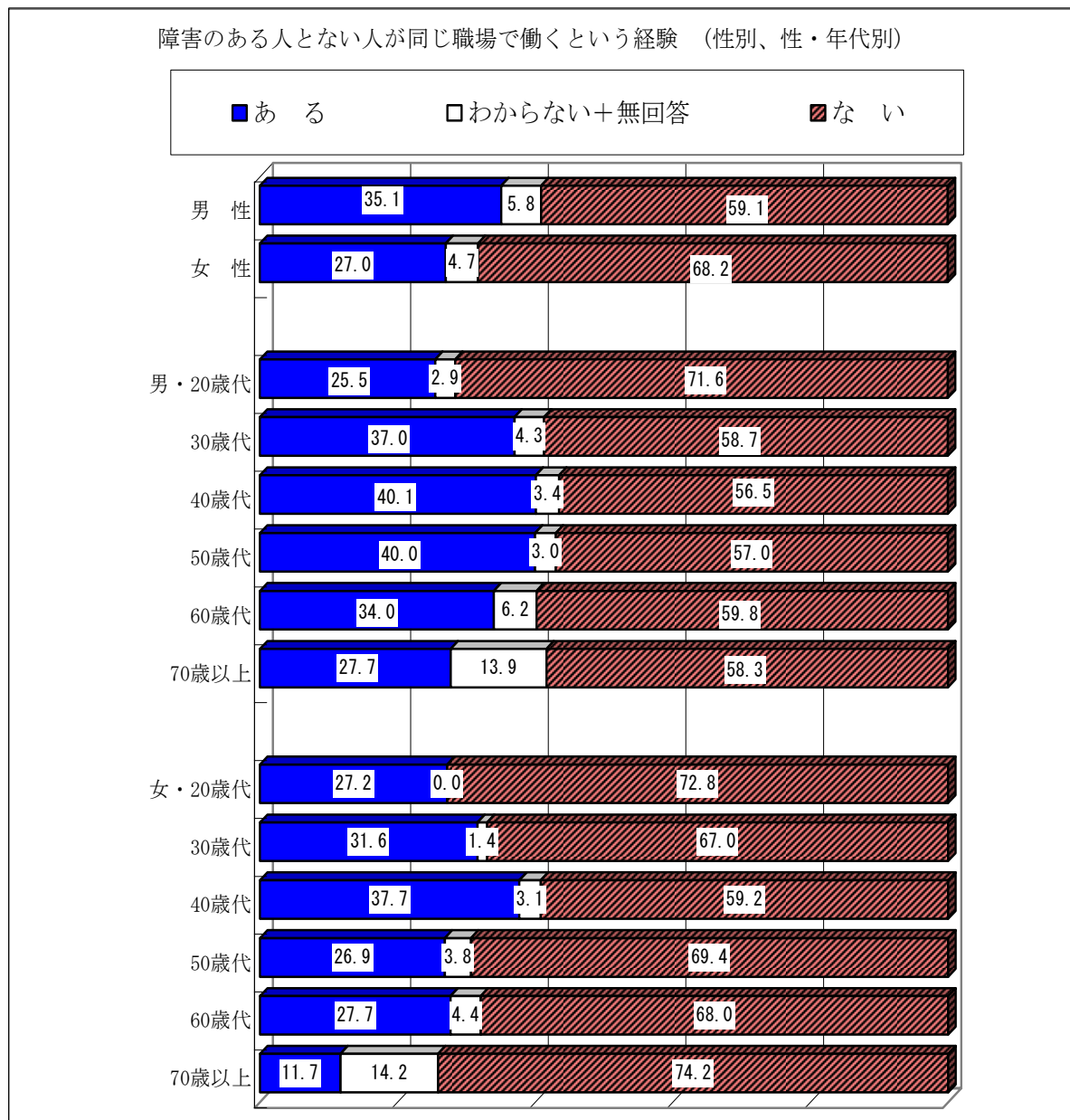
地域別でみると、「ある」は丹波(37.9%)、東播磨(35.8%)、西播磨(33.6%)、阪神南(33.3%)、北播磨(32.7%)が多い。一方、「ない」が最も多いのは但馬(73.3%)で、7割を超える。次いで、阪神北(69.4%)や淡路(67.9%)が多い。



■ **性別、性・年代別** 同じ職場で働いた経験が「ある」は、男女の40歳代などで多い

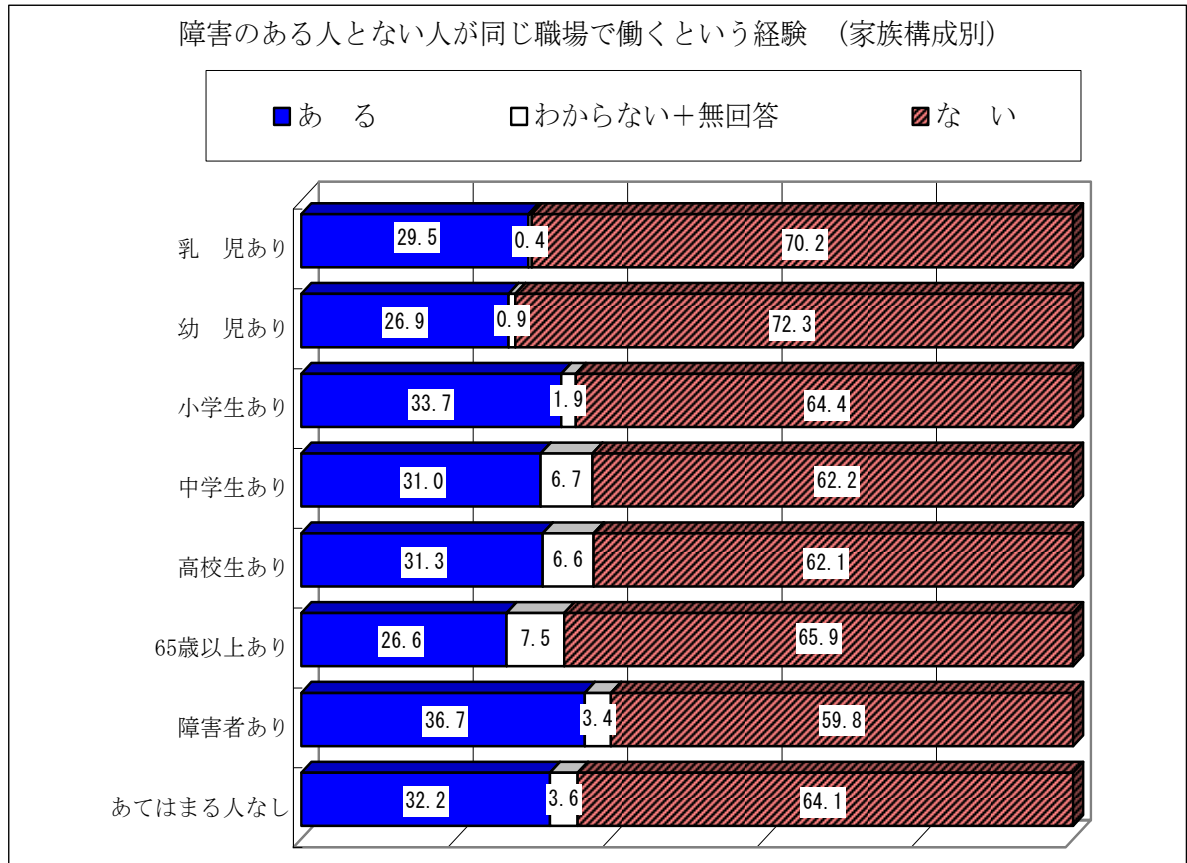
性別で見ると、「ある」は男性(35.1%)の方が女性(27.0%)より多い。

性・年代別で見ると、「ある」は男性の40歳代(40.1%)及び50歳代(40.0%)や女性の40歳代(37.7%)が多い。一方、「ない」は男性の20歳代(71.6%)や女性の20歳代(72.8%)及び70歳以上(74.2%)で7割を超えている。

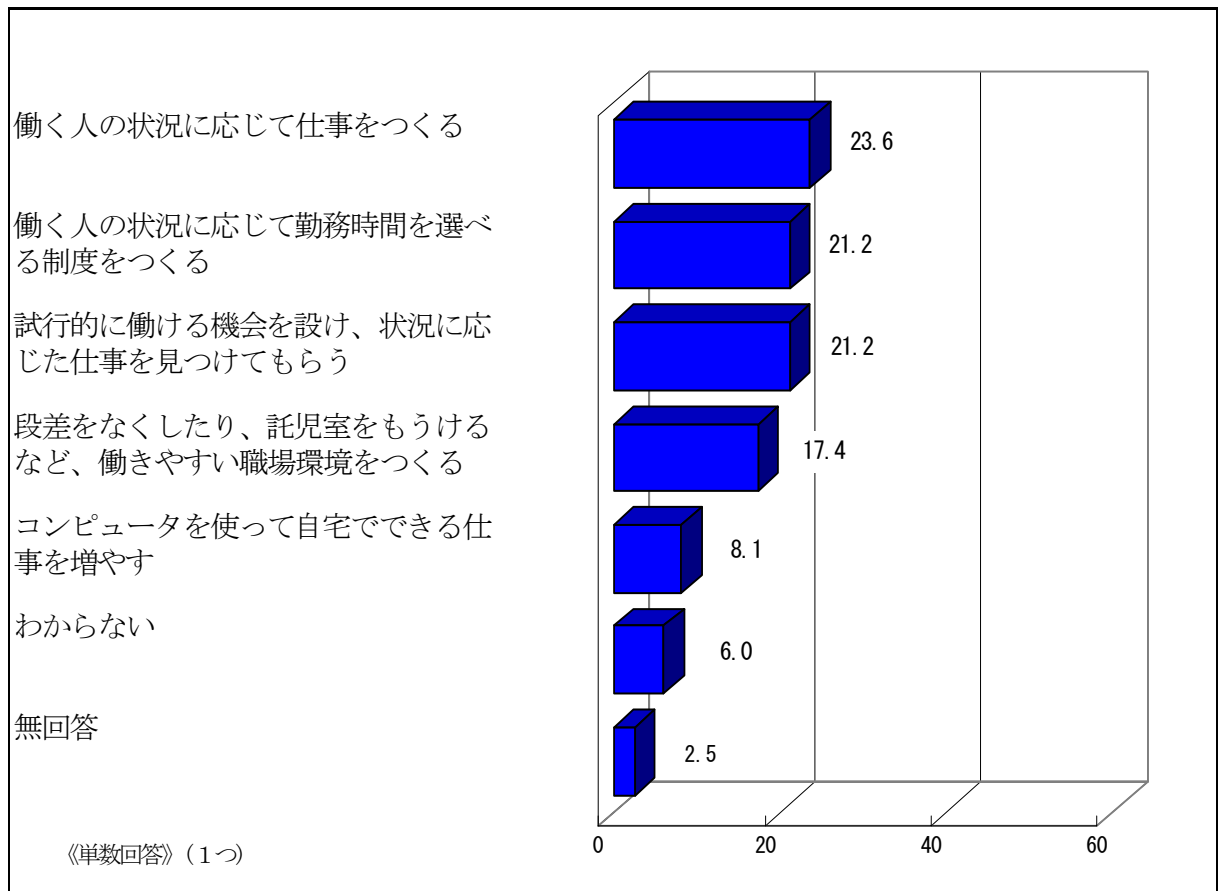


■ **家族構成別** 障害者のいる世帯では、同じ職場で働いた経験が「ある」が3割台半ば

特定の構成員を含む家族ごとで見ると、障害者のいる世帯では「ある」が3割台半ばを超える。



(2) だれもが働けるようにするために企業などが取り組むべきこと



- 「働く人の状況に応じて仕事をつくる」「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」などが2割前後と同程度

障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、だれもが働けるようにするために企業などが特に取り組むべきと思われる項目を聞いたところ、最も多いのは「働く人の状況に応じて仕事をつくる」(23.6%)で、「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」(21.2%)、「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」(21.2%)が僅差で続き、「段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる」(17.4%)が続いている。「コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす」(8.1%)は1割に満たない。

■ **地域別** 「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」が最も多いのは阪神北

地域別でみると、「働く人の状況に応じて仕事をつくる」は神戸(27.7%)や西播磨(26.4%)、但馬(26.1%)で多いが、特に大きな差はない。「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」が最も多いのは阪神北(27.3%)で、丹波(23.3%)が続いている。「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」は東播磨(26.4%)や北播磨(24.1%)、「段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる」は中播磨(23.4%)で、それぞれ多くなっている。

だれもが働けるようにするため、企業などが取り組むべきこと [地域別]

	働く人の状況に応じて仕事をつくる	働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる	試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう	段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる	コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす	わからない+無回答
全 県	23.6	21.2	21.2	17.4	8.1	8.5
[地域別]						
神 戸	27.7	19.9	20.8	15.2	9.1	7.4
阪神南	23.5	18.1	18.6	19.6	10.8	9.3
阪神北	19.1	27.3	22.5	16.7	7.7	6.7
東播磨	21.1	21.5	26.4	15.5	6.8	8.6
北播磨	22.9	20.7	24.1	14.3	7.5	10.6
中播磨	19.3	22.9	19.7	23.4	5.5	9.2
西播磨	26.4	21.5	18.5	18.9	7.5	7.2
但 馬	26.1	17.6	19.5	16.9	5.5	14.3
丹 波	23.6	23.3	18.6	19.9	5.6	9.0
淡 路	23.2	20.3	21.1	17.9	5.3	12.2

■ **性別、性・年代別** 男性の30歳代から60歳代で最も多いのは、「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」

性別でみると、「働く人の状況に応じて仕事をつくる」は男女で大きな差はないが、「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」と「段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる」は男性より女性の方で多くなっている。一方、「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」と「コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす」は女性より男性で多くなっている。

性・年代別でみると、「働く人の状況に応じて仕事をつくる」は男性の70歳以上(30.2%)や女性の40歳代(28.2%)及び60歳代(27.0%)で多く、「働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる」は女性の30歳代(25.0%)や40歳代(27.5%)で多くなっている。「試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう」は男性の30歳代(31.0%)、40歳代(26.4%)、50歳代(34.4%)、60歳代(27.0%)で多く、これらの各年代では最多となっている。

だれもが働けるようにするため、企業などが取り組むべきこと 【性別】 【性・年代別】

	働く人の状況に応じて仕事をつくる	働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる	試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう	段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる	コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす	わからない+無回答
全 県	23.6	21.2	21.2	17.4	8.1	8.5
〔性別〕						
男 性	23.1	19.2	26.9	13.4	10.5	6.9
女 性	23.5	23.1	17.7	20.2	6.3	9.1
〔性・年代別〕						
男・20歳代	25.8	14.1	9.3	27.6	16.6	6.6
30歳代	13.8	17.8	31.0	18.9	14.6	3.9
40歳代	23.0	21.8	26.4	12.7	13.2	2.9
50歳代	24.0	18.5	34.4	11.6	7.1	4.4
60歳代	21.3	22.5	27.0	10.6	10.9	7.7
70歳以上	30.2	17.3	20.7	10.0	6.8	15.0
女・20歳代	21.9	21.2	22.5	28.8	2.7	3.0
30歳代	17.6	25.0	14.7	32.0	7.6	3.1
40歳代	28.2	27.5	18.2	16.8	8.2	1.2
50歳代	26.4	20.7	23.3	15.3	5.1	9.2
60歳代	27.0	22.4	15.0	18.8	7.1	9.9
70歳以上	18.1	22.0	12.4	15.4	6.4	25.7

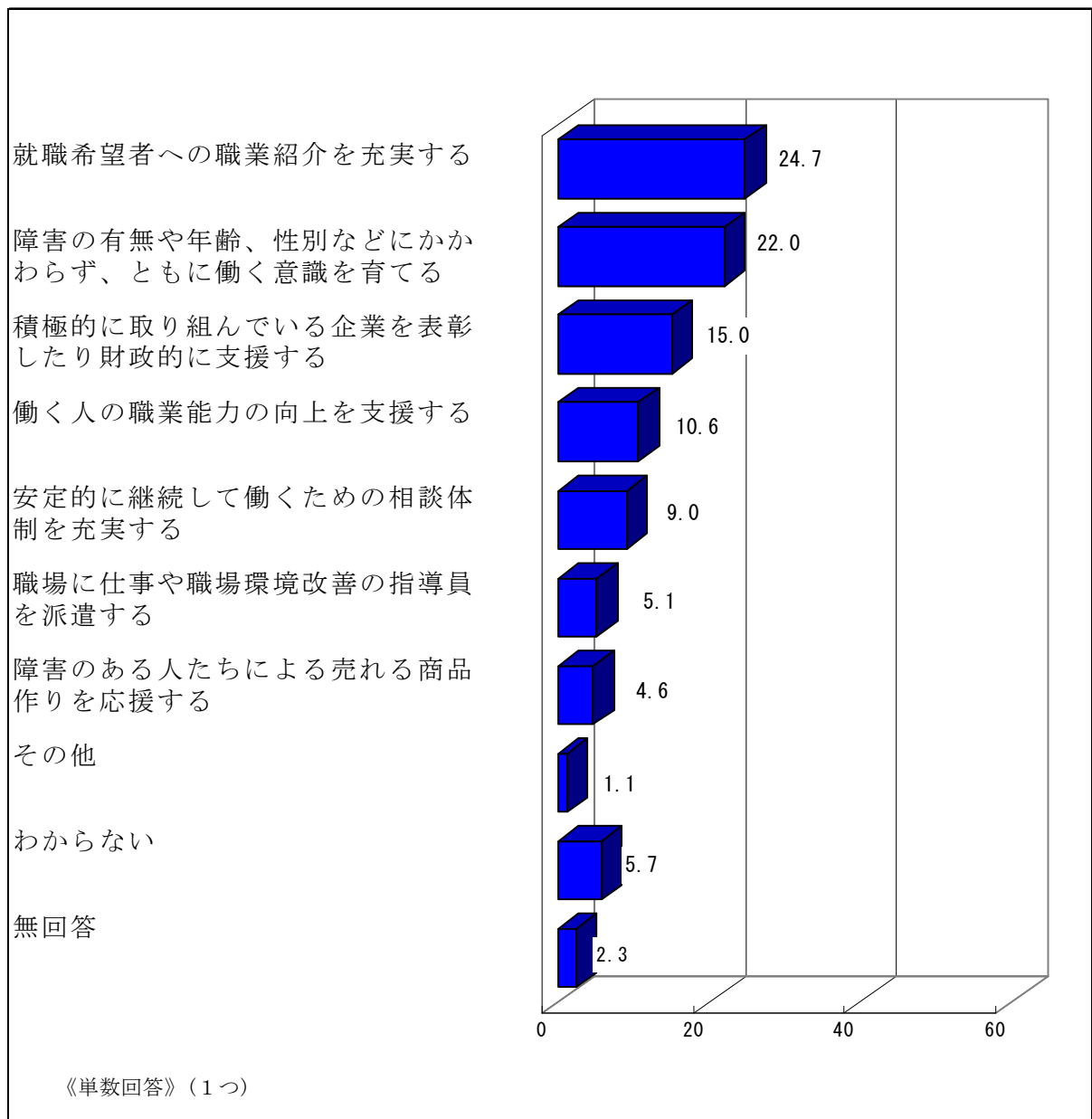
- **家族構成別** 乳児や幼児のいる世帯では「段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児や幼児がいる世帯では「段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる」が多い。また、乳児のいる世帯では「働く人の状況に応じて仕事をつくる」も多くなっている。

だれもが働けるようにするため、企業などが取り組むべきこと 【家族構成別】

	働く人の状況に応じて仕事をつくる	働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる	試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう	段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる	コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす	わからない+無回答
全 県	23.6	21.2	21.2	17.4	8.1	8.5
〔家族構成別〕						
乳 児あり	14.9	30.9	9.2	41.0	2.5	1.6
幼 児あり	14.1	20.5	19.1	35.3	9.1	1.9
小学生あり	21.2	22.8	20.2	20.7	12.5	2.7
中学生あり	29.5	20.0	20.1	14.4	11.3	4.7
高校生あり	29.5	18.1	20.7	17.3	6.8	7.7
65歳以上あり	25.0	21.2	20.2	14.7	7.2	11.7
障害者あり	28.7	23.2	17.9	13.1	9.1	8.0
あてはまる人なし	21.4	22.8	23.8	16.6	8.9	6.6

(3) だれもが働ける環境にするために県が支援すべきこと



- 「就職希望者への職業紹介を充実する」「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が多い

だれもが働ける環境にするため、県が特に支援すべきと思われる項目を聞いたところ、最も多いのは「就職希望者への職業紹介を充実する」(24.7%)で2割台半ば、次いで「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」(22.0%)が2割を超えて続いている。以下、「積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する」(15.0%)、「働く人の職業能力の向上を支援する」(10.6%)と続いている。

■ **地域別** 中播磨、但馬では「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が最も多い

地域別でみると、「就職希望者への職業紹介を充実する」が最も多いのは淡路(32.1%)で、3割を超えている。中播磨(27.5%)と但馬(27.7%)では「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が最も多い。

だれもが働ける環境にするため、県がバックアップすべきこと 【地域別】

	就職希望者への職業紹介を充実する	障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる	積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する	働く人の職業能力の向上を支援する	安定的に継続して働くための相談体制を充実する	職場に仕事や職場環境改善の指導員を派遣する	障害のある人たちによる売れる商品作りを応援する	その他	わからない+無回答
全 県	24.7	22.0	15.0	10.6	9.0	5.1	4.6	1.1	8.0
〔地域別〕									
神 戸	23.8	23.4	16.5	10.0	10.8	4.3	3.9	1.3	6.1
阪神南	21.1	20.6	14.7	13.7	6.9	8.3	4.9	1.5	8.3
阪神北	26.3	20.1	19.1	8.1	7.7	5.3	4.3	1.4	7.7
東播磨	26.8	18.1	15.1	10.6	8.3	5.7	6.0	0.8	8.7
北播磨	26.7	19.5	11.3	12.4	11.7	3.8	4.9	0.8	9.1
中播磨	24.3	27.5	14.2	6.0	8.7	5.0	3.7	0.0	10.5
西播磨	27.5	23.8	10.2	13.6	8.7	1.5	6.8	0.8	7.1
但 馬	25.4	27.7	12.4	13.4	7.2	1.3	3.3	1.0	8.5
丹 波	24.3	20.6	12.6	11.6	11.6	2.7	5.6	2.0	8.9
淡 路	32.1	19.5	5.7	10.2	10.2	4.1	5.7	0.4	12.2

■ **性別、性・年代別** 男性の70歳以上や女性の20歳代及び30歳代では「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が最も多い

性別でみると、「就職希望者への職業紹介を充実する」は男性(22.3%)より女性(26.9%)の方が多い。一方、「積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する」は男性(20.5%)が女性(11.5%)を9ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「就職希望者への職業紹介を充実する」は男性の20歳代(30.9%)や女性の50歳代(30.0%)及び60歳代(32.5%)で多い。また、「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」は男性の60歳代(25.4%)及び70歳以上(24.1%)や女性の20歳代(29.6%)及び30歳代(30.2%)で多く、男性の70歳以上や女性の20歳代及び30歳代では最も多くなっている。なお、「積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する」が最も多いのは、男性の30歳代(30.6%)で3割を超えている。

だれもが働ける環境にするため、県がバックアップすべきこと 【性別】 【性・年代別】

	就職希望者への職業紹介を充実する	障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる	積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する	働く人の職業能力の向上を支援する	安定的に継続して働くための相談体制を充実する	職場に仕事や職場環境改善の指導員を派遣する	障害のある人たちによる売れる商品作りを応援する	その他	わからない+無回答
全 県	24.7	22.0	15.0	10.6	9.0	5.1	4.6	1.1	8.0
〔性別〕									
男 性	22.3	21.0	20.5	10.5	9.0	5.3	3.2	1.3	6.9
女 性	26.9	22.8	11.5	10.5	8.5	4.9	5.7	0.7	8.4
〔性・年代別〕									
男・20歳代	30.9	20.3	18.5	6.9	8.8	11.0	2.6	0.7	0.4
30歳代	13.1	14.0	30.6	12.5	9.4	11.2	2.0	1.4	5.8
40歳代	21.3	18.0	26.4	14.8	8.8	7.8	2.0	0.0	0.7
50歳代	21.4	21.0	19.5	11.1	11.4	4.6	4.3	2.2	4.5
60歳代	26.3	25.4	15.8	8.1	8.2	2.3	4.6	2.4	6.9
70歳以上	22.2	24.1	15.7	8.8	6.8	1.1	2.2	0.0	19.0
女・20歳代	25.7	29.6	18.3	5.8	3.9	6.9	3.8	1.2	4.9
30歳代	22.1	30.2	18.0	7.9	4.8	8.3	5.4	1.6	1.9
40歳代	29.4	24.1	12.8	12.0	7.8	7.5	3.4	0.7	2.6
50歳代	30.0	18.6	11.6	10.5	11.0	1.9	6.9	1.0	8.5
60歳代	32.5	21.1	6.3	13.4	8.9	3.1	5.0	0.0	9.7
70歳以上	19.4	18.0	5.9	11.2	11.7	4.2	8.9	0.2	20.7

■ 家族構成別 障害者のいる世帯では「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、高校生のいる世帯では「就職希望者への職業紹介を充実する」が多く、3割台半ば。また、障害者のいる世帯では「障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる」が多くなっている。

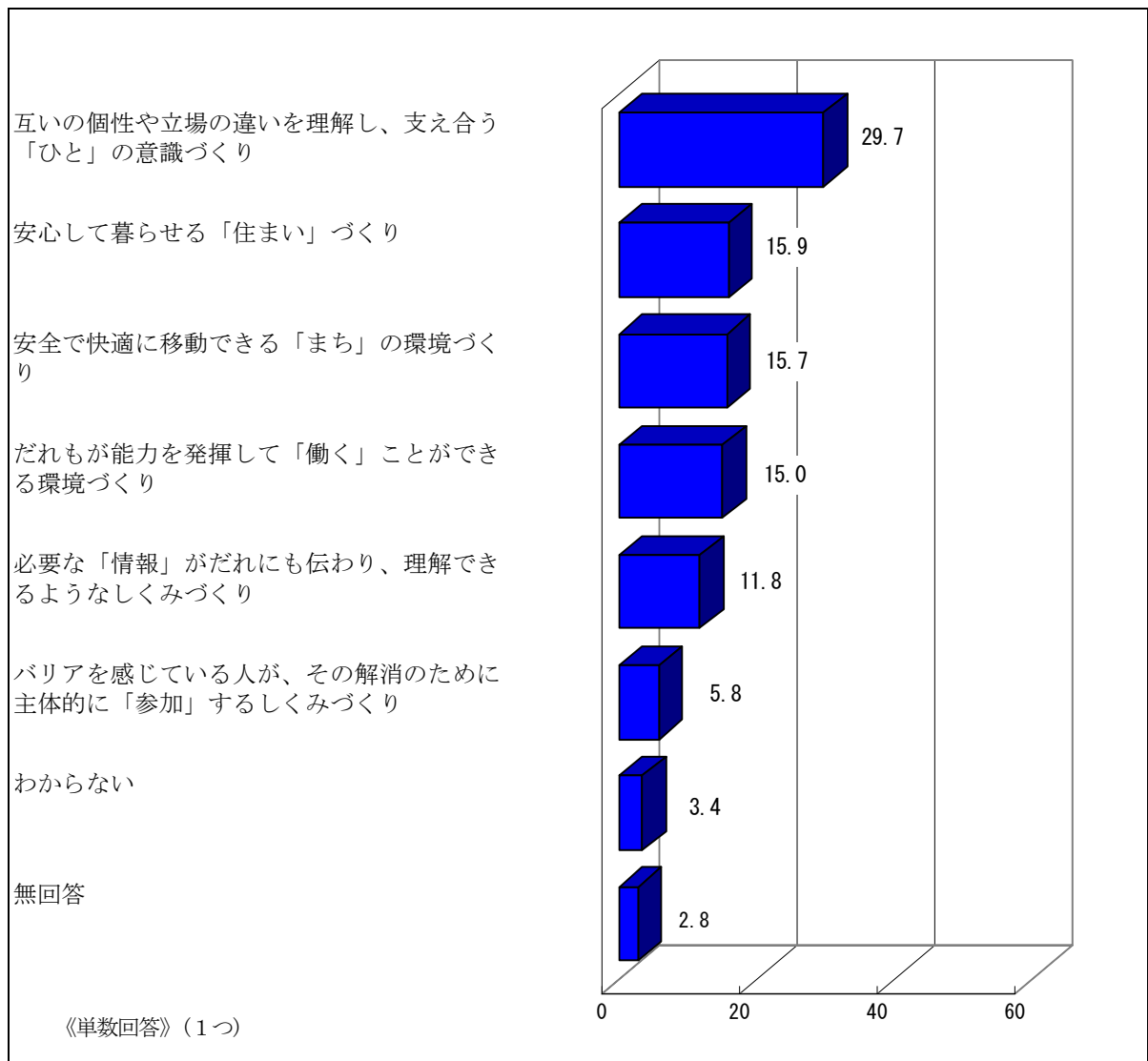
だれもが働ける環境にするため、県がバックアップすべきこと 【家族構成別】

	就職希望者への職業紹介を充実する	障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる	積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する	働く人の職業能力の向上を支援する	安定的に継続して働くための相談体制を充実する	職場に仕事や職場環境改善の指導員を派遣する	障害のある人たちによる売れる商品作りを応援する	その他	わからない+無回答
全 県	24.7	22.0	15.0	10.6	9.0	5.1	4.6	1.1	8.0
〔家族構成別〕									
乳 児あり	29.7	27.5	15.7	10.5	2.9	1.6	8.9	0.0	3.2
幼 児あり	21.6	18.2	23.1	11.3	5.0	9.4	4.9	2.1	4.3
小学生あり	24.2	23.3	15.7	11.8	8.6	6.8	6.2	0.9	2.7
中学生あり	26.1	24.2	15.8	12.2	8.2	7.1	4.5	0.0	2.1
高校生あり	34.2	23.4	11.9	9.6	6.0	5.5	4.2	0.7	4.5
65歳以上あり	26.1	22.1	11.9	9.4	8.9	3.6	5.4	0.9	11.7
障害者あり	23.1	27.9	13.0	9.8	7.6	4.6	6.6	1.4	6.1
あてはまる人なし	25.3	19.1	17.8	10.9	10.2	6.7	4.4	0.8	4.9

5 バリアのない社会環境づくりのための一人ひとりの行動

- バリアのない社会環境づくりに重要なことの1位は、「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」
- 身近でできそうなことの上位は、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」、「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」、「隣近所のお年寄りなどに声をかける」

(1) バリアのない社会環境づくりに重要なこと



■ 「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」が最も多い

バリアのない社会環境づくりに最も重要と思われることを聞いたところ、最も多いのは「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」(29.7%)で約3割となつて

いる。「安心して暮らせる『住まい』づくり」(15.9%)、「安全で快適に移動できる『まち』の環境づくり」(15.7%)、「だれもが能力を発揮して『働く』ことができる環境づくり」(15.0%)がほぼ同率で続き、以下、「必要な『情報』がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり」(11.8%)、「バリアを感じている人が、その解消のために主体的に『参加』するしくみづくり」(5.8%)の順となっている。

■ **地域別** 「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」は、丹波で多い

地域別でみると、「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」は阪神北(37.8%)、中播磨(33.5%)、丹波(40.5%)で多く、特に丹波では4割を超える。「安心して暮らせる『住まい』づくり」は但馬(20.5%)や淡路(20.3%)、「だれもが能力を発揮して『働く』ことができる環境づくり」は北播磨(21.1%)で多くなっている。

バリアのない社会環境づくりに重要なこと [地域別]

	互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり	安心して暮らせる『住まい』づくり	安全で快適に移動できる『まち』の環境づくり	だれもが能力を発揮して『働く』ことができる環境づくり	必要な「情報」がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり	バリアを感じている人が、その解消のために主体的に「参加」するしくみづくり	わからない+無回答
全 県	29.7	15.9	15.7	15.0	11.8	5.8	6.2
[地域別]							
神 戸	24.7	15.6	18.6	16.9	13.4	7.4	3.5
阪神南	28.9	15.2	17.2	15.7	8.8	5.4	8.8
阪神北	37.8	16.7	16.7	9.6	12.4	4.3	2.4
東播磨	28.3	15.1	15.1	16.2	12.5	5.7	7.2
北播磨	30.1	16.5	7.5	21.1	12.0	4.9	7.9
中播磨	33.5	15.1	15.6	11.0	10.1	2.8	12.0
西播磨	30.9	16.6	10.2	15.5	11.3	10.2	5.2
但 馬	29.3	20.5	11.4	13.7	13.0	6.2	5.8
丹 波	40.5	15.0	8.0	12.6	12.3	5.0	6.7
淡 路	28.9	20.3	11.0	16.7	13.0	3.7	6.5

■ **性別、性・年代別** 「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」は、女性の20歳代と40歳代が多い

性別でみると、ほとんどの項目で大きな差はないが、「必要な『情報』がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり」では男性(9.6%)より女性(13.3%)で多くなっている。

性・年代別でみると、「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」は女性の20歳代(40.2%)で4割を超えており、男性の20歳代(34.3%)及び50歳代(33.7%)や女性の30歳代(34.6%)及び40歳代(39.2%)で多くなっている。「安心して暮らせる『住まい』づくり」は男性の70歳以上(23.6%)や女性の60歳代(22.1%)及び70歳以上(23.2%)で多く、「安全で快適に移動できる『まち』の環境づくり」は男性の20歳代(18.7%)、30歳代(19.0%)、40歳代(21.5%)や女性の20歳代(20.4%)及び30歳代(19.4%)が多い。

バリアのない社会環境づくりに重要なこと [性別] [性・年代別]

	互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う「ひと」の意識づくり	安心して暮らせる「住まい」づくり	安全で快適に移動できる「まち」の環境づくり	だれもが能力を発揮して「働く」ことができる環境づくり	必要な「情報」がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり	バリアを感じている人が、その解消のために主体的に「参加」するしくみづくり	わからない+無回答
全 県	29.7	15.9	15.7	15.0	11.8	5.8	6.2
[性別]							
男 性	29.6	16.0	16.4	15.5	9.6	6.7	6.0
女 性	30.3	15.6	15.1	14.9	13.3	5.0	5.8
[性・年代別]							
男・20歳代	34.3	21.6	18.7	12.8	10.5	0.5	1.7
30歳代	30.8	15.3	19.0	20.5	6.7	3.9	3.8
40歳代	29.6	13.8	21.5	18.0	7.3	8.4	1.4
50歳代	33.7	13.5	16.9	16.2	8.2	8.6	2.9
60歳代	23.4	12.9	17.4	15.8	15.4	7.2	7.9
70歳以上	28.7	23.6	7.3	9.6	8.3	6.8	15.7
女・20歳代	40.2	4.6	20.4	9.2	13.1	9.9	2.6
30歳代	34.6	15.7	19.4	9.4	9.6	8.9	2.4
40歳代	39.2	13.5	10.9	16.7	13.0	5.0	1.7
50歳代	25.1	11.1	15.2	22.1	13.1	4.9	8.6
60歳代	26.8	22.1	15.2	9.9	16.4	3.4	6.2
70歳以上	22.9	23.2	11.3	17.2	14.3	0.4	10.7

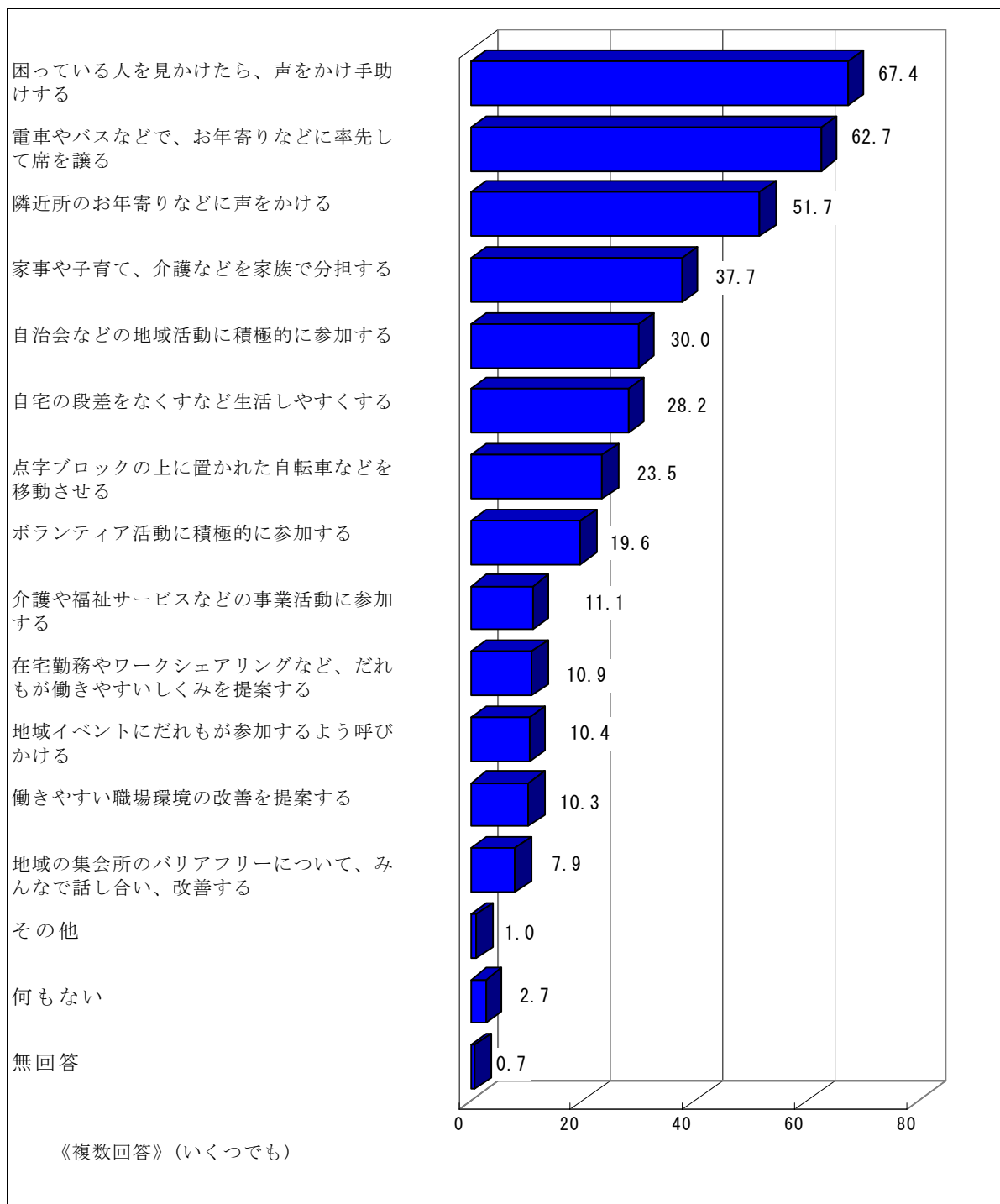
■ 家族構成別 「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」は、中学生や高校生がいる世帯で多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、各世帯とも「互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う『ひと』の意識づくり」が多い。また幼児がいる世帯では「安心して暮らせる『住まい』づくり」、乳児がいる世帯では「安全で快適に移動できる『まち』の環境づくり」も多くなっている。

バリアのない社会環境づくりに重要なこと [家族構成別]

	互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う「ひと」の意識づくり	安心して暮らせる「住まい」づくり	安全で快適に移動できる「まち」の環境づくり	だれもが能力を発揮して「働く」ことができる環境づくり	必要な「情報」がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり	バリアを感じている人が、その解消のために主体的に「参加」するしくみづくり	わからない+無回答
全 県	29.7	15.9	15.7	15.0	11.8	5.8	6.2
[家族構成別]							
乳 児あり	29.0	6.6	22.2	11.8	13.2	16.7	0.4
幼 児あり	29.7	20.1	19.7	13.9	10.7	3.6	2.3
小学生あり	32.1	17.2	13.2	18.6	9.5	7.0	2.5
中学生あり	37.9	12.3	18.2	16.3	4.2	7.3	3.8
高校生あり	36.3	12.5	14.7	15.4	11.0	4.7	5.4
65歳以上あり	29.2	17.8	13.9	14.6	12.3	4.3	8.1
障害者あり	27.6	15.8	17.8	14.4	11.4	6.7	6.2
あてはまる人なし	28.9	14.2	18.8	14.6	12.7	6.4	4.6

(2) 身近でできそうなこと



- 上位は、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」「隣近所のお年寄りなどに声をかける」

身近でできそうと思われる項目を聞いたところ、最も多いのは「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」(67.4%)で6割半を超える。次いで「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」(62.7%)が6割を超えており、以下、「隣近所のお年寄りなどに声をか

ける」(51.7%)、「家事や子育て、介護などを家族で分担する」(37.7%)、「自治会などの地域活動に積極的に参加する」(30.0%)、「自宅の段差をなくすなど生活しやすくする」(28.2%)などが続いている。

■ **地域別** 「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」は、阪神北で7割を超える

地域別でみると、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」は阪神北(71.3%)、西播磨(70.6%)で多く、7割を超えている。また、阪神北では「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」(73.2%)も7割を超えている。その他、「隣近所のお年寄りなどに声をかける」は但馬(61.9%)や丹波(62.8%)、「自治会などの地域活動に積極的に参加する」は西播磨(40.8%)や丹波(41.5%)で多くなっている。

身近でできそうなこと (地域別)

	困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする	電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る	隣近所のお年寄りなどに声をかける	家事や子育て、介護などを家族で分担する	自治会などの地域活動に積極的に参加する	自宅の段差をなくすなど生活しやすくする	点字ブロックの設置された自転車などを移動させる	ボランティア活動に積極的に参加する	介護福祉社サービスなどの事業活動に参加する	在宅勤務やワークシェアリングなど、だれもが働きやすい仕組みを提案する	地域イベントに積極的に参加する	働きやすい職場環境の改善を提案する	地域の集会所のバリアフリーについて、みんなで話し合い、改善する	その他	何もない	無回答
全 県	67.4	62.7	51.7	37.7	30.0	28.2	23.5	19.6	11.1	10.9	10.4	10.3	7.9	1.0	2.7	0.7
(地域別)																
神 戸	69.7	64.5	48.9	32.5	24.2	24.7	22.1	16.5	9.5	10.8	8.2	10.4	5.2	1.3	3.0	0.0
阪神南	67.2	64.7	47.1	42.2	24.0	23.0	21.6	20.6	11.8	13.7	7.8	12.3	9.8	0.5	2.5	1.0
阪神北	71.3	73.2	48.8	38.8	31.6	29.2	24.9	13.9	8.6	11.5	11.5	8.1	6.2	1.9	2.4	0.5
東播磨	65.7	63.0	52.1	41.1	34.7	30.2	27.9	22.3	11.3	9.4	11.3	6.8	6.8	1.1	2.6	0.8
北播磨	67.3	56.4	55.3	36.5	35.3	34.2	18.8	22.9	11.3	9.0	16.2	14.3	13.9	0.4	3.0	1.1
中播磨	60.6	60.1	58.7	40.8	37.6	33.5	27.5	23.4	13.8	11.0	10.1	11.0	7.8	0.5	0.9	1.4
西播磨	70.6	51.3	58.5	38.5	40.8	34.7	26.4	22.6	12.8	9.1	12.8	12.8	11.3	0.4	4.2	1.1
但 馬	64.2	53.1	61.9	32.2	33.2	32.6	21.2	27.0	15.6	8.5	15.0	7.5	12.1	0.7	2.9	0.3
丹 波	67.8	51.2	62.8	35.9	41.5	31.9	23.9	26.6	13.0	10.6	14.0	12.6	14.6	1.7	4.0	1.7
淡 路	58.1	45.5	54.5	37.4	25.2	32.9	16.3	18.3	13.0	6.5	16.3	7.7	7.3	0.8	4.1	1.2

■ **性別、性・年代別** 「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」は、女性の20歳代から40歳代で7割台半ばを超える

性別でみると、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」や「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」、「隣近所のお年寄りなどに声をかける」は男性より女性の方が多。一方、「自治会などの地域活動に積極的に参加する」や「ボランティア活動に積極的に参加する」は男性の方で多くなっている。

性・年代別でみると、「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」は女性の20歳代から40歳代で多く7割台半ばを超えている。また、「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」も女性の20歳代から40歳代で多くなっており、女性の70歳以上では、「隣近所のお年寄りなどに声をかける」(62.9%)が最も多くなっている。その他、「家事や子育て、介護などを家族で分担する」は男女とも若い層で多くなっているのに対し、「自治会などの地域活動に積極的に参加する」は男性の60歳代(44.0%)、70歳以上(48.5%)、女性の60歳代(41.6%)などの年代の高い層で多くなっている。

身近でできそうなこと (性別) (性・年代別)

	困っている人を見かけたから、声をかけ手助けする	電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る	隣居のお年寄りなどに声をかける	家事や子育て、介護などを家族で分担する	自治会などの地域活動に積極的に参加する	自宅の段差をなくすなど生活しやすいにする	点字ブロックの上で置かれた自転車などを移動させる	ボランティア活動に参加する	介護福祉サービスなどの事業活動に参加する	在宅勤務やワークシェアリングなども働きやすいしくみを提案する	地域イベントにも参加する	働きやすい職場の改善を提案する	地域の集会所のバリアフリーについて、みんなで話し合い、改善する	その他	何もない	無回答
全 県	67.4	62.7	51.7	37.7	30.0	28.2	23.5	19.6	11.1	10.9	10.4	10.3	7.9	1.0	2.7	0.7
(性別)																
男 性	63.3	60.4	44.5	34.4	34.6	28.5	23.0	21.0	10.0	11.6	12.6	12.0	7.9	1.8	3.2	0.7
女 性	70.4	64.3	56.4	40.2	27.1	28.3	23.9	18.9	11.6	10.3	8.8	9.1	7.9	0.4	2.1	0.6
(性・年代別)																
男・20歳代	63.5	73.7	47.1	51.9	19.1	24.2	26.2	27.5	13.5	16.8	15.7	15.2	9.0	8.3	3.4	0.0
30歳代	64.5	61.7	38.0	46.6	25.0	20.9	14.0	16.0	7.1	7.6	12.4	14.4	1.8	1.3	1.8	0.0
40歳代	57.6	62.2	35.4	45.0	23.2	25.8	26.5	16.7	5.1	10.2	6.5	8.6	5.1	0.0	3.1	0.0
50歳代	65.9	65.7	43.3	30.8	33.6	30.8	24.0	22.4	9.8	16.0	11.7	13.5	9.3	1.6	0.7	0.5
60歳代	66.1	67.2	51.0	31.8	44.0	29.7	24.4	20.6	11.7	9.3	15.8	12.1	7.7	0.8	4.5	1.3
70歳以上	60.3	36.3	49.9	16.8	48.5	34.0	22.6	23.7	13.4	10.0	14.2	9.7	12.3	2.6	6.3	1.6
女・20歳代	75.6	78.0	44.2	62.5	10.3	18.2	29.9	17.0	6.8	6.4	3.4	10.1	0.8	0.0	0.8	0.0
30歳代	76.8	75.6	44.4	48.2	15.0	19.6	30.9	10.3	9.0	11.7	3.3	6.6	2.3	0.4	0.1	1.0
40歳代	75.5	76.7	57.6	50.5	22.4	20.8	15.8	18.5	11.0	8.2	10.7	9.3	9.6	0.0	0.0	0.1
50歳代	71.2	67.3	63.5	41.3	29.9	32.3	21.8	20.9	14.1	12.9	9.4	13.1	6.6	0.0	2.1	0.7
60歳代	66.8	64.5	57.9	31.2	41.6	30.2	31.7	28.2	14.2	11.6	15.9	6.7	12.8	0.1	3.0	0.1
70歳以上	59.3	29.1	62.9	17.1	33.7	42.1	15.7	15.9	11.3	8.3	7.3	7.6	12.3	1.9	5.7	1.4

■ 家族構成別 乳児がいる世帯では「家事や子育て、介護などを家族で分担する」が多い

特定の構成員を含む家族ごとにみると、乳児のいる世帯では「家事や子育て、介護などを家族で分担する」や「電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る」が多く、小学生がいる世帯や幼児がいる世帯では「困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする」が多くなっている。

身近でできそうなこと (家族構成別)

	困っている人を見かけたから、声をかけ手助けする	電車やバスなどで、お年寄りなどに率先して席を譲る	隣居のお年寄りなどに声をかける	家事や子育て、介護などを家族で分担する	自治会などの地域活動に積極的に参加する	自宅の段差をなくすなど生活しやすいにする	点字ブロックの上で置かれた自転車などを移動させる	ボランティア活動に参加する	介護福祉サービスなどの事業活動に参加する	在宅勤務やワークシェアリングなども働きやすいしくみを提案する	地域イベントにも参加する	働きやすい職場の改善を提案する	地域の集会所のバリアフリーについて、みんなで話し合い、改善する	その他	何もない	無回答
全 県	67.4	62.7	51.7	37.7	30.0	28.2	23.5	19.6	11.1	10.9	10.4	10.3	7.9	1.0	2.7	0.7
(家族構成別)																
乳 児あり	72.8	73.0	36.4	74.8	18.8	25.0	18.5	11.9	9.8	6.7	2.2	6.0	5.6	0.4	0.0	0.4
幼 児あり	73.8	68.3	49.9	53.5	22.9	22.8	27.5	12.6	10.2	5.7	7.4	10.0	4.3	0.8	1.1	0.3
小学生あり	74.5	69.1	51.5	49.9	30.8	22.3	30.1	14.9	9.2	11.6	11.7	10.3	6.1	0.1	0.7	0.1
中学生あり	71.0	67.9	59.8	47.1	28.4	26.4	22.0	18.4	9.1	17.0	14.8	7.3	7.0	0.0	0.1	0.1
高校生あり	65.2	60.1	59.8	47.9	32.2	26.5	20.3	21.3	13.8	9.5	14.2	10.6	8.0	0.2	1.5	0.7
65歳以上あり	64.3	52.1	55.6	33.1	35.9	34.0	22.4	21.4	11.7	9.2	11.7	10.1	10.8	1.1	4.2	0.8
障害者あり	68.0	58.0	49.5	38.8	29.7	36.9	28.1	18.7	17.3	14.6	10.8	15.5	11.8	0.7	2.2	1.3
あひままる人なし	69.8	74.5	47.1	36.8	28.3	22.2	25.5	22.7	10.7	12.7	9.0	10.3	5.9	1.4	1.3	0.3